

紫友同窓会 会報

紫友同窓会の事業と活動 (2023~2024)
特集 我ら 小石川 農業人



紫友同窓会 総会／祝賀パーティー 「さらにつながる」

五中小石川創立105周年式典（総会・祝賀パーティー）を、昨年10月22日（日）に開催しました。

2018年の「創立百周年」で築かれたクラブや学年・クラスなどの横と縦の関係・繋がりを広げ、次の110周年以降へとつなげていくきっかけにとの思いから企画し、前日と当日には総会の準備と実施のため、今春卒業の19歳から74歳まで40名以上の同窓生が会場設営や受付・誘導などに参集しました。すべての年代の皆様のご協力に厚く御礼を申し上げます。（12・13ページに詳細）



創立 105 周年式典・紫友同窓会総会（母校 3F アリーナ）



総会 戸叶会長挨拶



総会 来賓祝辞 鳥屋尾校長



祝賀パーティー（文京グリーンコート 2F キャフェテリア）



総会 PTA 合唱部「小石川カンターレ」の合唱

CONTENTS

▶目次

02 紫友同窓会総会の開催

03 会長挨拶 戸叶司武郎(027C)

04 校長挨拶 鳥屋尾史郎校長

05 副校長挨拶 宮山尚之後期課程副校長

06 紫友同窓会の事業と活動
2024年度評議委員会報告(各局の活動・創立105周年事業等)

15 2023年度決算報告

16 2024年度予算案

17 役員一覧・組織図

18 特集 我ら小石川農業人

- ①菅原文子さん(012C)
- ②中村良行さん(029F)
- ③高瀬創研さん(041H)
- ④小川陸真さん(022E)
- ⑤安城守英さん(053F)・あゆみさん(058D)

26 同窓生訪問

名門政治家一族に生まれて
鳩山友(由)紀夫さん(017H)

33 先生お元気ですか 坂之井不二雄先生

34 吾が校友の精神を

①私の高野山紀行
蛭間マサ子さん(022C)

②植物学者・鈴木和雄君のこと
千葉邦彦さん(022D)

③「国際人になれ！小石川人であれ！」
澤田和哉さん(032B)

43 今、学校では

44 PTA活動報告
PTA会長 村上雅彦さん

45 旧職員だより 万田友和先生

46 大学合格者一覧

47 同期会・クラス会

53 クラブつながり 紫友美術会

54 小石川つながり

- ①紫友まち歩き
- ②紫友経済人交流会
- ③バスケ部OB有志 同窓生からのお便り

60 事務局だより

62 逝去者一覧

表紙の言葉 横澤千恵さん(023C)

63 編集後記

会長挨拶

他のどこにもない、 小石川らしい同窓会を作っていくために

紫友同窓会 会長 戸叶司武郎 (027C)



日本の各地でコロナウィルスの感染がおさまらず、対応のためにいまもご尽力されている医療関係者の皆様に心からの敬意と感謝を申し上げます。そしてウクライナ、パレスチナ・ガザ地域の紛争により被害にあわれたすべての方々に深い哀悼の意を表します。

○ 105周年へのご参加とご協力に感謝します

昨年10月22日に105周年を学校で開催できました。10代から70代まで40名以上の有志がスタッフに参加くださり厚く御礼申し上げます。110周年は036-040期の方が担当し、幹事年齢が60代前半にシフトします。自由な発想で110周年の企画運営を楽しんでいただけることを願っています。

○ 会長任期最終年度となりました

俵前会長の急逝を受けて会長職を引き継いだのが令和元年5月。来年の評議委員会で私の任期6年間の満了です。会長としてのご挨拶は今号が最後なので5年間を振り返りたいと思います。歴代の中で実務型の会長は私が初めてのはず。百周年を機に「静」から「動」へ舵を切った同窓会の動きに驚いた方、又はいまでも戸惑っている方がいるかもしれません。

○ 過去百年の事績を壽ぎ伝統を継承する。

60代以上の皆さん、昔は良かったと思うことが多々ありませんか？ 懐かしいからではなく、どうも世の中の仕組みや風潮に違和感がある。30代から50代で海外を対象に仕事をしている皆さん、日本と日本人の力量が先細りになる予感を抱いていませんか？ 飛び抜けた人は時折出るものの、どこの国が相手でもしっかり仕事ができる日本人の絶対数が足りない。そんな漠然とした気持ちをもつ方はいまでも多いと感じます。

今すぐ何かを変革できるわけではない。でも我々の担ってきた小石川の伝統（の良い部分）を後輩に繋げば世の中に貢献できるかも。明確な解法はないが、同窓会が変わると未来が変わるかも……なんとなく感じている思いが百周年を機に高まり、1億円の寄付という形になった、と捉えています。同窓会理事会はこの思いを形にするべく、新しい企画を実施してきました。

○ 次の百年に向けた同窓会機能をつくる

85周年から続く紫友まち歩きに加え、紫友スタジオ開設（昨年度は170回の利用）。ニュースレター配信。同窓生講師によるセミナー（オンライン含む）実施。経済人交流会、Global

懇談会、医療紫友会の発足。みらい基金返礼品。学年同期会等支援、Webクラス会支援。さまざまな企画を立ち上げました。学校との連携では植樹祭、創作展への出展（小石川Pjと伊藤長七研究会）。また紫友デジタルアーカイブも開設。それぞれの企画について、皆様のご意見・ご感想をぜひお寄せください。

○ 次の百年を担う若者が母校から巣立ってほしい。

同窓生からノーベル賞受賞者や偉大な経営者がでたら素晴らしいですが、多くの、できればすべての同窓生が小石川三校と自由の精神を持って多種多様な世界で生き生きと活躍する。これが「次の百年を担う」ことではないでしょうか。

同窓会から現役生への支援はSSHや各種コンクール参加費用から、クラブ活動備品購入や遠征費用、楽器・芸能祭音響備品貸与まで、リベラルアーツを念頭に学校生活全般をサポートしてきました。支援内容は同窓会公式ホームページをぜひご覧ください。

宮山副校長（045B）のご尽力により現役生との連携も向上しています。国際ロボコンFRCに応募するためにクラウドファンディングを立ち上げた5年生、AFSに採用されフィリピン留学を選んで現地の貧困問題を調査研究しに行く4年生。彼らからの要望を受け、同窓会から活動支援や情報・人脈を提供して大変感謝されました。高い「立志」を持った現役生と交流できたことが何より嬉しいです。

すべての活動は皆様からの寄付とご協力のおかげです。心より感謝申し上げますとともに引き続きご支援をお願い申し上げます。

○ 会長は立候補に基づく選挙で決まります

私は新企画立ち上げに注力してきましたが、各活動の取捨選択や改善は次の会長に委ねます。会長職を通していま最も感じているのは、同窓生ひとりひとりが本当に魅力的なこと。会ってお話をうかがうと面白く、とにかく楽しく、そして小石川愛に溢れた方がなんと多いことか。たくさんの同窓生と知り合えたことは何物にも代えがたい財産です。

5年間の試行錯誤の中で積み残しもあります。ご寄付をいただいた皆様、大学模擬講義や研究室訪問、SSH支援をいただいた方に感謝の手紙やメールをまだ全員にお送りできておりません。この場を借りてお詫び申し上げます。

このやりがいのある、そして楽しい会長職を引き継いでくださる方の立候補をお待ちしています。そして皆様には同窓会活動へのご協力とともに、友人で会長に向いている人の推薦をお願いいたします。

校長挨拶

ごあいさつ

東京都立小石川中等教育学校 校長 とやお鳥屋尾史郎

紫友同窓会の皆様には、日頃より多大なご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。校長の鳥屋尾史郎です。小石川での校長4年目を迎えました。

今年度は年度当初からコロナ禍前の通常の教育活動を実施することができるようになりました。4月最初の始業式では、私の着任後初めて、生徒全員が体育館アリーナに整列しての実施としました。当たり前を当たり前にするありがたさを強く感じながら講話を行いました。新入生と在校生との対面式や、部活動の紹介も体育館アリーナで対面により実施しました。8月のオーストラリア・アデレードでの海外語学研修や1月のシンガポール海外研修旅行を始めとする宿泊行事も、9月の体育祭、芸能祭、創作展の行事週間も予定通り実施いたしますし、スーパーサイエンスハイスクールとしての研究成果発表会も通常通り開催いたします。通常開催の学校行事や研究活動の教育効果により、今年度はこれまで以上に生徒たちが活躍し、躍動する成果を同窓会の皆様に披露することができると確信しています。

また、今年度は新教育課程の完成年度にあたります。今回の教育課程は、スーパーサイエンスハイスクールであることと、中高一貫教育を実施していることとのメリットを最大限に生かし、全国にあまり例のない教育課程となっています。生徒たちの知的な好奇心を掻き立て、さらにレベルの高い教育成果が上がっていくと期待しています。現役生徒たちは、柔軟な発想力や創造性を発揮して、それぞれの興味、関心のある分野に取り組んでいます。こうした取り組みは理数分野だけではなく、特に最近はグローバルな視点で自分を磨いていきたい、活動をしてみたいと考える生徒が増えました。こうした生徒たちの欲求に、同窓会に皆様には本当に真摯に相談に乗っていただき、適切なアドバイスやサジェスションをいただいています。本当にありがたいことで、校長としてこの場をお借りしてあらためて御礼を申し上げます。

昨年度は、創立105周年記念式典と祝賀会に出席させていただき、大勢の同窓生にお会いすることができました。小石川の卒業生である皆様が、様々な分野の第一線でご活躍であることをあらためて感じる事が



できました。現役の生徒たちが、こういうことに取り組みたいとか、こんなことを将来やってみたいということに対して、どういう準備をすればよいか、どんな進路を選択し、そのために大学で何を学べばよいか、経験者の皆様からは引き続きお知恵とアドバイスを拝借したいと考えています。

さらに昨年度も同窓会からは部活動に必要な備品、道具類、生徒自治の活動に必要な様々な機材なども、ご支援いただきました。部活動は各部とも活発に活動し成果を上げることができました。兼部する生徒が多いことは小石川の特長で、一人の生徒が複数の部活動に所属し、それぞれの部で同窓会からの支援の道具を使わせていただいているようなこともあります。また、機材類のご支援により、行事週間の音響や中継がスムーズに進行することもできました。このことについても厚く御礼申し上げます。

今年度も教職員一同力を合わせて、生徒たちのために最大限の努力を行ってまいります。これまでと同様にご支援とご協力をいただきたく、どうかよろしくお願いたします。

副校長挨拶

副校長として見た小石川の教育

後期課程副校長 宮山 尚之



紫友同窓会の皆様、ならびに一般財団法人紫友同窓会の皆様には、日頃より教育活動に対する様々なご支援をいただきありがとうございます。

昨年の4月に小石川中等教育学校に着任し、今年度もご縁があって副校長として引き続き勤務しております。同窓会の皆さまには卒業生としてではなく、1年間副校長として見た小石川の教育をお伝えしたいと思います。

まず、授業。生徒が前向きに取り組む姿、活発な意見交換の場面、知識を受け入れるのではなく、「なぜ」を大切に作る姿勢、そして生徒たちの期待に応えようと努力する教員の姿があります。教養を積み、学び続ける先生方の姿勢や熱意によって小石川は支えられていること実感しています。

小石川フィロソフィー（6年間を通した課題研究）では1年次は言語スキル、2年次では統計的数量スキル、3年次ではプレ課題研究と後期課程の課題研究としての基礎を身につけます。4年次より各自テーマを設定し研究を始めることとなります。生徒たちは思い思いに自らの興味関心のまま、文系理系といった進路に関係なく課題を設定し、まさに小石川教養主義の根幹をなす研究を行っています。

小石川教養主義はリベラルアーツとして、限定された専門分野にとらわれず、また大学受験に必要なだからといった近視眼的な思考でない解放された学びとして小石川に根付いています。また、3年次には全員オーストラリアに2週間のホームステイを行い、英会話能

力が飛躍的に向上します。このホームステイには生徒の努力もありますが、英語科と学年の教員を中心とした多くの事前準備と熱意のある指導があってこそその成功する行事となっています。そして5年次には、シンガポール海外研修旅行で生徒個々が小石川フィロソフィーでの研究の中間発表を英語で行うこととなります。

放課後の部活動でも、運動部、文化部と生徒が思い思いに部活動に励む姿が見られます。そこには運動部、文化部、得意不得意に関係なく自らの意思で興味のままする生徒が多く見られ、そして個々の研究や興味について批判などせず、お互いを尊重し合い自由に行動する姿があります。

最後に強調しておきたいことは、海外留学や部活動援助、SSH事業における講師紹介と学校内で処理が難しいことを紫友同窓会、一般財団法人紫友会の支援により可能となっていることです。支援は費用的なものにとどまらず、優秀な卒業生からの助言や学識的な支援もあり、同窓会なくして今の小石川の教育は維持できません。心から感謝を申し上げます。

小石川は都立中高一貫高の代表としてトップ校としての地位が確立されています。生徒達も興味関心のまま自由に学問に取り組んでいます。紫友同窓会の皆様からは小石川に対する愛を感じます。これからも本校の教育活動を温かく見守っていただきたく、また、一層のご支援、ご協力をいただければ幸いです。

これからの小石川生の活躍をご期待ください。

紫友同窓会からのお知らせ

◆ホームカミング・デー・パーティーは、9月15日（日）に開催予定です。

コロナ禍を乗り越えて、今年の「創作展」は9月14、15日に開催が予定され、昨年からは同窓生の入場が再開しました。今年の入場についても昨年同様、事前申請を必要とするかは調整中とのことです。（現在まだ正式決定されていません）同窓会では、創作展の開催にあわせて、環境企画局（小石川の杜PJ）及び伊藤長七研究委員会による共同展示ブースを開設する予定です。

また、9月15日（日）午後4時頃より、文京グリーンコート・イーストウイング2階カフェテリアで開催を予定しています。同窓生が卒業年次を超えて気軽に語り合う交流の場に、皆様お誘い合わせでのご来場をお待ちしております。

※創作展は、今後の状況次第では変更もありますので、それらが判明次第、ホームページやニュースレター等で暫時ご案内します。

※本パーティーでは昨年同様、母校卒業1年目から大学4年生までの参加費は先着30名まで無料です。事前に交流局までお申し込みください。→ k100kouryusitu@gmail.com



紫友同窓会の事業と活動(2023~2024)

—コロナ後の「交流と支援」その成果と課題—

2024 年度評議委員会開催報告

5月25日(土)、母校の多目的教室において各クラス選出の評議委員及び同窓会役員計54名の出席の下、2024年度評議委員会が開催されました。会議では各クラスから指名選出された評議委員の皆様、同窓会が進める各事業と予算決算及び組織・役員案について報告し、審議・承認を得るとともに、当会の活動全般について貴重なご意見をいただきました。

本会議に参集された評議委員の皆様、お忙しい中、大変ありがとうございました。

会議は戸叶紫友同窓会会長の挨拶の後、鳥屋尾校長先生からご挨拶を賜り、同窓会との学校側窓口である宮山副校長先生の紹介がありました。

その後、戸叶会長を議長として以下の報告、議案についての審議・承認を行いました。

- ◎2023年度 各局会事業活動報告
- ◎1号議案 決算報告・監査報告
- ◎2号議案 予算案
- ◎役員選任・退任の提案
- ◎その他質疑応答・提案説明

結果、各報告・議案ともに承認されました。



2024年度評議委員会(母校多目的ルーム)



会長の議案説明



鳥屋尾校長先生挨拶



新役員の紹介

交流局の活動

交流局長 戸叶司武郎 (027C)
局員 村上克己 (027B)
鈴木善博 (029C)
河村英敏 (035D)

◆交流活動支援企画

オンラインクラス会の開催を支援するため、交流局

アカウントでZoom会議を設定し参加方法を電話などでサポートします。数回の支援を実施し、現在は09Aクラス会が利用されています。

また、105周年盛り上げ活動の一環として、学年同期会や地域・職域紫友会などの分科会や懇親会の開催に対して、参加実人数1人あたり千円(上限10万円)を補助しました。025、038、064、074、医療紫友会、バスケ部OB/OG会有志(031-033)がこの支援を活用しました。特に074期は成人式パーティを学年同期会として開催し約140名が参加しました。

◆紫友スタジオ運用管理

2018年度に開設した紫友スタジオは、2019年度120回、コロナ期間中の2020、2021年度は56回、92回でした。2022年度は感染対策を遵守しながら計125回の利用がありました。2023年度は合唱やバンドの練習、クラス会・学年同期会開催のための幹事会、PTA「こいしかわら版」編集会議や「親時（おやじ）の会」、理事会として植樹祭、伊藤長七研究会、交流局打合せなどで計171回の利用がありました。特に、紫友オンラインセミナーでは配信基地&撮影スタジオとして重要な役割を担っています。予約の重複が多くなる中で、調整に応じてくださったグループの皆様にご礼申し上げます。

スタジオは学校正門前のビル(キャピタルコーヒー)地下1階にあり、電子ピアノ、ミキサー、スピーカー、50型モニター、A3プリンター、Wi-Fi環境などを揃え、Web会議やバンド練習、舞台稽古などに最適です。オンライン配信用のグリーンバックスクリーンやWebカメラなどの機材もあります。経費削減のため、常駐スタッフはいません。備品管理やスタジオ利用の課題はまだありますが、皆様のご利用をお待ちしております。申込み方法は下記をご参照ください。

<https://www.shiyu-dousoukai.jp/100shuunen/studio/stdio-manual.pdf>



◆紫友オンラインセミナー開催

2020年の開始した本活動は、基軸としてきた小石川の伝統である「リベラルアーツ」にビジネステーマも加えて企画しています。紫友スタジオを出て学校の視聴覚室から生配信するなど、新しいアイデアで意欲的に取り組みました。PTAや現役生の視聴者も増え、毎回おおよそ100名程度の参加申し込みを受けています。

今年度も各界で活躍される同窓生から講師をお願いし、年間4回程度のセミナーを開催していく予定です。クラスやクラブなどのお知り合いに周知くださるとともに、素敵な活動をされている方がいらっしゃいましたら、ぜひ、交流局までご紹介ください。(第1～14回の概要については、会報第48～51号をご覧ください)

◎各回のセミナー講師と概要

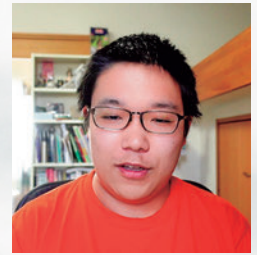
第15回：2023年9月23日(土)

変形菌と共に生きてきた—その美しく特異な「自己」から学ぶ

講師：増井真那さん(072C・中等9期) 変形菌研究者／慶應義塾大学先端生命科学研究所

5歳で変形菌(粘菌)と出会い、その不思議さに魅了された増井さん。変形菌とはアメーバの一種で、単

細胞生物でありながら広範囲に動き回ることができるだけでなく、自他を認識して他の変形菌とくっついたり離れたたり、時には乗り越えて行ったりもするという驚くべき特性を持っています。そんな変形菌の特異な生態と美しさ、魅力について写真や具体例を交えながら紹介され、小石川時代の経験が研究活動を行ううえでいかに生きていくかを語られました。



増井真那さん(072C・中等9期)

第16回：2023年11月11日(土)

地域スポーツ文化とプロスポーツビジネス

講師：白戸秀和さん(035H)

浦和レッドダイヤモンズ株式会社 ホームタウン本部本部長

新聞記者からプロスポーツビジネスの世界に転身し、浦和レッズへ。軍事訓練に始まりを持つ「運動」から人の心と身体を成熟させる「スポーツ」に世界が転換して



白戸秀和さん(035H)

いくなか、日本は後れをとっている現状に警鐘を鳴らす白戸さん。ビジネスとして利益を確保しつつも地域とともにスポーツ文化を育てる活動を大切にしている一例として、さいたま市と取り組んだ「スポーツシュレ」(スポーツの学校)づくり、技術中心ではなく心をはぐくむサッカースクール「浦和レッズハートフルクラブ」の活動などについて熱く語られました。

第17回：2024年2月24日(土)

未来を生きるための教養としての気象学

講師：隈健一さん(029F)

東京大学先端科学技術研究センター 気候変動科学分野シニアプログラムアドバイザー

気象は私たちの生活や社会に影響を与える身近な存在です。気象庁で特に台風の進路



隈健一さん(029F)

予想精度の改善や防災対策に関わった経験等を踏まえ、気象はどんなメカニズムで変化し、予報はどう導かれるのか、最近の異常とも感じる気候変動は地球温暖化と自然の変動が重なって起きていること、などを分かりやすく解説されました。また、気象災害を減らすために蓄積されたデータと最新技術で過去の災害に学ぶとともに、未来を生きるための教養として、一人

一人が気象への関心を持ち日頃から意識することの重要性を説かれました。

第18回：2024年4月28日（日）

日本にも難民が来ているってご存じですか？

～入管・難民問題と人権～

講師：見玉晃一さん（037E）
弁護士／全国難民弁護
団連絡会議 世話人／
マイルストーン総合法
律事務所 代表



見玉晃一さん（037E）

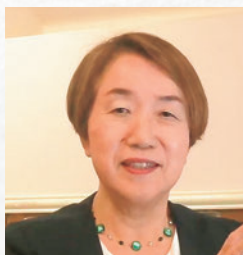
「難民の地位に関する条約」（難民条約）を1981年に批准した日本。しかし、日本は世界的に見て十分難民を受け入れていないだけでなく、難民認定を待つ人々に対しての人権擁護意識も欠けていると見玉さんは指摘します。全件収容主義のもと0歳児の子どもまでもが入管施設に収容されたり、入管収容施設内で十分な医療が提供されずに助けを求めても放置され亡くなったりといった、思わず目をそむけたい現実が写真や動画とともに紹介されました。「こうした現実をまずは知り、誰かに伝えることが“次の一歩”につながる」という言葉が印象的でした。

第19回：2024年6月1日（土）

医療・介護・福祉の現場でも使われています！

色を利用したコミュニケーションツール「色カルタクオリアゲーム®」の紹介と体験

講師：三浦（土屋）南海子さん（023A）
パーソナルカラーリスト／（一社）
彩色ケア色カルタ研究
所代表理事／NPO日
本パーソナルカラー協
会理事



三浦(土屋)南海子さん(023A)

三浦さんは医師から相談を受け、色を使った認知症ケアの手法として「色カルタクオリアゲーム®」を考案しました。このゲームは勝ち負けを競うのではなく、参加者がお題に対して連想した色のカルタを選び、Readerと呼ばれる進行役が聞き役に徹しながらその色を会話のキッカケにして、相手の記憶を掘り起こすコミュニケーションツールとして様々な現場で利用されています。ゲーム参加者は過去を思い出せる経験から自信が取り戻せること、Readerは相手を深く理解し、信頼関係を築いたり、相手に応じた介護ケアに役立てたりできることなど、多くの効果があることを実演とともに示されました。

【番外】 PTA 主催セミナー 2023年12月16日（土）

PTAが主催するセミナーで、同窓会理事の村上克己さん（027B）（元サンリオ・アメリカ CEO & CFO/元サンリオ・ブラジル取締役）が、「米国におけるサンリオキャラクタービジネスの軌跡」を学校多目的ホールで講演しました。前半はサンリオの歴史、ハローキティなど200種類を超えるキャラクタービジネス、映画「愛のファミリー」のアカデミー賞受賞などを写真とともに楽しく紹介されました。



村上克己さん（027B）

後半は閉鎖も視野に入れて出向した米国の子会社の成長と、黒人をモチーフにしたキャラクターが巻き起こした人種問題を真摯に対応して解決し、「進出企業の鑑」と評価されたことなど、米国への企業進出と企業経営の難しさを事例とともに解説されました。

サンリオキャラクターが好きな保護者も数多く受講され、コアなファンからのコアな質問にすべて応える村上さんの回答に会場は大いに盛り上がりました。

◆紫友まち歩き会

コロナ後、まちに待って再開したリアル「まち歩き」の第98回目は2023年8月11日に六本木ヒルズに集合し、麻布の大使館巡りをしました。99回目は105周年記念式典と同日、総会に出席してから板橋の水上バス発着場より「ゆらり舟旅～小豆沢から両国へ」。

記念の100回目は小石川正門から小石川生ゆかりの地を巡る、俵前同窓会長が残して逝った企画でした。また100回を記念していままでのまち歩き報告を編集した記念誌も完成しました。101回目は3月2日に板橋区の郷土資料館や美術館や赤塚植物園など区内の名所旧跡を巡りました。詳細は54・55ページに、また過去の活動内容は同窓会HPをご覧ください。

<https://go.shiyu-dousoukai.jp/archive-machi>



◆「紫友経済人交流会」

経済人交流会に登録している同窓生はほぼ100人となり、小石川OBの世代を超えた新しいネットワーク作りとして年2回開催の定着と100名参加の早期実現を目指しています。今後同窓会の有力な経済人OB・現役の交流の場として広がることを期待しています。活動にご興味のある方は、是非、経済人交流局担当者までお問い合わせください。本年3月開催の第5回交流会は55ページをご覧ください。

※紫友経済人交流会ホームページ
https://shiyu-keiei.com/



◆ Global 懇談会、紫友会地域・ 職域支部、等

2023年12月3日(日)日本時間午前11時から12時半すぎまで、第2回Global懇談会がZoomで開かれ、留学中の現役生を含む19人が参加しました。村上克己さん(027B)と鈴木善博さん(029C)の米国での企業人活動体験トークVideoを皮切りに皆さんのひと言が繋がっていく楽しい会になりました。地域、職域支部については新しい発足はありませんでした。

今年度は、紫友国際室の立ち上げと支部・サテライトのオンライン活動の支援を両軸に、第3回Global懇談会を6月2日に開催し、国際室の目指す姿を話し合います。国内各地の「ご当地紫友会」、会社内や同じ業界内の「職域紫友会」の新規登録をお待ちします。

教育支援局の活動

教育支援局 局長 大場賢一 (034E)
局員 木村 薫 (027C)

「一般財団法人 紫友会」とともに、教育活動(SSH含む)・クラブ活動・学校生活活動それぞれへ合計約3.2百万円(財団との合算で約3.9百万円)の支援を行いました。2023年度も昨年同様、各種研修会や大会遠征の回数は例年より少ない状況でしたが、学校からの要望には検討の上すべて対応できました。

また、今年度についても現役生からの要望があっても学校の予算では購入が難しい物品を宮山副校長(045B)にとりまとめをお願いし、楽器など一部を前倒しで3月に納品しました。植樹祭で毎年お世話になっている田代先生が2024年4月に副校長(前期課程)に昇任され、学校との情報共有の密度をさらに高めて支援を継続していきます。

◆教育支援活動

●海外研修支援

2023年度もカーディフ大学への夏期研修は中止となり、Webを通じての研究発表と講義に変わりましたので、その研修費用を負担しました。なお、カーディフ大学の夏期研修は昨年度で終了したため2024年度の現状では支援無し、2025年度から新たな研修プログラムをスタートする予定です。

●SSH支援

昨年度はSSH第4期5年間の2年目で、現役生の活発な研究活動が続いています。同窓生によるSSHの各テーマ研究活動を支援する「小石川メンターバンク」にも貢献できました。SSH第4期の研究開発課題は、『「小石川リサーチラーニング」による、世界の科学技術を牽引する人材の育成』です。2023年12月の大学模擬講義では4人の大学教授・講師の同窓生が現役生に講義をしました。諸先輩の知見や経験・人脈の支援を継続していきます。

- ・「ISF：国際学生科学技術フェア」日本代表として提示する論文の英訳費用を助成
- ・「パソコン甲子園2023(会津大学)」参加旅費等助成
- ・「伊豆大島生物研修」講師旅費等助成
- ・「物理チャレンジ2023(岡山)」参加旅費等助成
- ・「東京都英語学芸大会」参加交通費助成(貸切バス代)

◆部活動支援活動

主に各クラブ活動における備品類の支援(貸与)と全国大会等への遠征費用の助成を行いました。具体的な貸与物品名は、『同窓会ホームページ』トップページ右下にあります「クラブ活動備品支援」の「貸与品のリスト」をご覧ください。

●音楽系クラブ

- ・楽器類貸与：軽音楽研究会、吹奏楽部、フォークソング研究会
- ・楽器類の修理：吹奏楽部、小石川フィルハーモニー

●文化系クラブ

- ・「早稲田式クイズ早押し機」クイズ研究会

※クイズ研究会は第43回全国高等学校クイズ選手権に全国1860チームから勝ち上がり16位で進出し、

日本テレビ系列が2023年9月に放送した決勝大会に出場しました。

- ・「ロボカップジュニアオープン2024名古屋大会」

参加費助成 物理研究会

- ・「一眼レフカメラ一式」天文研究会

●運動系クラブ

- ・物品贈与：運動部全体(レッグエクステンションカール)、軟式野球部(防球用ネット各種)、陸上部(スターティングブロック)、女子バスケット部(試合用シャツ)、



クイズ早押し機



レッグエクステンションカール

水泳部（スポーツタイマー）、等。

・物品貸与：大型扇風機：剣道部、柔道部、体操部
※剣道・柔道場（体操部・音楽系クラブ含む）に夏から秋までの5か月間、工場用の大型扇風機をレンタル手配して貸与しています。道場の空調施設が整備されるまで、レンタルを継続します。

◆学校生活支援活動

●音響・照明機器の贈与（今年度）

芸能祭や各種研究発表会、運動場や光庭でのライブなどで使用する音響（PA）と照明・映像配信装置が15年以上経過して老朽化したことから、放送・文化の両委員会より学校予算でまかなえない部分について支援要請を受けました。現役生にとってクラブ活動に準じる小石川独特の学校生活活動であることを鑑み、支援の可否を検討し、今年度200万円程度を支援します。

PA機器の選定は理事会と放送委員会とともに同窓生が経営するクロサワ楽器（038A 黒澤友広さん）を加えた三者で検討を進めていきます。

●同窓生有志のFRC参加応援 （HIBANA Technology）

現役5年生（2023年度）の長谷川さんと木村さんが、米国で世界最大のロボット&STEM教育活動コンテストFRC（“FIRST” Robotics Competition）に挑戦するために都内中学生・高校生と一緒にプロジェクトチーム「HIBANA Technology」を立ち上げました。他校生徒も含まれるため同窓会は直接支援をしません。木村薫理事（027C）と鈴木善博理事（029C）を中心に同窓生有志でチームを応援しました。

ロボット工作の場として東大本郷キャンパスの「ものづくり工房」を使用できるようになり、寄付活動とクラウドファンディング立ち上げに同窓生が手伝い、200万円以上の活動資金が獲得できました。こうして2024年4月にハワイ大学でのFRC予選に初出場しましたが、残念ながら本選通過とはなりません。HIBANAチームの今後の活躍に期待します。

環境企画局の活動

環境企画局 局長 岡村幸二（021A）

◆2023年度環境企画局の取組み

毎年恒例の植樹祭は、昨年5月13日（土）、母校の校舎周りにおいて、環境企画局主催で「小石川の杜プロジェクト」の植樹祭（第7回）を実施しました。2

年生4クラスのチーム、先生チームと同窓会チームのほか、保護者（PTA）チームとして4名が参加されました。（会報第51号に詳報）

9月の創作展では、視聴覚教室をお借りして「同窓会展示」を一般公開しました。「伊藤長七展」とともに「小石川の杜プロジェクト」の動画を「小石川の杜」小冊子上映し、300人を超える見学者がありました。また、全生徒・教職員向けに「小石川の杜」小冊子（2023年9月版）を配布しました。

2023年度のニュースとしては、環境企画局のメンバーで植物に詳しい高橋俊一さん（監事）が編集した「樹木生活史図鑑」を、図書室と生物部に贈呈しました。理科の佐野寛子主任教諭は「授業や部活動のほか、校外の研究会でも活用したい」と喜ばれました。



樹木図鑑の贈呈式（2月28日）

◆2024年度の活動と計画

①第8回植樹祭の実施

今年5月11日（土）、天気にも恵まれて「小石川の杜プロジェクト」の植樹祭が行われました。百周年事業を機に毎年実施し、今年で8回目です。今回は生物部の先生より授業に使える樹種の要望があり、野山の木であるクヌギ、ミズナラ、タブノキ、イヌブナなどを植えました。



コンクリート壁際で植樹作業

◆2年生の植樹後の感想では、「土」や「木」に触れた感動的体験が印象的でした。

「土をいじったことはなかったが、自分が自然の一員であるかのように思えてきた」

「みんなで一緒にやっていたことで、自然とみんなの気持ちがつながった」
 「マンションのベランダの緑しか触ったことがないが、植樹の体験はととても面白かった」

◆植樹祭の最後に鳥屋尾校長から次のようなご挨拶をいただきました。

「みんな楽しそうに、よい体験をしてくださいました。六義園の向こうには、江戸時代に染井村の植木職人がいて、ソメイヨシノの発祥の地となっていますよ。一度調べてみてください。」



生徒・先生と同窓会が一堂に

今後の課題として、「小石川の杜」プロジェクトが植樹祭の1日だけに終わらず、年間を通じて、学校の授業や生徒の自主ゼミなどに活かしてもらえればよいと考えています。

◆同窓会と先生・生徒をつなぐプロジェクトに

〈課題1〉小石川の杜プロジェクトが、生物部の研究課題としても呼応して、生徒、先生、同窓会とが連携をした、“小石川の杜研究会”のような継続的な組織づくりを目指していく。

◆さて、来年からはどの場所に植えていきますか？

〈課題2〉第8回植樹祭までに校舎周辺の植栽箇所を

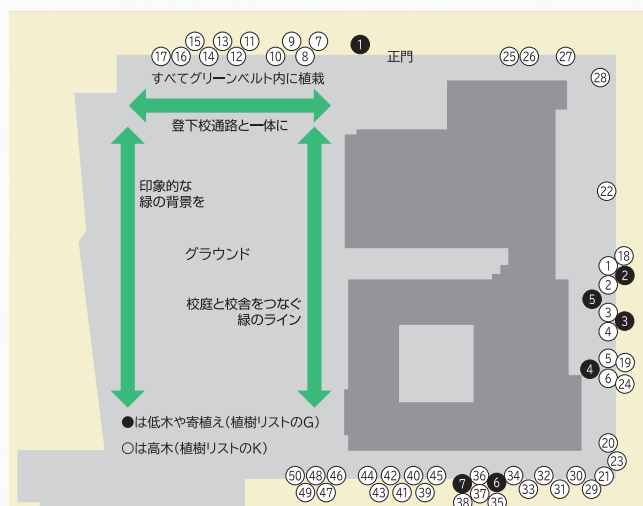


図1 今後の植樹エリアの拡大方向（主に校庭側）

ひと通り終え、今後の植栽スペースについて学校側とも相談しながら、新たな展開を図る必要がある。

基金局の活動

基金局 局長 杉渕 武 (022D)

◆「紫友みらい基金」の実績と予算

基金は10年間で1億円の寄付金を目標として、2023年度は322名の方々に総額4百万円のご寄付をいただきました。前年度が5百万円の実績でしたので2割ほどの減額でした。2019年度からの5年間の累計は26百万円となりました。寄付金は同窓会会計にとって会費と並ぶ二本柱として確立したと考えますので、今年度も引き続き昨年度予算と同額の6百万円としました。

◆今後の募金活動について

10年間の目標達成のために新たな推進策として、一昨年度「寄付金への返礼品制度」を創設しました。この取組が会員と提供者、同窓会の強い絆となり、新たな気運を醸成できればと考えております。昨年度は、創立105周年にあたり特別キャンペーンの実施を予定しましたが、準備が整わず予定通りには実施できませんでした。今後は110周年に向けて、新たに「みらい基金」への寄付について、同窓会の皆様にニュースレター等をお願いをしてみたいと計画しています。

【みらい基金返礼品について】

2022年度から「紫友みらい基金」活動の一環として、同窓会に寄付をくださる方への感謝の印として、さらに同窓生が関る商品・サービスなどを紹介することの両方を目的として、返礼品の提供を広く呼びかけています。返礼品を見ると母校を思う気持ち、または返礼品をご提供いただいた同窓生の事業を応援したくなる気持ちが高まることを期待し、今年度も募集しておりますので、確定次第随時ご案内していきます。

〈紫友みらい基金返礼品一覧表〉

※寄付金額と返礼品の分布は今後変更となる場合があります

※返礼品の内容については同窓会報51号12ページ、本号61ページ、及び同窓会公式ホームページで詳細を紹介しています。

<https://www.shiyu-dousoukai.jp/100shuunen/index-henrei.html>



※ 105周年特別キャンペーンとして2万円以上の寄付をお寄せいただいた方に、紫友85周年会が上梓された「我らは伊藤長七の教え子だった」を通常返礼品とダブルでプレゼントしています。

五中小石川創立 105 周年 記念式典

105周年事業実行委員長 富田 晴彦 (032I)

■ 105周年のテーマは「さらにつながる」

「コロナ禍」によって、日本国中で「『通常の生活』が変化せざるを得ない」数年が経過し、この間、我々の母校でも授業やクラブ活動、課外活動などが大幅に制限されました。幸いなことに昨年の5月に感染症指定が変更され、徐々に今までの生活が戻ってきました。

一時は開催も危ぶまれた105周年記念式典でしたが、学校の協力もいただき、「85周年式典」以来20年ぶりに母校のアリーナで開催（総会のみ）しました。ご参集した多くの皆様とともに、この先も継続して「五中小石川」の交流を深める契機とすることが出来ました。

今回特筆すべきことは以下の3点です。

- ・ 20年ぶりに母校のアリーナで総会を開催
- ・ 紫友同窓会総会と祝賀パーティーの模様をオンライン配信（リアルタイムでYouTube配信）
- ・ 小石川中等教育学校PTA中心のコーラス部「小石川カンターレ」から40名強が参加

◇紫友同窓会総会

総会は母校3階アリーナで開催し、100名を超える同窓生が出席しました。開催前の会場内では「小石川の杜」活動紹介パネ



受付にて参加者を確認

ルや書籍「我らは長七の教え子だった」の展示を行い、Lila Orchestra(小石川フィル卒業生で構成されたオーケストラ)による演奏をビデオで紹介をしました。

午後1時半に司会の雨宮萌果さん(057C)の開会宣言でスタート。戸叶会長挨拶のあと、ビデオ「小石川コロナ禍の3年を経て」を視聴しながら、在職の先生方より現役生の学校生活が紹介されました。

続いて「この5年間の紫友同窓会事業」の中から主に交流局の活動をスライドで説明しました。また、学

校支援の成果をビデオ「現役生徒からのメッセージ」で紹介し、創作展委員や各クラブの部員から御礼の言葉を受け取りました。学校PTAを主体とする合唱団「小石川カンターレ」が、百周年事業で制作し学校に寄贈した小石川応援歌「青空ジャンプ」を含む3曲を披露して閉会となりました。



司会の雨宮萌果(057C)さん

◇祝賀パーティー

祝賀パーティーは15時半より学校に隣接する文京グリーンコートで開催し、20歳から86歳までの同窓生、



ご来賓、「小石川カンターレ」の皆様、計約170名の参加がありました。鳥屋尾校長の来賓ご挨拶、村上PTA会長の乾杯の後、スライドを上映して現役生たちの活動状況を視聴しました。

宴もたけなわの頃、来賓の伊藤博子さんによる「長七先生からの手紙」が朗読（一部）されました。また、各年代の同窓生からのひと言挨拶で大いに盛り上がり、最後まで賑やかで楽しい宴は、全員で校歌を斉唱してお開きとなりました。



伊藤博子さんの「長七の手紙」朗読

※今回の式典の幹事は、例外的に100周年の時と同じく031期～035期が担当しました。次回110周年式典(2028年)は、036期～040期の方々にバトンタッチします。どうか、この担当年代5期を中心に有意の皆さんが結集され、前例にとられない自由な発想をもとに式典が継続されることを願っています。



祝賀パーティー会場

「紫友同窓会 総会」■式次第

- ・開会前 「Lila (小石川フィル OB/OG)」コンサート映像
- ・開会宣言 司会 雨宮萌果さん (057C)
- ・会長挨拶 紫友同窓会 戸叶会長 (027C)
- ・小石川中等教育学校 コロナ禍の3年間を経て2023年度行事週間 (映像)
先生たちへのインタビュー (映像)
- ・紫友同窓会の5年間 (PC プレゼンテーション)
これからの紫友同窓会の活動について
- ・現役生徒からのメッセージ (映像)
部活動、創作展委員、体操部パフォーマンス (映像)
- ・PTA 合唱部「小石川カンターレ」
合唱「青空ジャンプ」他 計3曲
- ・閉会宣言

「創立105周年祝賀パーティー」■プログラム

- ・開宴前 「小石川フィルハーモニーオーケストラ部」
芸能祭の演奏映像
- ・開式の辞
- ・現役生徒の学校生活紹介 (映像)
(今年の修学旅行、研修旅行、行事週間 等)
- ・来賓ご挨拶 鳥屋尾史郎 小石川中等教育学校校長
- ・乾杯 村上雅彦 小石川中等教育学校 PTA 会長
- ・歓談 現役生徒の学校生活紹介 (映像)
「今年の海外語学研修旅行」「今年の芸能祭」
同窓会活動 (映像)「学年同期会」(038期、064期)
- ・記念品のご案内
- ・校歌斉唱
- ・お開きの辞

その他の各局・委員会の活動

◎伊藤長七研究委員会

初代校長・伊藤長七の教育思想を研究・情報発信するため、諏訪寒水会とも連携して継続的に活動を行っています。また、小諸寒水会の立ち上げに向けて活動中です。コロナ前まで毎年実施していた「PTA 日帰り研修」は、昨年度も中止となりました。故伊同窓会会長のご尽力で2019年9月から始まった東洋英和女学院大学院との交流は今後も維持します。昨年夏には諏訪寒水会にて、講談師の田辺鶴遊師による伊藤長七を題材にした講談が披露されました。同窓会は講談の台本制作に際し、資料室保管の機関誌「開拓」を閲覧

できるように協力しました。

紫友85周年会(まちあるき会の母体)編集委員会により2023年3月に「我らは伊藤長七の教え子だった(略称「長七物語」)」が自費出版され、同窓会は著作権を無償で譲り受けて第2版1,600部を印刷しました。そのうち1,000部を現役生と教職員・学校図書室に贈呈しました。さらに2023年12月の小石川セミナーではこの本を用いて鳥屋尾校長が全校生徒に伊藤長七の人物像を解説したあと、伊藤博子さん(長七翁の直孫)が長七米国滞在中に綴った手紙「プリマスの濱邊から」を朗読しました。

◎部活後援局

各クラブのOB/OG会・代表者を横につなぐ活動を継続中です。昨年は105周年に向けて軟式野球部、バスケットボール部、バレー部、剣道部、リトルストーンズ、小石川フィルハーモニーオーケストラ部、サッカー部、茶道部、柔道部に声を掛け、総会と懇親会のスタッフを募集しました。今年度は、さらにクラブの数を増やして幹事会を実施し、各部活動の情報を展開していきます。在学中、部活に関わった同窓生の登録申請をお待ちします。

今年10周年や5周年の倍数の年、あるいは百周年を迎えるクラブOB/OG会には、同窓会からお祝い金を送り記念集会の開催を支援します。交流局までお問い合わせ下さい。部活動のOB/OG会に参加されている方は、是非、部活後援局担当者までご連絡ください。

◎広報局

◆会報グループ

「紫友同窓会報」第51号を発行(印刷19,000部)し、2023年8月に同窓生と学校関係者へ郵送、配布しました。

(内容)

- 『五中小石川創立105周年 特集 再会、再開の秋』
- ・2023年度評議委員会報告(4年ぶりの対面開催)
- ・同窓会各局の活動と学校関連行事を紹介、報告
- ・紫友オンラインセミナー開催報告(第10～14回)
- ・各局の活動報告 久光一誠副会長の選任
- ・みらい基金寄付返礼品の紹介
- ・役員公選結果の報告

●先生お元気ですか

片江安巳先生(化学) 1981.4～1994.3 在任

●同窓生訪問

- ・野村 勉さん(030C)『ある金融マンの歩んだ道—バブル・世界金融危機・銀行再編、時代の波を受けとめて—』
- ・愛甲恵子さん(047I)『ペルシャ語との出会い、

紫友同窓会の事業と活動(2023～2024)

そしてイランの絵本に魅せられて』

- わが校友の精神を
 - ①セピア色の記憶が蘇る！クラス文集の不思議な力
大橋秀行さん、神崎文次さん、日比野正寛さん (020E)
 - ②移住 31 年、沖縄あるある 小倉茂雄さん (023A)
 - ③私を育ててくれた小石川 橋本吉貴さん (044I)
 - ④ここというのは、時間のこと 鈴木晴香さん (053G)
- 同期会・クラス会（オンラインクラス会実施報告）
・08G クラス会・013A クラス会・038 学年同期会・039J 恩師を囲む会
- クラブ OP つながり
・紫友美術会・小石川剣友会・紫躑会（サッカー部）
- 小石川つながり
・紫友まち歩き・031 有志のまち歩き
・第三回・第四回紫友経済人交流会
・金融マン（N）と元経済記者（S）の対話

◆HP グループ

- ・毎月ついたちに公式ホームページを更新、必要に応じて、追加更新を行いました。
- ・会報部会と連携して、会報のバックナンバーの掲載や「特集：つなぐ・ささえる」の同窓生メッセージ付き名刺広告を Web 版として掲載しています。

◎資料局

- ・五中・小石川デジタルアーカイブ (<https://koishikawa.wiki/>) の管理
- ・「017D」「バレー部」「紫友まち歩き」各記事を追加。
- ・年度記事の作成にあたり、学校要覧を入手する機会がなく、本年度分の定型項目が記述未了です。
- ・在学中の資料や写真、OB/OG 会などの資料をお持ちの方はぜひ同窓会事務局までご連絡ください。
- ・Wikipedia の編集をお手伝いできる方を募集中です。興味のある方は同窓会事務局までご連絡ください。

◎事務局

2023 年度の主な活動報告は、下記の通りです。

- 4 月 2022 年度決算報告作成、活動及び会計監査
- 5 月 評議委員会開催案内発送、評議委員会開催
- 6 月 会報原稿作成（事務局だより・逝去者一覧等）
- 7 月 会報発行準備（宛名台紙、発送先リスト作成等）
- 8 月 会員・客員への会報郵送
- 9 月 在校生・教職員への会報配布
- 9 月 新入会員（6 年生）の入会承諾確認票配布と説明
- 10 月 海外会員への会報郵送（前年度会費納入者のみ）
- 10 月 新入会員（6 年生）から入会承諾確認票回収
- 1 月 新入会員（6 年生）への入会金・会費請求（学
年積立金から振替）

2 月 各局から 2024 年度予算の提出

3 月 2024 年度予算案編成

【随時対応業務】

- 郵便物等受取り
- 銀行・郵便局対応（記帳、入出金）
- 会費・寄付等入金処理
- 各局・学校経費等支払対応
- web 名簿更新（住所判明・転居・改姓・逝去・退会）
- 問合せ対応（郵便・メール・電話・留守電・FAX・来局）
- 会報原稿の収受と広報局長に転送（メール・郵送等）
- 会報宛先不明戻り対応（web 名簿住所不明処理・追跡メール送付・住所判明者に会報再送）
- 東洋文庫会員証発行 ○紫友文庫蔵書寄贈対応（採番・配架・閲覧・貸出返却・HP 掲載依頼）
- HP 更新情報作成（事務局担当分）
- 局長会開催（資料作成・開催案内メール送付：月 1 回）
- 理事会開催（資料作成・開催案内メール送付・議事録作成と配布：月 1 回）

紫友同窓会からのお知らせ

「紫友ニュースレター」をご存知ですか？

同窓会では、同窓生・同窓会・学校に関するニュース、セミナーをはじめとするイベント、出来事など様々な話題を皆様にいち早くお伝えするため、メールマガジン「紫友ニュースレター」を月に 1 回程度発信しています。

同窓会へメールアドレスをご登録されている方（公開・非公開を問いません）に無料配信していますので、小石川のホットな話題を知るために、貴方もぜひメールアドレスをご登録ください。

【登録方法】（どちらでも登録可能です）

- ・Web 名簿管理システムのマイプロフィールにメールアドレスを登録（非公開指定可）
- ・同窓会事務局（下記メールアドレス）へ
ご連絡（jimu-kyoku@shiyudousoukai.jp）



紫友同窓会2023年度決算報告ならびに監査報告

I. 2023年度収支実績

2024年3月31日

1. 収支総括

(単位:円)

	2022年度実績	2023年度予算	2023年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
前期繰越金(A)	26,889,364	27,273,488	27,273,488	0	
当年度収入計(B)	7,098,368	7,290,300	6,718,418	- 571,882	
総収入合計 (C = A + B)	33,987,732	34,563,788	33,991,906	- 571,882	
年度支出合計(D)	6,714,244	7,485,000	6,760,773	- 724,227	
次期繰越金 (E = C - D)	27,273,488	27,078,788	27,231,133	152,345	
当年度収支 (F = B - D)	384,124	- 194,700	- 42,355	152,345	

2. 収入

(単位:円)

収入内訳	2022年度実績	2023年度予算案	2023年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
i) 年会会費	6,096,000	6,150,000	5,536,000	- 614,000	納入者 2,768名(対象者18,288名)
ii) 入会金	762,000	900,000	822,000	- 78,000	076回中等教育学校卒業生137名(辞退者12名)
iii) 利息	368	300	418	118	
iv) 寄付	0	0	0	0	基金基金は基金事業特別会計に計上
v) 広告料	240,000	240,000	360,000	120,000	会報掲載広告
当年度収入計(B)	7,098,368	7,290,300	6,718,418	- 571,882	
前期繰越金(A)	26,889,364	27,273,488	27,273,488	0	※ 2
総収入合計 (C = A + B)	33,987,732	34,563,788	33,991,906	- 571,882	

3. 支出

(単位:円)

支出内訳	2022年度実績	2023年度予算案	2023年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
局運営費					
部活後援局	0	160,000	0	- 160,000	OB・OG活動支援関連会議費等
広報局	35,949	56,000	61,823	5,823	会報制作関連交通費、消耗品費等
資料局	0	10,000	0	- 10,000	資料室/デジタルアーカイブ維持管理関連会議費等
事務局	3,597	10,000	1,865	- 8,135	総務事務、法務対応・資料作成等
小計(d1)	39,546	236,000	63,688	- 172,312	
事業費					
部活後援局	0	0	0	0	OB・OG活動支援
広報局	1,738,000	1,940,000	1,870,000	- 70,000	会報制作費
資料局	0	0	0	0	資料室/デジタルアーカイブ維持管理
事務局	593,555	600,000	593,555	- 6,445	名簿システム使用料
	145,350	150,000	161,600	11,600	卒業記念品(校章入ふくさ)
	82,478	165,000	114,178	- 50,822	プロバイダ・サーバー利用料、IT環境整備等
	80,000	180,000	80,000	- 100,000	東洋文庫会費
小計(d2)	2,639,383	3,035,000	2,819,333	- 215,667	
事務運営費					
1. 人件費	1,168,688	850,000	756,277	- 93,723	事務局員報酬(常勤2名、返礼品作業等増加)
2. 消耗品備品費	920,403	890,000	1,134,499	244,499	会報発送関連、不明者一覧印刷、コピー機・プリンター等
3. 光熱費	53,800	30,000	51,634	21,634	事務局電気料金
4. 郵送料	1,287,553	1,614,000	1,255,211	- 358,789	会報発送、委員会案内発送、切手等
5. 電話代	72,990	70,000	72,351	2,351	事務局電話料金
6. 振込手数料	528,174	600,000	526,633	- 73,367	郵便振替、銀行振込、自動引落手数料他
7. 会議費	0	65,000	79,200	14,200	評議員会懇親会費用補填、茶菓等
8. 慶弔費	3,707	30,000	0	- 30,000	弔電、供花
9. 交通費	0	5,000	572	- 4,428	事務局員交通費
10. 雑費	0	10,000	1,375	- 8,625	印紙代、合鍵等
小計(d3)	4,035,315	4,164,000	3,877,752	- 286,248	
子備費(d4)	0	50,000	0	- 50,000	
当年度支出合計 (D = d1 + d2 + d3 + d4)	6,714,244	7,485,000	6,760,773	- 724,227	
次期繰越金(E = C - D)	27,273,488	27,078,788	27,231,133	152,345	※ 4
総収入合計(C = D + E)	33,987,732	34,563,788	33,991,906	- 571,882	
当年度収支(F = E - A)	384,124	- 194,700	- 42,355	152,345	※ 3

II. 2023年度貸借対照表

(単位:円)

科目	金額	備考	科目	金額	備考
資産の部			負債・正味資産の部		
流動資産	45,425,284		流動負債	18,194,151	
現金預金	45,419,284		基金寄付預り金	18,194,151	
未収入金*	6,000				
			正味資産		
			(前期正味資産)	27,273,488	※ 2
			(当期正味資産増減)	- 42,355	※ 3
			当期正味資産	27,231,133	※ 4
資産の部計	45,425,284	※ 1	負債・正味資産の部計	45,425,284	

*未収入金: 学年会支援金返金分

当期正味資産(次期繰越金)の内訳

(単位:円)

内訳	金額
預金 みずほ銀行	37,295,724
内訳	
(定期預金)	11,000,000
(普通預金)	70,178
(普通預金)	24,879,908
(普通預金)	1,345,638
貯金 郵便貯金	8,123,560
内訳	
(郵便貯金)	7,854,823
(郵便振替)	268,737
預貯金合計	45,419,284
その他資産	6,000
資産合計(次期繰越金)	45,425,284

(注) この他に、紫友スタジアム分敷金322,224円がある。

2023年度会計の原簿及び諸証拠書類を照合した結果、正確に処理されていることを認めます。

2024年4月20日 監事 高橋 俊一 監事 伊藤 みどり
監事 月田 陽子

以上の通り報告いたします。

2024年4月20日 会長 戸叶 司武郎

2023年度基金事業に関する決算報告書

I. 2023年度収支実績

2024年3月31日

1. 収入

(単位:円)

収入内訳	2022年度実績	2023年度予算案	2023年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
寄付金	5,275,191	6,000,000	4,075,538	- 1,924,462	
周年行事積立金	0	3,000,000	0	- 3,000,000	
利息	92	100	92	- 8	紫友会寄付預り口座
収入計(A)	5,275,283	9,000,100	4,075,630	- 4,924,470	
前期繰越金(B)	38,662,237	36,838,492	36,838,492	0	
収入総計 (A + B) = C	43,937,520	45,838,592	40,914,122	- 4,924,470	

2. 支出

(単位:円)

支出内訳	2022年度実績	2023年度予算案	2023年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
局運営費					
①交流局	22,332	432,000	41,881	- 390,119	紫友スタジアム消耗品、交通費等
②教育支援局	0	15,000	0	- 15,000	会議費、交通費、郵送料
③環境企画局	9,643	40,000	45,500	5,500	小石川の社資料作成、植樹祭反省会
④基金局	0	10,000	0	- 10,000	会議費、交通費、郵送料
⑤伊藤長七研究委員会	99,167	139,000	109,309	- 29,691	諏訪寒水会、小諸寒水会出張旅費
⑥105周年事業	0	70,000	19,960	- 50,040	
⑦特別委員会 (百年史残作業)	0	0	0	0	
小計	131,142	706,000	216,650	- 489,350	
事業費					
①交流局	1,851,187	4,200,000	4,049,284	- 150,716	紫友スタジアム賃料、電話代、備品等
②教育支援局	3,171,746	5,370,000	3,530,490	- 1,839,510	楽器購入・貸与(償却) 他部活支援
③環境企画局	916,300	1,020,000	914,100	- 105,900	小石川の社PJ
④基金局	454,470	1,300,000	105,770	- 1,194,230	寄付返礼品代金
⑤伊藤長七研究委員会	0	100,000	0	- 100,000	
⑥105周年事業	0	3,842,000	3,723,940	- 118,060	
⑦特別委員会 (百年史残作業)	141,900	0	0	0	
小計	6,535,603	15,832,000	12,323,584	- 3,508,416	
事務運営費					
1. 人件費	432,283	1,280,000	763,522	- 516,478	事務局15人、交流室(紫友スタジアム管理1)、アルバイト
2. OPP封筒代	0	0	0	0	
3. 宛名古紙作成・印刷費	0	0	0	0	
4. 封入作業費	0	0	0	0	
5. 局出し費用・郵送料	0	850,000	0	- 850,000	*返礼品送料
6. その他経費	0	100,000	0	- 100,000	
小計	432,283	2,230,000	763,522	- 1,466,478	
子備費	0	200,000	0	- 200,000	
支出合計(D)	7,099,028	18,968,000	13,303,756	- 5,664,244	
次期繰越金 (C = D) = E	36,838,492	26,870,592	27,610,366	739,774	
再計(D + E)	43,937,520	45,838,592	40,914,122	- 4,924,470	
当年度収支(A - D)	- 1,823,745	- 9,967,900	- 9,228,126	739,774	

*返礼品代に送料が含まれて請求

II. 2023年度貸借対照表

(単位:円)

科目	金額	備考	科目	金額	備考
資産の部			負債・正味資産の部		
流動資産	27,610,366		正味資産		
現金預金	9,416,215	普通預金: 寄付預り口座	前期正味資産	36,838,492	
未収金	18,194,151	同窓会預り分	当期正味資産増減	- 9,228,126	
			当期正味資産	27,610,366	
資産の部計	27,610,366		負債・正味資産の部計	27,610,366	

当期正味資産(次期繰越金)の内訳

(単位:円)

内訳	金額	
預金 みずほ銀行	9,416,215	
内訳		
普通預金: 寄付預り口座	9,416,215	
預貯金合計	9,416,215	
その他資産	18,194,151	
資産合計(次期繰越金)	27,610,366	

2023年度会計の原簿及び諸証拠書類を照合した結果、正確に処理されていることを認めます。

2024年4月20日 監事 高橋 俊一 監事 伊藤 みどり
監事 月田 陽子

以上の通り報告いたします。

2024年4月20日 会長 戸叶 司武郎

IV. 2号議案 予算案の提案①

2024年度同窓会運営に関する予算案

2024年5月25日

1. 収入

(単位:円)

収入内訳	2023年度 予算	2023年度 実績	2024年度 予算案	24予算- 23実績	24予算- 23予算	備考
年会費	6,150,000	5,536,000	6,000,000	464,000	- 150,000	2023年度納入会員2768名(対象者約19,000名)
入会金	900,000	822,000	840,000	18,000	- 60,000	2023年度卒業生入会137名(@6千円)
利息	300	418	300	- 118	0	
寄付		0		0	0	寄付は基金会計に計上
広告料	240,000	360,000	360,000	0	120,000	会報掲載広告料
当年度収入計(A)	7,290,300	6,718,418	7,200,300	481,882	- 90,000	
前期繰越金(B)	27,273,488	27,273,488	27,231,133	- 42,355	- 42,355	
収入総計(A+B)=C	34,563,788	33,991,906	34,431,433	439,527	- 132,355	

2. 支出

(単位:円)

支出内訳	2023年度 予算	2023年度 実績	2024年度 予算案	24予算- 23実績	24予算- 23予算	備考
部活後援局	160,000		60,000	60,000	- 100,000	OB・OG会活動支援
広報局	56,000	61,823	43,000	- 18,823	- 13,000	会報・ホームページ・メルマガ・SNS等
資料局	10,000	0	10,000	10,000	0	資料室管理、デジタルアーカイブ維持管理
事務局	10,000	1,865	10,000	8,135	0	事務・会計・名簿管理・情報管理・総務庶務・法務対応・資料作成
小計	236,000	63,688	123,000	59,312	- 113,000	
部活後援局		0	0	0	0	OB・OG会活動支援
広報局	1,940,000	1,870,000	1,940,000	70,000	0	会報・ホームページ・メルマガ・SNS等
資料局		0		0	0	資料室管理、デジタルアーカイブ維持管理
事務局	600,000	593,555	600,000	6,445	0	名簿システム使用料
	150,000	161,600	150,000	- 11,600	0	卒業記念品(印刷)
	165,000	114,178	165,000	50,822	0	プロバイダ・サーバー利用料、IT環境整備等
	180,000	80,000	180,000	100,000	0	東洋文庫会費
小計	3,035,000	2,819,333	3,035,000	215,667	0	
1. 人件費	850,000	756,277	850,000	93,723	0	事務局員(常勤15名)
2. 消耗品備品費	890,000	1,134,499	890,000	- 244,499	0	会報宛名印字、封入袋、PC/WLAN/コピー機関連、プリンタ関連
3. 光熱費	30,000	51,634	50,000	- 1,634	20,000	事務局電気料金
4. 郵送料	1,614,000	1,255,211	1,564,000	308,789	- 50,000	会報発送・封入セット、委員会案内状発送、切手他
5. 電話代	70,000	72,351	70,000	- 2,351	0	事務局電話料金
6. 振込手数料	600,000	526,633	600,000	73,367	0	郵便振替、銀行振込、自動引落手数料他(事務局)
7. 会議費	65,000	79,200	65,000	- 14,200	0	評議委員会懇親会費用補助、茶業等(事務局)
8. 慶弔費	30,000	0	30,000	30,000	0	弔電、供花(事務局)
9. 交通費	5,000	572	5,000	4,428	0	事務局員交通費
10. 雑費	10,000	1,375	10,000	8,625	0	印紙代等(事務局)
小計	4,164,000	3,877,752	4,134,000	256,248	- 30,000	
予備費(基金除く)	50,000	0	50,000	50,000	0	
当年度支出合計(D)	7,485,000	6,760,773	7,342,000	581,227	- 143,000	
次期繰越金(C-D)=E	27,078,788	27,231,133	27,089,433	- 141,700	10,645	
再計(D+E)	34,563,788	33,991,906	34,431,433	439,527	- 132,355	
当年度収支(A-D)	- 194,700	- 42,355	- 141,700	- 99,345	53,000	

IV. 2号議案 予算案の提案②

2024年度基金事業に関する予算案

2024年5月25日

1. 収入

(単位:円)

収入内訳	2023年度 予算	2023年度 実績	2024年度 予算案	24予算- 23実績	24予算- 23予算	備考
寄付金	6,000,000	4,075,538	6,000,000	1,924,462	0	
利息	100	92	100	8	0	
収入計(A)	6,000,100	4,075,630	6,000,100	1,924,470	0	
前年度繰越金(B)	37,563,309	36,838,492	27,610,366	- 9,228,126	- 9,952,943	
収入総計(A+B)=C	43,563,409	40,914,122	33,610,466	- 7,303,656	- 9,952,943	

2. 支出

(単位:円)

支出内訳	2023年度 予算	2023年度 実績	2024年度 予算案	24予算- 23実績	24予算- 23予算	備考
①交流局	432,000	41,881	416,000	374,119	- 16,000	交流室事業
②教育支援局	15,000	0	15,000	15,000	0	教育支援局事業
③環境企画局	40,000	45,500	40,000	- 5,500	0	環境企画局事業(小石川の社PJ)
④基金局	10,000	0	10,000	10,000	0	基金局事業(返礼品)
⑤伊藤長七研究委員会	139,000	109,309	239,000	129,691	100,000	諏訪寒水会、小諸寒水会出張旅費、PTA研修旅行補助
⑥105周年事業	70,000	19,960	0	- 19,960	- 70,000	105周年事業費用
小計	706,000	216,650	720,000	503,350	14,000	
①交流局	4,200,000	4,049,284	3,022,000	- 1,027,284	- 1,178,000	交流室事業
②教育支援局	5,370,000	3,530,490	5,400,000	1,869,510	30,000	教育支援局事業
③環境企画局	1,020,000	914,100	1,020,000	105,900	0	環境企画局事業(小石川の社PJ)
④基金局	1,300,000	105,770	1,300,000	1,194,230	0	基金局事業(パンフレット、返礼品)
⑤伊藤長七研究委員会	100,000	0	100,000	100,000	0	
⑥105周年事業	3,842,000	3,723,940	0	- 3,723,940	- 3,842,000	105周年事業費用
小計	15,832,000	12,323,584	10,842,000	- 1,481,584	- 4,990,000	
1. 人件費	1,280,000	763,522	1,520,000	756,478	240,000	事務局員(常勤15名)、交流室(紫友スタジオ管理1名)
2. OPP封筒代				0	0	
3. 宛名台紙作成・印刷費				0	0	
4. 封入作業費				0	0	
5. 局出し費用・郵送料	850,000	0	750,000	750,000	- 100,000	DM送料(基金局)
6. その他経費	100,000	0	0	0	- 100,000	
小計	2,230,000	763,522	2,270,000	1,506,478	40,000	
予備費	200,000	0	200,000	200,000	0	
当年度支出合計(D)	18,968,000	13,303,756	14,032,000	728,244	- 4,936,000	
次期繰越金(C-D)=E	24,595,409	27,610,366	19,578,466	- 8,031,900	- 5,016,943	
再計(D+E)	43,563,409	40,914,122	33,610,466	- 7,303,656	- 9,952,943	
当年度収支(A-D)	- 12,967,900	- 9,228,126	- 8,031,900	1,196,226	4,936,000	

税理士法人タックスソリューション

税理士 倉林俊男 015F

〒150-0011 渋谷区東3-25-4-703

TEL 03-3444-7391 FAX 03-3444-8361

税金のこと
お気軽に
ご相談
ください。

紫友同窓会 2024 年度役員一覧

役員	評議委員	新任・留任・再任	備考
会長 027C 戸叶 司武郎		留任 (3期2年目)	交流局 局長、事務局 局長
副会長 021G 鈴木 由美子		再任 (2期1年目)	特命事項担当
副会長 022E 並木 隆	○	留任 (3期2年目)	広報局 局長
副会長 028C 小堤 康史		留任 (3期2年目)	(一財)紫友会 理事長
副会長 039J 久光 一誠		留任 (1期2年目)	資料局 局長
副会長 040G 中代 次郎	○	留任 (3期2年目)	部活後援局 局員
理事 018I 河井 興正		留任 (3期2年目)	交流局・基金局 局員
理事 019E 伊藤 正俊	○	留任 (3期2年目)	基金局 局員
理事 021A 岡村 幸二		留任 (3期2年目)	環境企画局 局長
理事 022D 杉渕 武	○	留任 (3期2年目)	基金局 局長、環境企画局 局員
理事 023C 古山 光久	○	再任 (3期1年目)	伊藤長七研究委員会 委員長
理事 027C 木村 薫		留任 (1期2年目)	教育支援局 局員
理事 027B 村上 克己		留任 (1期2年目)	交流局 局員
理事 029C 鈴木 善博		留任 (1期2年目)	交流局 局員
理事 030H 笠原 盛泰	○	留任 (2期2年目)	交流局 紫友経済人交流会担当
理事 032I 富田 晴彦	○	留任 (3期2年目)	部活後援局 局長
理事 033B 今村 郁男		留任 (1期2年目)	部活後援局 局員
理事 034E 大場 賢一		再任 (2期1年目)	教育支援局 局長
理事 035C 虫明 智恵子		留任 (3期2年目)	広報局 局員
理事 035D 河村 英敏	○	留任 (3期2年目)	交流局 局員
理事 036D 松田 圭子☆		新任	交流局 局員
理事 049A 山川 神太浪☆		新任	交流局 局員
理事 064B 渡邊 和真		留任 (3期2年目)	I T環境改善担当
監事 019E 高橋 俊一		留任 (2期2年目)	活動及び会計監査担当、広報局・環境企画局 局員
監事 028E 伊藤 みどり		留任 (3期2年目)	活動及び会計監査担当
監事 029B 月田 陽子	○	留任 (3期2年目)	活動及び会計監査担当

☆ 新任役員

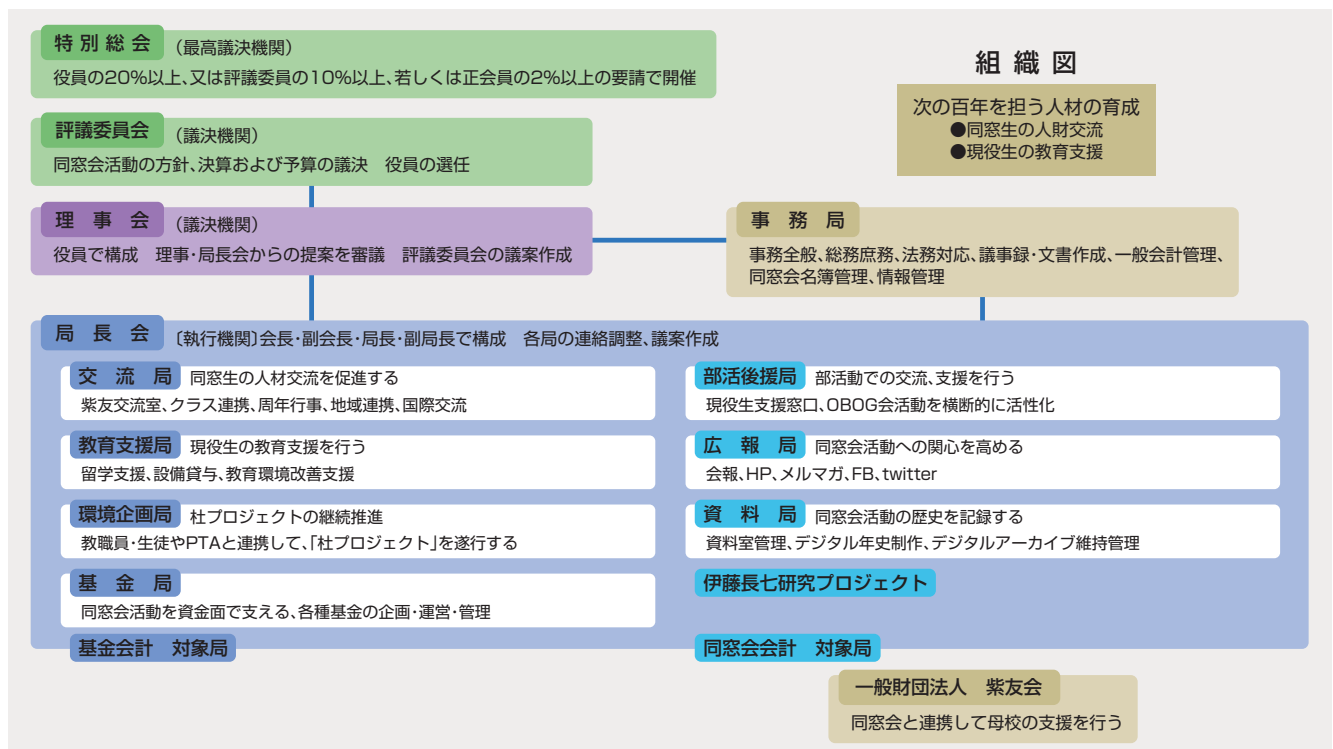


理事 松田圭子



理事 山川神太浪

紫友同窓会 組織図



特集

我ら 小石川 農業人

同窓会事務局に寄せられたお便りや卒期・クラスを超えた交流ネットワークの情報には、卒業後、様々な分野で活躍する多士済々の同窓生の姿が映されています。

今回の特集では、その中から都会を離れ地域に根を下ろして「農業」と関連の仕事に携わる5組6名の同窓生の皆さんを紹介します。東京に生まれ育った若者が、やがてどのような人生経験を積み、日々、大地を相手に額に汗を流しているのか。将来の選択肢として「農業」を夢に描くことはできても、それを現実に実践する暮らしとはどんなものなのか。ささやかな取材で見えてきたのは、世間や常識に囚われない我が道を行く、「開拓」の心。



安城守英さん (053F)・
安城(庄野)あゆみさん (058D)
新潟県胎内市黒川
(株)黒川農産



菅原文子さん (012C)
山梨県北杜市明野町浅尾
農業生産法人
(株)おひさまファーム
竜土自然農園



高瀬創研さん (041H)
長崎県諫早市飯盛町古場
いいもり自然農園



中村良行さん (029F)
山梨県韮崎市穂坂町
宮久保
(株)Creation farm



小川陸真さん (022E)
三重県四日市市川島町 4368
ミチマコンサルティング合同会社

北杜市で野菜作り

菅原文子さん(012C)

名称 農業生産法人(株)
おひさまファーム 竜土自然農園
〒408-0201 山梨県北杜市明野町浅尾 5259
メール fbsugawara@hotmail.co.jp



はじめに紹介するお二人は、偶然、山梨県の隣町にお住まいです。早春の一日、甲府からレンタカーで午前、午後と2ヵ所を同日に訪ねました。

北杜市明野町は、JR 中央本線または高速道で甲府から諏訪方面に向かった県境近く、茅ヶ岳西南麓の緩やかな傾斜地が広がります。東大宇宙線研究所明野観測所を目印に走らせたこの辺りは標高 900 m 前後の台地で、昔は原野だったところが戦前に入植が進み、冷涼な気候に適した野菜作りが盛んになりました。前方に南アルプス 甲斐駒ヶ岳を望み、また、近くには縄文時代中期の集落跡で国指定史跡の梅の木遺跡が保存公開されています。

いつからこの地にお住まいですか

2009年に暮らし始め、この春で15年になります。

何を作っているのですか

野菜。多品種を少量生産。亡くなった夫(俳優 菅原文太氏)は農家の出身で、化学農薬、化学肥料を多用する野菜より昔の野菜は力があって美味しかった、と日頃から語っていました。また、農業には人を育てる教育効果が大きく、日本が戦後復興を果たしたのは農業が育てた人間力の賜物との考えに私も同感でした。



そもそものきっかけというのは

人口集中、騒音と照明の過剰は心身に良い影響を与えず、拡大し続ける東京に住み続けることに不安、危険を感じています。どこに住んでも災害のリスクはありますが、人口過密な東京で災害が発生すれば、多大なリスクがあり、高齢弱者にとっては住みにくいところになりました。また、生きものとしての人間の二十万年の進化の過程で、これほど人工的な大都市を狭い国土に作り、食料とエネルギーを海外に依存する現状は日本が突出しています。



これで良いのか、との思いから夫が俳優業を半引退したときに一家での地方移住を考えました。少しご縁のあったこの土地で、完全無農薬農業に一からチャレンジしました。



経営の理念は

医食同源の言葉通り、その人は、その人が食べたものの現れと考え、健康に寄与する野菜を作っています。農業は天候、原産地と作物の DNA、土壌微生物への知識など学ぶことが多く、農業を通じてみる世界は奥行きがあります。

今の課題は何でしょうか

持続的な経営という意味では、課題は山積しています。無農薬有機農業は小規模少量生産が前提ですから、元々、大量生産された作物との価格競争はできません。また、農業経営は天候と世の流行に左右されます。年齢相応に無理なく持続できる範囲で、販売していきたいと思っています。

将来の夢は

「夢」は夜見るだけで十分です。私のような昭和人は「夢」という言葉で将来をくくるほど現実には甘くないですよ。「夢」という言葉は、日常語の中には皆無ですよ（笑）。



同窓生に一言

もし、うちの完全無農薬野菜を召し上がりたい方がおられたら、メールアドレスにご連絡ください。東京及び山梨近県なら、新鮮な朝どり野菜をお送りできます。

山梨で一念発起の ワイン造り

中村良行さん(029F)

名称 (株) Creation farm
〒407-0715 山梨県韮崎市穂坂町宮久保17-1
メール yamanashi@mark-village98.com
HP <https://r.goope.jp/creation-farm>



菅原さんの北杜市浅尾から茅ヶ岳広域農道を通って約10分の距離、丘陵を越えると中村さんのお住まいがある韮崎市穂坂町に至ります。この辺りは甲府盆地の北西端、背後の茅ヶ岳山麓から南西に開けた標高500m前後の緩やかな傾斜の扇状地です。前方には南アルプスの峰々と遙か富士山の絶景が広がっていました。

いつからですか

2019年にブドウ栽培を開始して、今年で6年目、何とか半人前に成長することができました。

主に何を作っていますか

自社農園栽培の100%ベリーーA赤ワイン、甲州白ワイン、ブドウジュース、ロワイヤルヴェルジュ（ブドウ未熟果エキスの調味料）生食用ぶどうピオーネです。

ワイン造りに取り組もうとしたきっかけは

大学卒業後は金融関係の会社に勤めていました。50代後半の頃、2016年からノーベル医学生理学賞を受賞された大村智博士の生家（蛍雪寮・山梨県韮崎市）を拠点にして、野菜作りとブドウ栽培のために3年間「週末農業」に通っていました。そんな中で土地の知り合いも増え、セカンドライフは、都会を離れて自然



ぶどう畑(春先)



ぶどう畑(初夏)

の中で最後まで働きたいと考え、家族を東京において移住したわけです。ブドウ畑を借りて栽培をすることから始め、高品質の醸造用ぶどうができることからワイン生産に挑戦しています。

経営の理念と目標は

一本のブドウの木、ブドウ畑から可能性を広げて「美味しい」「楽しい」「嬉しい」に共感する多くの仲間が集まる【場】を作ることです。

課題はなんですか

ご承知のように農業収入の低さが問題で、後継者不足が心配です。また、ワインの販路開拓が課題です。

今後の夢は

現在の耕作面積 50 a (0.5 ha) を拡大してブドウの生産量を増やし、ワイン生産量を現在の 3,000 本から 1 万本にすること。そして多くの仲間が集まることです。

同窓生に一言

日本の農業を持続させるためには若者の農業参加が必要ですが、農業所得だけでは生活できないのが現状です。ブドウ栽培における6次化(1次:ブドウの生産、2次:ワインなどの製造、3次:それらの販売)で生活できるモデルケースとなり、若者を巻き込める会社を作り、同様の思いで農業をしている仲間とのネットワークを構築し、耕作放棄地の減少、農業人口の増加に少しでも寄与したいと思っています。

毎年夏の終わりから秋のはじめに、生食用ブドウを出荷します。是非、採れたて新鮮なブドウを味わってください。また、9月にはドメヌとして初醸造のヴァンテージワインが出来上がりますので、こちらも是非ご賞味ください。



作業小屋の搾汁機



ワイン貯蔵樽

長崎で手仕事の 無肥料無農薬 栽培を実践

高瀬創研さん(O41H)

名称 いいもり自然農園
〒854-1121長崎県諫早市飯盛町古場

ブログ: つくってみがく創研
Facebook: 高瀬創研
メール: soken@sage.ocn.ne.jp



いいもり自然農園

長崎県諫早市飯盛町の中間山地
十段ある休耕地を 畑に転用 栽培面積 約2反
安全安心 無肥料無農薬 自然栽培
(化学肥料 畜糞堆肥 農薬 除草剤 不使用)

☆ブログ☆
旬野菜の詰め合わせ 野菜バック 販売中! ☆Facebook☆
☆1日5組まで 朝採り当日発送☆
収穫して 清涼な沸き水で洗浄し 梱包
お問い合わせ お待ちしております

どんなところですか

長崎県諫早市飯盛町にある自然環境のバランスが整った山あいの土地です。キレイな空気、清涼な地下水、ミネラル豊富な土壌と、作物が健全に育つ3つの要素がそろっています。

設立は

2014年4月です。自宅の一人建築、並びに自然野菜の自給と販売を目的に、退職し独立しました。予行演習として、2007年4月より会社勤めの傍ら、同じ場所で週末通いの栽培実践を始めています。

どんな作物を作っていますか

年間を通して、70種類以上の旬な野菜を作り、販売しています。手仕事の無肥料無農薬栽培です。

農業に取り組もうとした動機は

人から色々指図されるのがダメなんです。その内容が自分の意思と異なるともう耐えられない。社会勉強として会社員となりましたが、強烈な葛藤の中で自分の「やりたいコト」は何なのか、本屋で光る本を片っ端から読み漁り、一生懸命考えた結果、自分で家を建てて、自分で食べ物を作ることだという結論に至ります。子供の頃から、自然の中で自給自足がしたいという漠然とした思いはありましたよ。まあ、結局はそこに行き着くわけなんです。

経営の理念は

手仕事による無肥料無農薬栽培を実践し、その成果物である自然野菜を世の中に提供することです。わたしには自分が気持ち良いと思える環境がないと、気持ち良い作物はできないという信念があります。だから、自分の直感とか、良心とかをものすごく大事にしています。自分に嘘をつかない。手仕事なので、トラクターなどの大型機械は使いません。作物がストレスを感じるときのポリマルチ、防虫ネットも使いません。近辺の落ち葉や刈り草を草マルチや腐葉土として、雑木や竹を炭や灰にして使うことはありますが、化学肥料や畜糞堆肥を使わない露地栽培です。そんなわたしの思いや栽培ノウハウは折々のブログで詳しく紹介しています。是非一度ご覧ください。

経営の目標は

家族経営の小規模農家として安定した生活を営むことです。昨年の売上は160万円を超えるくらいで目標の達成はまだまだですが、家族の食する野菜はすべて



一人建築した自宅



いいもり自然農園 遠景

自給できており、300万円の売上があれば、十分に生活ができます。そのために、自然野菜の販売単価を100g300円にまで高めたいと思っています。牛肉と同じくらいですね、市販野菜の5～6倍なのでかなり高価ですよ。しかしながら、去年は100g150円をクリアできたので、今年は100g200円を目標に活動しています。

自然野菜の販売で年間売上300万円を達成できれば、わたしもやってみようという若い世代が現れると思うのです。そうすれば、自然野菜が市場に溢れる時代がやってくる。

八百屋という販売店に農薬や化学肥料なしの青果が沢山並んでいた昭和初期の状況ですよ。健康元気な日本人がそこら中にいた時代です。

現在の課題は何でしょうか

自然野菜の価値をいかに高めていくか、お客様にいかに納得して高価な野菜を買ってもらおうかということです。わたしの家族は15年以上、自ら作る自然野菜を食べて続けています。その美味しさで食卓にはいつも笑顔があり、心と体は健康です。その効能は計り知れず、言葉で表現するのは簡単ではありません。どうすればいいのか、心を込めて丁寧にやるしかない肝に銘じています。そういう行為をしっかりと受け止めてくださるお客様が必ずいらっしゃいます。

今後の夢は

都会と地方の存在価値が調和する社会の実現です。都会で最先端の技術開発を求める人たちも楽しく気持ち良く生活ができ、地方で自然野菜を栽培する人たちも安定した生活が営める社会です。自然野菜の価値が高まれば、健康問題、社会保障、過疎化などさまざまな社会問題が解決していくと考えています。

同窓生へ一言

わたしは小石川生なんだ！ということに誇りを持って突き進んで欲しい。自分を信じる。わたしたちは自らの「やりたいコト」を実現するために、生まれてきたのだと思っています。

わたしのやっている農園経営はまだまだおススメできる段階ではありませんが、自然野菜を求めるお客様のニーズは日に日に力強くなっています。数年の内に100g300円の目標は達成できるでしょう。今後の「いいもり自然農園」にどうぞご期待ください。ありがとうございます。



朝採り当日発送する自然野菜

三重県四日市の里山に暮らして

小川陸眞(みちま)さん(022E)

設立年

合同会社は2016年、保全組合は2019年、自治会長就任は2024年

何をしていますか？

四日市市奥西部の里山で第二の人生を始め十数年になりました。前職の知識と経験を生かした専門コンサルタントサービス(自動車のIT化)と全くの素人から始めた農産加工物(味噌、和紅茶、煎茶等)の製造、さらに、地元の農産物を獣害から守る組合活動(狩猟免許取得)とか、地元農家のIT化(電気技師として)と健康維持指導(水泳コーチの奥さんと)をしています。

経営の理念と目標は？

半農半X、無理はしない。腎移植をしたので術後は、主治医さんから、「(免疫抑制剤を飲み続けるので)土いじりは当分止めた方が良いでしょう。」と言われ、ここ3年、作物はやっていません。そのため、地元の農業人をヘルプする、という方向に変わっています。

手術後は第1種身体障害者となりましたが、コンサル業と組合長/自治会長をこなしています。具体的には、

名称 ミチマコンサルティング合同会社、別所谷獣害防護柵保全組合、川島地区南部自治会
〒512-0934 三重県四日市市川島町4368
メール zxc01350@nifty.com、michima0618@gmail.com

別所谷獣害防護柵保全組合を組織し、地元の農業を獣害(猪)から守るとか、地元の名産物、伊勢かぶせ茶や和紅茶を拡販するとか、地元の大豆を使って味噌づくりして拡販するとか、です。

今後の夢は？

移植した腎臓で健康を保つこと。元気で仕事があればそれ以上の幸せはありません。



味噌作り



猪の捕獲器

新潟県胎内の 夫婦で守りあゆむ 米づくり農家

あじろ 安城守英さん(053F) あじろ 安城(庄野)あゆみさん(058D)

名称 株式会社黒川農産
〒959-2807
新潟県胎内市黒川1281
メール
kurokawanousan@gmail.
com
インスタ <https://www.instagram.com/ricekurokawa959/>



場所の説明

胎内市は米どころ新潟県でも北の下越地方に位置します。東の山間部に発して日本海に流れる胎内川によって、谷の出口から広い扇状平野が発達し、黒川地区はその扇の要の位置にあります。山々の残雪が眩しい3月初め、長岡から信越本線で新津、羽越本線に乗換えて無人駅の平木田で下車しました。迎えに来ていたあゆみさんの車に同乗して走ると、道沿いの集落の背後に広大な水田が広がっていました。

いつ頃から農業をやろうと思ったのですか

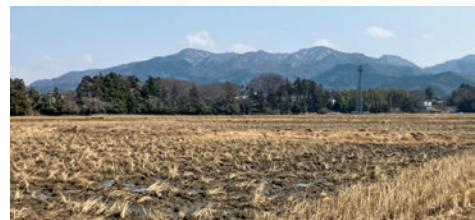
(守英) 大学を辞め、写真の勉強を始めて、それに関わる仕事をしようと思っていた20代はじめの頃、ある時から「やろうと思えば、なんでもできるんじゃないか?」と、将来の選択肢を広げて考えるようになり、越後妻有地域(新潟県十日町市・津南町)で開催される「大地の芸術祭」のお手伝いをする機会があって初めて「田舎」にちゃんと関わりました。便利な都会に慣れた私には、不便極まりない生活がとても面白く新鮮で、そこに住む人達の力強さに圧倒されました。そこから後は勢いで、自分が生まれた(祖父母が住む)土地で農業をやってみようと思い、米作りを一から学んで今に至りました。

(あゆみ) 私は北区十条で生まれ育ったので、親戚を見渡しても農業に携わっている人は一人もいません。小学生のころ「牧場物語」というゲームに触れ、もう楽しくて寝食を忘れ没頭しました。中3の進路相談でも「私、農業高校で本当の農業を勉強してみたい」と両親と先生に相談したら目を白黒されて、「まずは普通科に進学して、その先の大学で農業関連分野に進もう」と説得されました。

高校時代は放送委員会や軽音楽研究会の活動に打ち込みましたが、一途な気持ちは変わらず、大学は帯広畜産大学の畜産科学科に進みました。十勝平野は農業王国なので、大学生のアルバイトは引く手あまたです。



田植をする守英



早春の水田



収穫に活躍するコンバイン

私はそのうちの一軒のご夫婦の仕事ぶりとずっと仲良く笑顔で暮らしている様子に衝撃を受けて、「私も、夫婦で仲良く一緒に農業をやりながら生きていきたい!!」と強く思ったのです。

そもそも、そんな二人が知り合ったきっかけは

高校時代のクラブ活動では二人共に「軽音研」でしたが、学年差が5年あり互いに接点はありません。卒業後しばらくしてOB会の集まりがあって、共通の知

人から紹介されました。

(あゆみ) 農業王国十勝には近い年頃の農業青年はたくさんいましたが、彼らに話を聞くと私のように「夫婦で農業を」という考えの人がほほいませんでした。そこに現れた安城さんは貴重な「夫婦で農業したいと思っている」人だったので、これはご縁だな、と確信して大好きな十勝を離れる決意をしました。

(守英) あゆみさんを紹介された頃、結婚願望はありましたが、なかば諦めていました。なので紹介された時も農業に携わっているとはいえ、彼女は縁遠い存在だと思っていました。しかし話をしてみると、そのハッキリとした言動に惹かれてしまい、翌日にプロポーズしてしまいました。その一年後に入籍して今は結婚9年目になります。あの時ほど人生何があるかわからないな、と思ったことはありません。

経営の理念は

(守英) 面白いと思う選択肢をいつでもとれるようにしたいと思っています。不安にかられると無難な選択を取りたくなくなってしまいますが、それを選ばないように心がけています。それは自分との勝負みたいなもので、その勝負に勝ち越していきたいと思います。今のところ引き分けくらいです。

現在の課題は

農業を取り巻く環境は年々厳しくなっていて、この黒川地区では、今後規模拡大をしていけそうな農家は三軒ほどでそこでカバーできる面積は地区全体の三分の一くらいだと思います。ほかの個人農家の方たちは跡継ぎもなく70歳を超える方がほとんどです。なので今後、耕作放棄地が加速的に増えていくことが容易に想像できます。そうなると、病虫害の発生が増えたり、水路や農道の維持管理が困難になってきます。また、最近の経費の高騰分を価格に転嫁できていないこと、人材不足に天候不順、課題は山のようにあります。

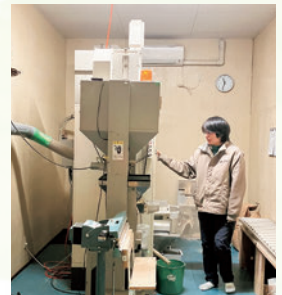
今後の夢は

これからもずっと会社も家族も成長していくことです。「しんどいなー」と思うことも多いですが、弱気に呑みこまれないように頑張りたいです。そして、皆さんにもっとお米を食べてもらえるようにしたいです。



あゆみも田植機に乗ります

す。もっと田舎に人が来るようにしたいです。もっと農業に携わる人を増やしたいです。小石川に農業科を作って欲しいです。たくさんの方に「おいしい」という幸福を味わってもらえるようにしたいです。



精米機

同窓生へ一言

(あゆみ) 弊社ではおおよそ40haの面積の田んぼを管理しています。みなさんがおなじみの六義園の面積が約9haですので、この面積をすべて耕して水を入れたり出したりするのは途方もないというイメージを持ってもらえたらと思います。

お米の味は、土地の人に言わせるとごく狭い範囲で味が違うそうで、その中でも黒川の私たちが管理している地域は「美味しい」お米がとれるようです。たまたま良い場所で営農できる喜びを忘れず、お米を作っていきたいと思っています。ご入用の際はぜひ黒川農産のコシヒカリをご利用ください。



黒川農産社屋の倉庫内にて

同窓生訪問

名門政治家一族に生まれて 小石川の青春は… 人知れず葛藤の中に？

—或いは政治家の気恥ずかしさについて—

2024.03.19

017H 鳩山友（由）紀夫

立志・開拓・創作の三校是を体現すべく、狭き「政治」への道を志す同窓生は、知る限り多くありません。それは、創立以来受け継がれた「校風」が、現実の「政治」を泥臭くスマートじゃないからと、はじめから他人事のように突き放しているからかも知れません。

今回は、2009年の旧民主党政権を率いた元首相、鳩山友紀夫さん（*）を永田町の事務所に訪ねました。鳩山さんは曾祖父の和夫氏から4代続く政治家一族に生まれ、歩んでいた理系研究者の道から30代で自らの理想を体現しようと政治の世界に転身されました。そして、現実の「政治」に翻弄され、ご承知のような「栄光」と「蹉跌」を一身に背負った方でした。

さて、既に政界から距離を置いて、今も折々の思いを発信し続ける先輩は、どんな横顔をお持ちで、何を語ったのでしょうか。

ジャーナリストの嶋沢裕志さん（026B）、日本近世政治史の研究者である福留真紀さん（044C）、編集の並木隆（022E）の3名による訪問インタビューは、持参した古い写真をお見せすることから始まりました。

（*）鳩山友紀夫→ご自身で使われる表記

◎私事ですが、（文京区）音羽にあった生家は、パンとお菓子を売る小さな店屋でした。戦争から帰った父は商いの傍ら、趣味で写真を撮り、戦後間もない頃の風景が写されています。

おそらく昭和29年（1954）、祖父の鳩山一郎さんの総理大臣就任の祝賀に集まった地元（音羽町・大塚仲町・坂下町）の提灯行列だと思います。

—これは、貴重な写真を拝見しました。庭先から撮られたものですが、建物の2階に見える窓の一つが（後に）私の部屋だったところですね。



◎祖父一郎さんが建てた「音羽御殿」ではどんな少年時代を過ごされましたか。

—はい、家族は住んでいましたが、実は生まれは港区の麻布です。母はブリヂストンを創業した石橋正二郎の長女で、小学2年くらいまではそちら（の家）で過ごしていました。

音羽には祖父一郎が総理を退任した頃に引っ越しまして、大学を出るまでおりましたが、住んでいたのは、祖父と祖母、父の威一郎と母の安子、兄弟は弟の邦夫、そして3歳半年上の姉和子と暮らしていました。3人の子供は皆が喘息持ちで、親父が大蔵省の役人だったからというわけではありませんが、家の中ではぜいぜいぜいと言っていました（笑）。



◎ご祖父とご祖母の思い出をお聞かせください。

—祖母の薫は、90歳過ぎまで一郎が亡くなってから相当長い間、一人で住んでいました。まさに明治女の代表みたいな、絶対に洋服は着ない、常に着物で暮らしていました。



祖父一郎、祖母薫、弟邦夫と

非常に精神的に強い薫のおかげで、一郎も引き立たせてもらったのではないかと思います。

私達が引っ越したときには、祖父は既に体調を崩し脳溢血で倒れた後で毎日会うような形ではなかったんですが、食事のときなど弟と私がキャーキャー笑っていると、自分が笑われたと思って、「何がおかしい」とか怒られて、怖いおじいさんだなどと思っていました。でも、天気の良いときにはベランダで、頼まれた色紙を結構二十枚ぐらい、常に「友愛」と書いていました。そのときに私の頭の中に強く印象に残った言葉でありました。

◎音羽御殿（現鳩山会館）といえば、音羽のお祭りが9月最初の日曜日であって、各町会のお神輿が下の通りから坂を上がっていきました。

——お祭りのときは必ず家まで上がってくる。今思うと歩くのだって結構大変な急坂ですけど、ワッショイワッショイとお神輿を担いで来ましたね。

音羽の家は、今年がちょうど100年なんです。関東大震災の翌年1924年に造られています。途中で母がリノベーションしまして今のような形（鳩山会館）で保っているのですが、100年の間に老朽化して、例えば天井が落ちたりと大変だったようです。



鳩山会館 表門(音羽通から)



鳩山会館 玄関ポーチ

◎鳩山家のルーツは岡山から？美作勝山藩の江戸留守居役のお家でずっと江戸暮らしをなさっている。

——そうなんです、勝山（現真庭市）です。ただその前も宮崎に居たとかいろんな説があつて。福留先生に調べていただくと、わかるかもしれないですけど。

◎学校は学習院初等科から中等科へ進まれました。

——私も弟も体が弱く喘息持ちだったものですから、多分母が楽をさせようと学習院を選んだのではないかと思います。その頃の私は、痩せた虚弱児童だったので、運動会が嫌で、雨が降ればいいなと思っていました。絵がうまかったり運動が得意な子が英雄のように思えて羨ましかったですね。

中等科では国語に面白い先生がいて、クラスを半分に分けて自分を呼ぶのに「僕」か「俺」かどちらを使うか論争させる授業をしました。自分が正しいと思っていなくても、理屈を考えさせられ、一人ずつ議論させるわけですよ。当時の私でも数字を足したり引いたり、漢字を書けとか言ったりそれなりにできますが、自分の主張をはっきりと理論的に言えってことは、なかなか難しい話ですよ。教育では、答えがある問題を解くことに重点が置かれがちですが、それだけではなく、新しいものを考え出す力を育てることが大切だと思います。中等科の一番の思い出はそこなんです。



幼稚園の頃、弟邦夫と私(左側)

◎小石川に入学（1962年）したときのことは。

——学習院から都立に行くのは結構大変でした。例えば学習院の音楽の先生は小出浩平先生という有名な方なんですけど、その先生は、ほとんど音楽とレコード聞きましょうと、1時間聞いておしまい。でも、都立の試験となると、音楽の問題に採点があるわけですよ。あと体育、職業家庭、図画工作の4科目、全く中等科でやっていなくて基本的な知識がない状態だったんです。しかし、母が文京六中を退職された先生に家庭教師をお願いして、試験に出そうな問題をやらせてくれたおかげで入れたと思うんです。

◎小石川での学生生活はどうでしたか？

——学習院では初等科は男女共学で中等科は別学です。共学になるのでワクワクしました。先生方も「開拓・創作」精神で、勉強しろ、しろとは言わないので、のびのびと学べたのは良かったですね。当時の日比谷とか他の受験校とは違い、数年前に飛び降り自殺した生徒がいて、それ以来、先生方がブッシュしなくなったと伺いました。

◎クラブは何か入っていたのですか？

——それを聞かれるのは嫌ですね（笑）。実は、あまりクラブ活動には参加してなくて、軟式テニスクラブに1日だけ出ましたがダメだと思って辞めてしまいました。だからクラブ活動の思い出がまるでない。そういう意味で劣等生なんですけどね。皆さん何か頑張っていましたいろいろとね。

◎クラスや学校行事など、その他のスポーツの機会は
どうでしたか？

——ある程度やってましたよ。クラスにインドネシア人が一人いて、去年死んでしまいましたが、彼は学年で一番サッカーが上手でした。卒業してからも付き合いがあって、私が総理の時にインドネシアに行った時、そこで再会しました。彼はいい奴で3.11の東日本大震災の後に突然やってきて、インドネシアにいい島があって、そこのある場所を福島の皆さんに全部用意できると言ったのですよ。でも当時も今もそうですが、福島だけじゃなくてみんな故郷から離れたくないじゃないですか。大変ありがたいけども、たぶん移住しようという人は出てこないと思うと断りました。運動会では200mを走らされた記憶がある程度です。

◎恋愛についてどう思っていましたか？

——高校時代は、友達が女の子に恋をしているのを見て、いいなあと思いつつ、結局は大学受験を最優先にしていました。

今思えば、もっとその時期を楽しんで恋愛などにも積極的になっても良かったかなと感じています。私の親友もクラスに好きな女の子がいましたが、うまくいっていないことが多かったですね(笑)。可愛い子はいたのですが、一言で言えば奥手でした。



軽井沢の別荘で仲良しの3人組
(左から竹内純一、平川次郎、私)

◎では、読書や映画とか音楽の方面はどうでしたか？

——読書はあまりしませんでした。弟の邦夫と武者小路さんの「友情・愛と死」とかなんかを読んで、人間関係、愛というものを実際には経験してなくても、熱くなっていた時期はありました。ただですね、男女共学でしょ？そうすると当然クラスの中でこの子好きだとかそういうのが出てきますよ。高校生活で一番ありがたいのは、いい友達を何人か持ったってことなんですけども、その友達がみんな女の子に恋するわけですよ。羨ましいなと思いつつ、「あんまり浮かれてると大学落ちるよ」とか、皮肉を言ったりしてね。でも今から思えばね、多感な時期に受験なんかよりも、恋愛とか人を愛する尊さみたいなものをもっと正面から受け止めておけばよかったなと。今から思えばバカバカしいんですけど、大学に入るのを第一に考えて、結局そういうものとは縁がなかった高校生活でした。

音楽はクラシックのレコードをよく聴いていましたが、演歌も好きで橋幸夫や森進一の物まねをしたり

していましたね。

◎担任は山名盛義先生(英語)ですが、どんな先生でしたか。

——みんなからは山名仙人って呼ばれていました。本当に仙人みたいな方で、ちょっと世の中から離れたような感じがして、面白い先生だったんです。一番記憶に残っているのは、高校3年の時(1964年)に東京オリンピックが開催されたんですけど、ホームルームで「私は東京オリンピックに反対だ」と。高校の担任の先生がですよ。その理由は、日本みたいな国ではなく、もっと途上国に花を持たせてやらせるべきだっておっしゃるんですよ。まだ今みたいな成熟した日本じゃなくて、戦後復興を抜け出して発展途上の頃にですよ。

◎先生はどういうお考えだったんですかね。

——すごいベラルだなと思うんですけど、実はその発想が頭の中にこびりついていて、私が総理の時にも私情を挟むとは思いましたが、コペンハーゲンでオリンピック招致のPR活動をやって失敗してむしろ良かったと内心思っていました。今回、2021年のオリンピックは、本当にいろんな意味で特別なものになりましたね。人も集まっちゃいけないという中で何とか実施されたんですが、結局、不祥事が目立ってしまった感じがします。いまや山名仙人のおっしゃってることは正しかったんじゃないかなって感じてるわけですけどね。でも、60年も昔にああいう発想になるってことは、すごいなと思っています。



017期担任団 前列中央に山名盛義先生

◎アジアで最初のオリンピックをやる高揚感があったと語る方はいらっしゃいますが、そういうお話を聞いたのは初めてです。他に印象に残っている先生は。

——やっぱり、鈴木由次(ゴンジ)先生ですね。ゴンジのことは、強烈な印象はあるものの、どう表現すべきかは悩みます。国語の授業なのに、いわゆる受験の

ための学びではなかったように記憶しています。例えば、『去年（こぞ）の雪今いずこ』とは英語で、Where is the snow of last year? と言うんだぞとか。だから面白かったのだと思います。確かそれが試験に出たと記憶しています。

◎高校から先の進路ですが、文系と理系の選択については悩まれましたか。

——漠然としていますが、小学校の時の先生が、「これからはエンジニアの時代だ、この国を、どんどん新しい技術で発展させていかなきゃいけないんだ」と言われたことが頭にこびりついています。一方で私は政治家のファミリーではありましたが、どちらかという国語苦手、文系よりも理系の数学とか面白くてやっぱり工学系だなということで理Iを受験したんです。

受験票を出して、いよいよ試験の数日前だったか、親父が突然、お前は文系に行かないのかって言うわけです。親父なんてほとんど家のことに関わったことがなくて、今まで息子のことなんか心配したことはないような男ですよ。もうお父さん遅いよ。自分としてはさっきの話をして理系に行きたいんだって話をしたんです。やっぱり親父自身が文科系の人間で、一時私に数学って世の中役に立ったことがあるのかって聞かれて、新幹線に乗るのも数学がないとうまく行かないよって話をしたんです。そのぐらいのギャップがありましたね。ただ最近子どもを文科系か理科系かに分けるのはいかなものかと思っています。



高校時代の一家
左から父威一郎、母安子、姉和子、弟邦夫、私

◎現役で入学した東大では工学部に進みました。大学では何を専攻されたのですか？

——工学部に入ったものの、技術を使って何かを作るとなると全然自信がなかったもので、極力体を使わずに学べる計数工学科に興味を持ちました。そこでは、最適制御や経営工学など、数学的な論理を持ち込んでいかに経営や設計を最適に仕上げるかという、当時のトレンドは音声認識などの技術でしたが、コンピューターの初期段階では難しい課題でした。私の関心は、脳の細胞間の情報の伝達を模倣してコンピューターを作れないかとのバイオニクスと呼ばれる学問に興味を持ちました。その辺を研究する初期の時代だったんですね。

◎1969年といえば東大紛争の末期で、安田講堂事件がありました。

——そう、大学の4年で、ちょうど安田講堂が落ちる頃。それを脇で弟と二人で傍観者として見てたぐらいなんですけど、考えさせられたことは事実ですよ。

当時コンピューターってすごい貴重だったわけですよ。でっかいコンピューターで場所を取りました。それを全共闘の連中がやってきて壊されたら大変だからと施設を逆封鎖っていう感じで、中に彼らが入れないようにしてしまっただけです（笑）。ある意味でかなり右寄りの発想とも言えますが、当時のコンピューターは貴重だったんですよ。家に帰ると親父は早く機動隊を導入せよと言い、それは駄目だとケンカしていました。大学では右、家では左ですね。

◎大学卒業後の進路については？

——紛争の影響で授業もない中で、バイオニクス分野の南雲先生という教授についてかなりいい加減な論文を書いて卒業しました。卒業は2ヶ月遅れましたが、まだまだ何も学んでないなという気がして、大学院に行きたいと、どうせやるならアメリカに留学したいと数ヶ所アプリケーション（願書）を出しました。一番最初に合格通知が来たスタンフォードに行くことになったおかげで、後の女房と会ったわけです。

◎アメリカに行かれた際に、後に奥様となった幸さんとの出会いがあったのですね。

——そうなんです。アメリカに行く実は数週間前に知人から（アメリカ在住の）橋本幸（みゆき）という方を紹介してもらい、スタンフォード大学はサンフランシスコの近くだから、向こうで何かあったらよろしくみたいな立ち話をしたのです。普通ならそれでおしまいですけど、偶然にも彼女が帰る飛行機と私が留学のために行く飛行機が一緒だったんです。空港に着いて荷物をピックアップするところで「鳩山くん」と呼び留められて、そこからぐっと近くなったという話です。

当時、妻は結婚していたのですが夫とは別れてくれて、その後、メイシーズという百貨店のジュエリーショップで働いていました。彼女は非常に積極的、接客上手な女性で、相当売り上げも良かったようです。やっぱり留学して一番ありがたかったのは妻と出会ったことかもしれません（笑）。



サンフランシスコで幸と

◎留学された当時の大学の雰囲気はどうでしたか。

——結局6年間アメリカにいました。最初は電気工学で修士を取り、その後オペレーションズ・リサーチに学科を変えて、再度修士を取った後にPhDに進みました。その間スタンフォードはローズボウルで2連勝するなど、アメフトが非常に強くてスポーツも楽しんでいました。また、ベトナム戦争の末期の頃でしたから反戦の雰囲気が残っていて政治的な動きも活発でしたね。一年中温暖なところで、人生を最も楽しんだ時期でした。



米国留学 カナダ旅行先で

◎日本に戻って東工大に奉職されました。

——実は東大時代に工学部野球同好会に入っていて、その時の先輩から「お前、帰ってくるなら俺のところに来ないか」と東工大の経営工学科に誘われました。それで助手として真壁研究室と野田研究室で4年半の間過ごし、スタンフォード時代に学んだことの延長のような研究をしていました。大した論文も書かないで東工大で遊んでいたようなものです。

◎学者や教師へと進む道から外れて、いつ頃、政治への志を持たれたのですか？

——幼稚園の頃から弟は祖父と同じ総理大臣になると言っていました。私は人前で赤面して喋るのも苦手でした。しかし、スタンフォードに弟が遊びに来て、田中角栄さんの門下生になって政治家を目指すぞと話したときに、私も「お前先にやんなよ」みたいなことを答えているんです。

1976年は私が帰る年でしたが、丁度アメリカの独立200年祭だったんですよ。アメリカ人が国を誇りに思い喜んでいる、そういう姿を見て、自分が日本人として誇りに思えるような国になるために何かできることはないんだろうかと、初めて自問自答して、いつか俺も政治の世界に入ることになるんじゃないかという気持ちを持ったんです。やはり自分も政治家を目指そうではないかと。好き嫌いとか似合っているとか似合わないとかいうことを超えて、やるべきだという気持ちに自分自身を奮い立たせたんですね。で、普通ならば、政治家になりたいとか言ったら、奥さんは「やめなさいよ、そんなもの」と止めますよ。ところが、うちの女房は逆に「やんなさいよ」と背中を押してくれました。

◎そこで出馬したご自身の選挙区は北海道でした。

——友愛繋がりなんですよ。曾祖父、鳩山一郎の父親の和夫の時代に北海道夕張郡の原野を明治政府から開拓を命じられて、現在は栗山町という町ですが、その地域に鳩山農場を拓きました。そこを小作の方が牛を飼っていたと思います。その地域にかけて農場があったので、栗山町に鳩山という名が付いた地区があるんです。そこにできた神社は鳩山神社という名前になって、私にとって縁起がいいじゃないですか、私が選挙に出た時も最初にそこに行って柏手を打ちました。曾祖父からの縁があったおかげで、直接的にはこの選挙区の議員が引退された際にお声が掛かり、私は選挙にこの場所を選ぶことができました。

◎小石川卒業生の政治家同士に、何かつながりはありましたか？また、共通点を感じたことはありますか？

——実際に何かあったわけではないんですが、心の中では小沢一郎さんや畑英次郎さん、村岡兼造さんなど、小石川卒の同窓生としてこれはつながるものを感じる嬉しさがあります。ただ、小石川同窓生が政治家として集まったことなどは実際にはありませんね。

みんな、政治家になりきっていないような、政治家でありながら、そのことに対して若干の恥ずかしさを感じているという点が共通しているように思います。そういうものが小沢さんにもあるような気がします。

お分かりだと思いますが、人前に出て、俺がやった、私がやってみたくにしゃしゃり出て話すのはみつともないなと感じるときはあるんです。ある時、小沢さんと街宣車に乗ったときに二人でボソッと喋ったんです。小沢さんが、「俺はこんなところで話すのは嫌なんだよな」って。私も「嫌です」とか言って、二人で嫌がりながら上にのぼって演説したりしてました(笑)。食事の時など、普通のオヤジなんですよ。酒飲むと、うめえなあとか言いながら。

◎世間からのイメージとご自身が感じるギャップについては。政治家は常日頃からいろいろ言われますよね。自身との折り合いのつけ方、どうやって自らの気持ちの中で処理されているんだろうと思うのですが。

——いい質問で難しい質問で、答えもないんですけども、私もそうで、小沢さんもそうだと思うんですけども、何を言っても批判的になりますが、それを逆手にとってそれだけ注目されていると気楽に捉えていることが一つありますね。私など、自分が政治家としてやろうとしたことが間違っているとは思っていません。

ただ、世の中はそうは見ずに鳩山は大失敗したみたいに思われている。それはやり方が下手だったし、辺野古の問題で迷ってしまったのは間違いはないんですけども、やろうとしてきた、自分の意図は純粹だと思っ

ている。折り合いをつけるということでは、信念、やろうとしていることは間違っていないと思いつけることが大事で、ある意味、自分で自分を慰めているのかもかもしれません。それが否定されたら、やっぱり政治家として生きていく価値がなくなってしまうような気がしますよね。SNSなどで書かれているものを私は一切見ません。SNSの悪いのは、無記名、無責任な批判ができてしまう。批判するなら、自分の名前を明かしてきちっと論理立ててやってくれば、これに対して私も答えたくりますが。

◎歴史に登場するどんな人物でも、当時と時を経ての評価が変わったりします。もしかしたら後世の歴史家に託そうという感覚をお持ちかなと思ったりもしますが、どうでしょう？

——全くないと言ったら嘘ですよ。私を批判する息子にも言うんですけど、いつか時代が必ずわかってくれる時がくるということ。

女房なんかは、あなたが言っているのは10年や20年早すぎると言いますが、(私は逆に)時代が進むのが遅すぎると言います。自分がやろうとしていた方向性が、いつかは正しかったという時が来るという信念は持ち続けています。それがあから生きていけるんだらうと思います。



◎一方で現在の政治に対する一般のイメージとして、政治家ってこんな人ばかりなのかと失望して、それが政治不信や無関心につながっている現状があります。

——本当に今、その責任の一端を私も感じているんです。民主党に対する期待が高かっただけに、それがあのような形で政権を手放したことで、その後の安倍政権が悪夢の民主党だと呼んだことで、民主党と政治に対する悪いイメージが定着してしまったんです。その結果、また元に戻ってしまった自民党の政治では、政治家やアメリカ、メディアとの癒着体質に染まっています。実際は経済も安全保障も民主党政権の方がまだましで、その後の政治の方がご覧の通りの悪夢なんです。

国民の命を大切に政治がなされていないと感じている人も多いと思います。折角民主党に期待したのに裏切られたという思いから、どうせ自民党を変えても同じではないかという政治不信が広がって、誰も投票に行かないよみたいな状況になってしまいました。でも誰も行かなければますます悪くなるだけなんです。こういう時にこそ、確かに不十分かもしれない

けれども、今の政治を変えるためには投票で一票の力を行使していただかなきゃいけないと思います。

◎後輩たちへメッセージをお願いします。

——今、ウクライナで戦争やってパレスティナで戦争やって、日本も台湾有事だとかいう話が出ている。日本は絶対に二度と戦争を繰り返してはならないし、加担してはいけないと思うんです。そのことを憲法にも謳っていますが、今一度国民として再確認する必要があります。世界が物騒になっているから、日本も軍事力を高めるべきだという声がありますが、軍事力を高めた方がむしろ狙われる危険を招きます。

大事なのは私が常に言っている「友愛」の精神、つまりお互いに相手を尊重して協力関係を作って行けば、嫌われなければ攻められることもないわけで、そういうお互いに相手を理解しながら助け合っているような、国と国の関係を作るために、今の若い人たちに頑張ってもらいたいと思っています。

それから、ネットの時代だから一人一人の関係性が薄くなっているかもしれませんが、私はそれを逆手に取ってというか、選挙だけではないですね、政治活動においてもネットをもっと利用して活動できるような状況を作れないかなと思うんです。投票自体もネットでやるようなことも世界では出ているわけですから、政策一つ一つに対して直接的にものを言えるような、こういう政策を国政の中で賛否を取ろうと思うけれども、意見を聞きたいとイエスカノーかで聞かせてほしいと、そういうことだってネットの時代ならできるだろうし、スマホを利用してもっと政治に参加できるシステムというものを作れば、若者たちも関心を持ってくれるでしょう。そういうものを若者たちが発想してシステムを作ってくれたら面白いと思っています。

◎まだまだ伺いたい話題は尽きませんが、紙面の都合もありますのでこの辺で引き取らせていただきます。



左から嶋沢裕志、福留真紀、鳩山さん、並木

インタビューを終えて

私が、「政治家一家の御曹司」「音羽御殿の住人」「総理大臣の時のテレビや新聞で報道された姿」「友愛」から、勝手に思い描いていたイメージとは、異なる素顔が垣間見えたような気がしています。穏やかなお話しぶりの中に、「信念」があるから、どのような批判にも耐えられるのだ、という熱い思いも伝わってきました。

小石川出身の政治家の方が、同時に多くいらした世代です。「みんな、政治家になりきっていないような、政治家でありながら、そのことに対して若干の恥ずかしさを感じているという点」が共通している、というお話が印象に残っています。特に、「人前に出て、俺がやった、私がやった、みたいにしゅしゃり出て話すのはみっともないなと感じるときはある」という思いと、それを共有しているような、小沢一郎氏との街宣車での演説のエピソードは、意外にも感じられました。「剛腕」と言われていますが、小沢氏も実際はシャイなお人柄なのかもしれません。お二人とも、政治家らしく振舞いながらも、その姿を客観的に見つめる御自身もいらして、そこに気恥ずかしさを感じられているのでしょうか。その冷静な視線に、小石川らしさのようなものも感じました。

まだまだやるべきことがある、と様々な面から新しいことを考え、意気盛んな御様子でした。これからも政治家として、その信念のもと、活発に活動されて行かれることと思います。

幸氏は、「あなたが言っているのは10年や20年早すぎる」、御自身では、「時代が進むのが遅すぎるような気がします」とのこと。後世の歴史家は、「政治家 鳩山由紀夫」をどのように伝えていくことになるのでしょうか。 (044C 福留真紀)

同じ音羽を故郷としても、谷間と台地の上では住む世界が違ってきます。子供の頃に親父から江戸川橋に近い(旧)七丁目に総理大臣の家があると教えられ、ある日、門から坂の上のお屋敷を見上げました。中でどんな暮らしをしているのか、その家の子は路地のゴロ野球や駄菓子屋で買い食いなんかしないだろうなど子供心に思いました。それから60余年、その家のお孫さんの元総理にインタビューする機会が来ようとは。

さて、お会いした鳩山さんは、穏やかに大らかに祖父から受け継いだ理想「友愛」を一途に語る「書生」のような人でした。逆に海千山千の権力闘争を常とする「政治」の場に居たことが、不思議な気もしました。

訪問後は毎回嶋沢さんと一杯やりながら感想を交換しますが、今後は叶わず残念で堪りません。(並木隆) (このインタビュー3日後、嶋沢さんは急逝しました)

嶋沢裕志さん最後のメール to 並木さん、cc 福留さん

本日もまた面白くて有意義なインタビューに同行させていただき、誠にありがとうございました。

帰宅後、「みんなの100年」を改めてめくってみたら、1964年の東京オリンピック、開催前のリハーサルに、当時の小石川1年生(O19)がソ連選手団、同2年生(O18)が米国選手団に扮して、国立競技場で実際に行進したようです。当時3年生だった鳩山さん(O17)は、したがって蚊帳の外なものでした。印象に残る先生として、ゴン次先生に関する感想を聞きそびれたのが残念です。せっかくなのでメモ書きでも頂戴できませんかね。

なお、ややうつむき加減ではありますが、鳩山御殿での祖父・一郎氏の首相就任祝賀会の写真に見入る鳩山さんの写真を、添付しておきます。では、今後ともどうぞよろしくお祈りします。嶋沢裕志拝

KIMOTO SEIBID

ご縁のきっかけになるものをつくってみませんか?

一人一人の悩みに寄り添う、ものづくりのパートナーを目指して

株式会社 木元省美堂

http://www.kimoto-sbd.co.jp/
〒113-0033
東京都文京区本郷1-20-3 中山ビル6階
TEL 03-6240-0588



詳しくはこちらから

1983年卒 (035) G組
木元 哲也



WEB HP

ウェブサイト
運用支援・制作

書籍 図録 冊子 名刺

デザイン
誌面
イラスト制作

キャラクター作成
グッズ制作

販促ツール

先生お元気ですか？

思い出深き 13 年間

1981(昭和56).4~1994(平成6).3在任
保健体育科 坂之井不二雄

私は、都立福生高校(定)から2校目として小石川高校保健体育科に赴任しました。板橋区立赤塚第二中学校出身の私は、ほとんどの男子がそうだったように当時41群の竹早と小石川では、小石川を希望していました。私の2歳上の兄などは、小学生の時から高校は小石川しかないものと思っていたそうですが、残念なことに二人とも竹早高校となりました。さらに、何とも皮肉なことに7歳下の妹が小石川高校になり、昭和56年3月に卒業、その直後に私が赴任したわけで、少々の昔の恨み?を抱えながらスタートしたことを覚えています。また、この年は本当に個人的なことなのですが、家を買って、1月に結婚をして4月に異動、そして秋には子供も生まれるという、人生の中でも大きな事柄を一辺にやってしまった年だったので、特別でした。そして、ユニークで偉大な先生方や優秀な生徒たちに助けられながら、小石川には13年間お世話になるわけですが、楽しく面白い出来事ばかりが思い出されます。

歴史のある建物は、かなり古びていたとはいえ、一足制で土足のまま教室まで行かれることが驚きでした。教え子の中には、休み時間に片足だけスパイクに履き替え、グラウンドでキックの練習をしていたラグビー部の猛者もいました。そして、唯一の内履きが体育館履きでしたが、どう見ても小学校の時に履いていた上履きに毛が生えたような底がペラペラの靴でしたが、それでも、体育の授業では誰も文句も言わず、激

しく動き回っていました。

冬場の持続走の授業もハードで、インターバルトレーニングを生徒と一緒にやるのですが、受け持ち授業のすべてで一緒に走るの、授業数の多い日は正直ヘトヘトでした。校舎改築中は、六義園の周りを走りました。校舎改築は平成2年から始まりましたが、グラウンドが使えないのは、授業は勿論クラブにおいても重大なことでした。

私は水泳部3年間の後、ラグビー部顧問を10年務めました。改築時は西高島平の荒川河川敷の空き地まで毎日通いました。木の一本もない水道も離れた場所に一つという環境は、真夏の炎天下は特に厳しいもので、自分も若かったのだと改めて感じます。先生方も元気で、生徒や他校の教員チームとも野球の試合を行い、経験もないのにキャッチャーやピッチャーをやり、また教育実習中には実習生も含めた教員サッカーチームでサッカー部と試合も行いました。今の学校現場では実現の難しいことばかりですが、本当に古き良き時代を過ごせたことに感謝です(残念ながら書けない内容の方が多数ですが…)

小石川から大泉、駒場、千早と63歳まで高校教師を勤めた後、現在は非常勤教員として都立の特別支援学校にて、知的障害のある子ども達相手に、分からないことや初めて知ることばかりで自分の至らなさを痛感しながら、何とか元気に6年目を迎えています。



体育科教師団 前列中央 坂之井先生(038期卒業アルバムから)



吾が校友の精神を

会員より送られてくる投稿を中心に、同窓生の文章を掲載いたします。どの文からも五中、小石川の立志・開拓・創作、自由闊達な精神を感じます。皆様も是非ご投稿ください。表題は校歌の一節から採用しました。

私の高野山紀行

～高野山夏季大学の思い出とコロナ禍後のお山と街～

022C 蛭間マサ子

【はじめに】

2024年元日の夕刻、龍が大暴れし能登半島に舞い降りしました。震度7の地震がコロナ禍から解放された故郷の町や村を粉砕したのです。石川県の中でも高齢者率の高い珠洲市や輪島町等で、能登独特の立派な瓦屋根の日本家屋が無惨にも崩れ落ちていました。この大地震に「住」を失ったあの日のことが蘇りました。



【36年前の夏の日の出来事】

1988年8月19日（金）、私は翌20日から和歌山県高野山の参拝を兼ね夏期休暇を過ごす予定でした。午後3時近くに勤務先の電話が鳴り、偶然にも私が受話器を取ると「蛭間さんという方はいらっしゃいますか?」「はい、私が蛭間です」「豊島消防署のレスキュー隊です。お母さんが自宅で生き埋めとなってしまいました。これから都立豊島病院に搬送しますので直ぐ病院に来てください」。受話器を手に呆然としていると「どうした!何があったんだ?直ぐ病院に電話してお母さんの安否を確認しなさい」「蛭間さん、早くお母さんの所へ行って」という上司と同僚達の声にハッと我に返り、ハンドバック1つを握りしめ飛び出しました。

日本銀行そばの勤務先からタクシーを飛ばし、雑司が谷の自宅前に到着すると、上空には数台のヘリコプターが旋回し、道路は消防、警察車両の他にマスコミ関係でごった返していました。私と急遽駆けつけた上

司2人の所にオレンジ色の制服を着た方が駆け寄り、「娘さんですね。お母さん、今、倒壊家屋、大屋根の下の隙間から救出され、病院に搬送されました。奇跡的に、本当に一步間違えたらという所から。外からは一見無傷に見えるのですが、詳しくは病院でなければ解りません」と落ち着いた声で説明されました。

この時、瓦礫の山と化した無惨な我が家の前で、とっさに「カリちゃんはどこ?」と叫びました。カリちゃんは母が可愛がっていた鯖虎の飼い猫で、4月の初め急に行方不明になってしまい、母は「カリちゃん、カリちゃん」と雑司が谷墓地を探し回っていたのです。そのカリちゃんの姿が崩れた大屋根の隙間に見えた気がしたのです。庭の桃や柿、銀杏の大木に登り下りられないと泣いた子猫の頃のカリちゃん、堪えていた涙が溢れました。

着の身着のまま、この瞬間に「衣食住」の「住」を失いました。この事故の夜、NHKのニュースで我が家が映り、奥の居間の太い梁が裂けた間からコダックのポスターが夏の陽に輝き、カリちゃんそっくりの鯖虎のネコが目細めていました。

搬送先の医師のお話によれば、母は細身で小柄なため、床の間のそばの隙間にすっぽりはまっていたこと、幸いにも火災が発生しなかったこと、救急隊に向かって目の前の電線を切ると叫んで感電しなかったこと、これらの幸運が重なったとのことでした。しかし即死であってもおかしくない現場からの救出でしたので、今後、後遺症が出ることもあるので気を付けてとも言われました。

住まいを突然失った私たち親子は、会社が用意してくださった池袋のホテルに1ヶ月余り、その後も経済的に大変だからと、都内にある留学生宿泊所で仮住まいをしました。ホテルには上司や同僚方が多々お見舞いに来られ、また、ニュースを知った大学時代の友人達が衣類や日用品を持って駆けつけてくれました。その日より時間が止まった感覚の中、折しも宿泊所では昭和天皇のご病状が刻一刻とテレビ画面を通し放映されていました。

事故より2ヶ月後の10月に復帰、入社すると会社

の皆さんからの丁寧なお見舞と必要な生活品まで支援してくださいました。この時の組合委員長が高校の同期生、隣のクラスB組の仲澤秀雄氏です。その折の勤務先、大学等のクラスメート、知人、近隣の皆様のご厚意を思うと今でも感謝の念に堪えません。

この事故から2年後のある晩、話しかけてきた母に、私は「今日は疲れているから明日お話し聴くね」との不用意な一言を返してしまいました。翌朝声を掛けると、母はポロポロ涙をこぼし、何か言おうとしても言葉にならないのです。言葉を発することができない失語症でした。生き埋めになったときの精神的なショックにより発症したのです。先の見えない治療（私の2週間毎の母の状況レポートと医師の母の表情観察）から2年後（事故から4年後）のある日「今日はみーちゃんのお好きなお刺身なの」と言葉を発し、長く重苦しい沈黙の日々は解消されました。

【私と高野山との出会い】

世界遺産「高野山」は和歌山県北部、伊都郡高野町にある地域の名称で、地理学上の山ではありません。周囲を1000m級の山々に囲まれた標高800mの山上盆地に、弘仁7年（816）に真言宗の開祖空海（弘法大師）が修行の道場として開いた「壇上伽藍」と呼ばれる根本道場を中心に、高野山真言宗総本山金剛峯寺（山号は高野山）大本山宝寿院のほか、117か寺の子院（約半数は宿坊を兼ねる）が立ち並ぶ日本仏教における聖地の一つです。古くより各地から入山した僧侶とそれらを支える多様な職種の方々によって現在に至る宗教都市が形成されました。

毎夏、高野山では各界で活躍する著名な講師を招いて「高野山夏季大学」が開講します。全国から多くの聴講生が集まる本講座の歴史は、古く大正10年（1921）の第1回「高野山涼風講座」に遡り、その後に各地で開かれる市民講座の草分け的存在と言えるでしょう。コロナ禍の為2年の中止がありましたが、昨年2023年（第97回）は8月4日から3日間、各界から著名な講師8名を招き、高野山大学松下講堂黎明館で開催されました。

私がこの夏期大学に初めて参加したのは1975（昭和50）年（第51回）、銀行入社1年目の年でした。参加当初は、特に信仰心が篤かったわけではありませ

ん。しかし、自宅損壊の事故から母が奇跡的に命を救われたのは、折しも高野山に詣でようとした前日でした。仏様が足止めをして下さったのではないのでしょうか。この事故を境に、今までの夏期休暇を兼ねた何気ない参拝が、現在に繋がる仏心の芽生えに変容したのでした。



壇上伽藍・根本大塔

—聴講した講座の思い出—

はじめて参加してから約半世紀、各回、濃密な時間を過ごした思い出の中から、いくつかを紹介します。

京都堀川病院の副院長早川一光氏の「ボケない方法教えます」（57回）。先生は、現「認知症の人と家族の会」を立ち上げた方です。退職後、大学院で学び直し認知症家族介護者の研究者となった私は、今から42年前に後に私淑することになる方に遭遇していたのです。

水上勉氏「良寛」（62回）。私は三島由紀夫氏の何かの批評をまともに受け取って、氏を「地を這うような人、暗く陰惨な人」という先入観から、作品に触れることは避けていました。最近「飢餓海峡」を読む機会を得て、松本清張の「砂の器」と比される小説を一気に読破しました。昭和29（1954）年9月26日発生 of 青函連絡船洞爺丸遭難のニュースの陰に隠れた北海道岩内町の失火にヒントを得て執筆し、戦後の闇市からのし上がっていく男、主人公犬飼多吉（こと樽見京一郎）の波乱に富んだ人生が描写されます。その中に私が生まれ育った豊島区「日ノ出町」「みずくぼ」という地名の懐かしさに一層この小説の虜となりました。

中村吉右衛門丈「源平の世界と歌舞伎」（85回）。テレビや映画、舞台でお馴染みな方を、画面を通さず直にその姿を拝見出来ることも講座の魅力の一つでした。とりわけ吉右衛門丈はすらりとした長身の好感の持てる素顔が歌舞伎座で拝見する姿とは異なり、14年前の夏、私はウキウキしながら1番前の席で演壇を見上げていました。その吉右衛門丈とも幽明境を異にして、有り体の表現ですが高野山での凜々しい姿がつい昨日のこのように思い出されます。



夏期大学講座プログラム



金剛峯寺 正門

【高野山の今昔】

2023年5月中旬、私はコロナ禍により2年遅れとなった母の七回忌のためいつものようにケーブルで入山し、馴染の宿坊である普賢院に伺いました。そこで見た景色と街並みは、正直48年前となんら変わらず、周囲の土産物屋も食堂も昔のままで、そのうち数件は閉店、閉鎖し



別格本山 普賢院 楼門

ていました。一方で、極楽橋からのケーブルの乗客は外国の方が9割で、ノースリーブありサンダル履きありで聖地のイメージとは程遠いものでした。

この4年間、日本各地でコロナが猛威を振るっていた影響で高野山では各寺院の団体参拝（団参）受け入れが出来ず周辺の土産物屋、飲食店が筆舌に尽くしがたい打撃を受けています。コロナ禍前、各寺院には代々の住職の出身地から檀信徒が観光バスを連ねて参詣に來られ、お布施を大盤振る舞いする檀家さんも多々ありました。ところがお布施どころか参詣もままならず、現在ある51の宿坊（寺院は117）だけでなく街全体があがったりなのです。



普賢院芭蕉堂

更に深刻な問題は各寺で修行をしながら高野山大学に通う「学僧さん」への影響です。名刹、管長寺と言われる大寺には以前は数十人の学僧がいて、修行の傍ら宿坊の主たる働き手でもありました。高野山大学は1886年創立、1926年大学が設置され各寺の子弟が通う密教学科があります。大学院には、密教学専攻、仏教学専攻を置き、世界遺産に指定された豊かな自然環境、歴史的伝統のなかで、密教・仏教の精神に基づいた教育・研究を行っています。

この大学を卒業することは僧侶にとって一つのステータスであり、以前は都会からも若者がその環境に憧れ入学してきたものです。

しかし、少子化によって大学にも経営の危機が迫っています。今、名刹の子弟は中学校から大阪、京都に母親と共に



高野山奥の院入口

に出向き、東京や関西圏の有名大学を目指します。明らかに高野山の街全体が、時代の変化とそれに追い打ちをかける4年余りのコロナ禍で疲弊してしまったようです。

そんな中で、去年は宗祖弘法大師空海の生誕1250年にあたり、山全体のご縁起として記念大法会と、街の復活、賑わいを祈念した様々な催事が街や寺のあちこちで行われました。私は打撃を受けていたけれども一生懸命起き上がろうとしているお山全体にエールを送りつつ、樹々深い中をケーブルで極楽橋へ向かって下山しました。

ほぼ半世紀前に、私を孫のように可愛がってくださり、「倅は静かなるもの 沙羅の花」と「仏心」の二葉のご染筆を託して下さった普賢院住職故森寛紹様の笑顔が深い木立の間に見え隠れしました。第406世金剛峯寺座主として君臨したあの頃、一体誰がこの世界中の脅威となった感染症コロナの発症を想像したことでしょう。1920年代にもスペイン風邪という疫病が日本に蔓延したのです。忘れた頃に歴史は繰り返されるのです。疫病も地震も然りです。



森寛紹師ご染筆

「私の高野山紀行」は、この目と耳と肌で神聖なお山がコロナ禍に立ち向かう姿を確かめる為の旅だったのです。

【おわりに】

いつ起こるか判らない自然災害。死生は隣り合わせです。36年前の雨続きの夏、日本家屋の築年数と瓦屋根の重量がもたらした我が家の事故でした。母を救助して下さったレスキュー隊長の部下だった方が地元の消防署長となって昨年4月に赴任されたのも何か深いご縁を感じざるを得ません。

改めて能登半島の被災地の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

2024年3月9日 寄稿



高野山の門前町 遠景

植物学者・鈴木和雄君

(022D 1951 - 2004) のこと

～牧野富太郎、連続テレビ小説『らんまん』を
きっかけに～

022D 千葉邦彦

仕事の傍ら、メディア論のようなものを書いて約半世紀になる。そのひとつに、月刊『通信文化』（発行：公益財団法人通信文化協会）に9年間連載しているエッセイ「放送の100年へ1925→2025」がある。昨年の2023年7月号で「牧野富太郎、蔦屋重三郎」と題して、植物学者牧野富太郎をモデルにした2023年度前期・連続テレビ小説『らんまん』（NHK総合テレビほか）と、“江戸のメディア王”蔦屋重三郎が主人公の2025年度大河ドラマ『べらぼう』（NHK総合テレビほか）をめぐって論じた。続く8月号と9月号では「牧野富太郎からの旅」と題して、畏友・故鈴木和雄君（022D組、植物学者、1951年 - 2004年。以下、鈴木と表記）について書いた。



筆者近影

これらを由美子夫人にお読みいただいたことを契機に、ご家族とご親戚、研究者の方々のあいだに、よき家庭人であり、人望厚く秀でた研究者だった鈴木を「心と同じくして偲ぶ輪」が生まれたこと、それは私にとっても大変嬉しく、感動的なことであった。

そして今回、鈴木を直接知る多くの人を含む小石川高校の卒業生、在校生、教職員の皆様に彼のことを語る機会を得たことは喜びに堪えない。本稿では、上記の拙稿のエッセンスをお読みいただいたうえで、植物学者としての彼の業績のごく一部を紹介することにした。小石川時代の思い出も数多くあるが、それらに浸るよりも、鈴木が歩んだ研究の道、抱いていた大きなテーマに関心をもつ人が一人でも多く現れることを願って書く。

I 牧野富太郎から鈴木和雄へ（2023年時点の記述）

連続テレビ小説『らんまん』（NHK総合ほか、2023年度前期）が好評を博している。実在した植物学者で、「日本の植物学の父」と称される牧野富太郎博士（1862

年 - 1957年）をモデルにした主人公・槇野万太郎の生涯を描く、大河ドラマのような風合いの朝ドラである。

私はたまたま「牧野記念庭園」（練馬区東大泉）のすぐ近くに住んでおり、折にふれて園内を散策しているが、『らんまん』の放送が始まって以来、庭園を訪ねる人が日に日に増えていくのを見て誇らしく思う。また、東大泉には花を育てている家が多く、日々心洗われるのだが、それは牧野博士が晩年をここで過ごしたことと関係があるのかも知れない。町の至るところに博士の底抜けに明るい笑顔の写真や絵を配したパネル、立て看板、幟が飾られていて、博士の蒔いた種が一齐に花開いているかのようだ。

最近、私の身近なところに、牧野富太郎に縁のある人物がいたことに気づいた。高校時代の親友が大きな意味で牧野に連なる一人だったのだ。彼の名は鈴木和雄という。

文京区大塚に生まれた鈴木は幼少時から植物に関心をもち、とりわけ羊歯を観察の対象としていた。小石川に入学すると彼を知る誰からも“羊歯博士”と親しみをこめて呼ばれ、その該博な知識は、生物担当教師の大滝末男先生も認めるところだった。

小中学校で生物部員だった私は彼の話を熱心に聞く一人で、小石川植物園（東大理学系研究科附属植物園）にも一緒に足を運んだ。彼は園内のさまざまな植物について説明してくれたが、その園内に牧野富太郎が37年間勤務した東京大学理学部・植物学研究室があることをそのときの私は知らなかった。



022卒業アルバムから（生物部）
鈴木君（後列右3人目）・春田先生（前列右2人目）・大滝先生（前列中央）

牧野と同様、目に触れる植物全てに興味をもつ鈴木は、あるとき私の家の庭をじっくり見て、「この庭は勢いが無い。庭は住む者の生命力を反映する」と呟いて、母を驚かせた。母はそれを機に庭の手入れに力を注ぎ、鈴木のお墨付きをもらえる庭へと蘇らせたのだった。母は鈴木を「見識のある立派な人だ」とたいそう気に入っていて、時折の来訪を楽しみにしていた。

卒業後、鈴木は自宅からほど近い東京教育大学理学部生物学科に進んだ。その後、東京都立大学で理学博士号を授与され、同大学理学部植物系統分類学講座（牧野標本館）助手から助教授、山口県立大学生生活科学部教授、徳島大学総合科学部教授を歴任した。1980年前後、私の赴任先だった広島に突然現れ、また、練馬

の新婚家庭にもふらっと遊びに来て、飲んで歌って泊っていった。その数年後、彼の結婚式で望まれたときには、高校時代に一緒に演奏したビートルズやローリング・ストーンズではなく、エルビス・プレスリーの「ラブ・ミー・テンダー」を歌った。その場面が昨日のこのように思い出され、感傷的になってしまう。



高校の強歩大会で(鈴木君 右)

というのも、2004年2月、彼は膵臓ガンのため入院し9月に早世したからだ。軸がしっかりしていて、心が温かく、素晴らしい人物だった。悲しみは途方もなく大きい。学会誌には、論文・著作など彼の多くの業績が記されており、植物学の世界が鈴木和雄という大きな存在を失ったことが門外漢の私にも分かった。

鈴木が病室で取り組んだ遺稿が、2019年9月、由美子夫人により、『マルハナバチと植物の話 送粉生態学入門』として出版された。「2004年の夏、病床で、控えめにはほほえみながら、『この本を書いてよかったよ』と言った夫、鈴木和雄の表情を何度も思い出します」に始まる「編集を終えて」を読むたび、胸が熱くなる。

由美子夫人、長女・ももさん、長男・胡太郎さん、同僚の研究者、編集者の皆様の共同作業に頭が下がる。今こうして鈴木業績を紹介することで、新たな誰かの知的好奇心を揺り動かすきっかけとなればと願う。



東京教育大研究室にて、鈴木君

『らんまん』には、鈴木が心血を注いで研究した植物が登場する。羊歯は、酷薄そうな田邊教授が自宅の庭で大切に育てている。イカリソウ(後述)の名は、万太郎夫婦が生まれてくる子の命名について話し合うなかで登場する。『らんまん』と鈴木とのあいだに縁を感じる。鈴木は若い頃、植物の調査研究のために屋久島に長い期間滞在した。雨が多く、日の差すことのきわめて少ない気候の下で体調を崩したとも聞いたが、調査研究は実り多いものだったに違いない。

鈴木先達である牧野も採集のために一時期住んだ屋久島とはどのようなところか、私も鈴木君の歴大な足跡のごく一部を辿るべく、できる限り早く訪ねてみたい。下調べを始めた私の助けとなるのが、NHKの自然・紀行番組の数々である。屋久島がユネスコの世界自然

遺産に日本で最初に認定されて30年の節目にあたる今年、(2023年)NHKは屋久島に関する番組を多数放送した。どの番組にも、NHKが長い時間をかけて屋久島の自然に取り組んできた成果が生きている。

植物学の研究者にとって、屋久島ほど魅力溢れる場所は国内には見当たらないのではなかろうか。2000メートル級の山々があるため、ひとつの島の中で南北に長い日本の自然植生を観察できる屋久島。そこには、地表を覆う苔類から樹齢1000年、2000年超、なかには7200年という信じ難い年月を経てきた天然杉の超老樹まで、多種多様な植物が生きている。そのような存在と時間を前にしては、人の一生も「放送の100年」もあまりに短いというほかはない。

II 植物学者・鈴木和雄

小石川時代から“羊歯博士”として有名だった鈴木君の研究対象は羊歯からやがてイカリソウ(メギ科イカリソウ属の落葉多年草)へ、そしてマルハナバチ(膜翅目(マクシモク)ミツバチ科マルハナバチ類の昆虫の総称)へと移っていった。それは何故だったのだろうと思い、研究の軌跡を追ってみた。鈴木君の著作



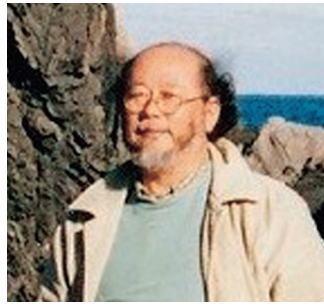
「日本のイカリソウ」書影

に、自然史双書『日本のイカリソウ 起源と種分化』(単著、八坂書房1991年)、『マルハナバチ・ハンドブック』(共著、文一総合出版)、『マルハナバチと植物の話 送粉生態学入門』(単著、同書制作委員会2016年)などがあるが、これらを読むと、私のような門外漢でも彼の研究の軌跡・アウトラインだけは理解できる。

『日本のイカリソウ』の「おわりに」で、鈴木君は自身の研究姿勢や道筋を大要次のように述べている。彼が何歳の頃だったかは定かではないが、ある植物の葉の形を不思議に思った。それが羊歯だと分かったときから、羊歯の葉の印象が心の内で勝手に動き出し、羊歯に深入りしていくようになる。それは中毒のようなものだったという。大学に入って生物学を学ぼうと、「学問的興味に基づいて取り組むならば、羊歯でも構わない、羊歯も他の植物も材料に過ぎない」と思うようになり、大学院ではイカリソウを材料に研究を始めた。そして、イカリソウの花から蜜を吸うトラマルハナバチに出会ったとき、遠回りをして研究の出発点に戻ってしまったように感じたという。

さらに、『マルハナバチと植物の話』の「はじめに」で、「『植物の進化(種分化)はどのようにして起こる

のだろうか』といった興味から私の仕事は始まった。学生時代にイカリソウを材料にしていた私は、その変異などを調べているうちに、イカリソウ属の各種に対応した送粉者があることに気付いた。この送粉者がイカリソウ属の種分化にとって大きな役割をもっていたのではないかと考えるようになった。その後、『植物の種分化へのきっかけとして、送粉者が植物のさまざまな形質への選択圧（注. 生物の進化において、ある形質をもつ生物個体に働く自然選択の作用のこと）として、どのように関わるか＝影響を与えているか』に興味の中心が移ってきた。そこで、イカリソウ属でも重要な送粉者であったマルハナバチに注目するようになった」と述べている。



高知県の海岸にて、鈴木君

松香光夫・吉田邦久著『生物学を読む』（玉川大学出版部）によれば、「種が確立しているためには、相互に生殖的な隔りがあることが必要だが、イカリソウの仲間では隔りたがははっきりしないものが多く、自然界で雑種ができる。ただ、それが新しい種に昇格するには、越えるべきいろいろな障壁がある。『日本のイカリソウ』はそうした道のりの1つを面白く読ませてくれる」（筆者により要約）という。

鈴木はイカリソウのフィールドワークで、植物、虫、環境の関係のなかで進化が起ることを肌で感じ、進化の過程に近づくには、植物分類学から植物生態学へと視野を広げていく必要があると語っていたという。チャールズ・ダーウィンの『種の起源』を見据えていたのだ。『マルハナバチと植物の話』の帯に、岸由二・慶應義塾大学名誉教授は、「マルハナバチと花の関係は、そもそもダーウィンの『種の起源』第3章に例示された適応研究の古典的テーマ。日本列島のマルハナバチと植物の関係を、送粉を巡る適応の観点から比較整理してゆく枠組みづくりに（鈴木が）奮闘された様子がリアルに伝わってくる」と解説している。

III 超えて行く

本稿には由美子夫人から伺った多くの貴重なお話や私が記憶するいくつかのエピソードを盛り込めなかった。たとえば、鈴木にはバレーボール部キャプテンとしての活躍があり、私とは音楽を通じての関わりが深かった。鈴木その他、同級の間馬理君、大勝恵悟君、中川茂君、藤野博君たちと後夜祭で演奏したことを懐か

しく思い出す。煌めくような、それでいてほろ苦い思い出については、またいつか書きたいと思う。

ここでは、そのうちの1つだけ紹介しておきたい。若者は常に空腹なものだが、私たちも、今思うと信じられないほどの食欲の持ち主だった。2時間目の終了と同時に、家から持ってきた弁当は食べてしまい、昼休みは母校創立50周年記念事業として建設され、オープンしたばかりの「紫友会館」食堂でメニューの全種類即ち、そば、うどん、カレーライスを平らげた。さらに、午後に休講があるときなどは、閉まっている正門を乗り越え、「餃子屋」と呼んでいた中華屋に行ってタンメンや餃子を食べた。鈴木を先頭に境界を越え、外へと出ていく私たち。「行くぞお〜！」と右手を振り回しながら走っていく姿は、のちの研究者としての鈴木をも象徴しているように思われるのだ。



022期バレー部男子 鈴木君(前列右)

IV 偲ぶ輪

今回、由美子夫人をはじめご親戚や関係者の方々から寄稿のきっかけとなった拙文の感想をいただいたが、紙面の都合により夫人のお手紙のみを紹介したい。「鈴木についてご執筆くださり、誠にありがとうございました。亡くなって、今年で20年となりましたが、それでも彼方へ旅立ってしまった鈴木のことを思い出してくださる方がいらしたことに、ありがたい気持ちでいっぱいになりました。長い間、思い出すことで寂しく感じてしまうことが続いておりましたが、この頃になって、何度も思い出すことがあるのは大事なことだと思えるようになりました。千葉さんのお名前はよく耳にしており、その千葉さんに、鈴木のことを皆様には知らせていただけるのは嬉しい限りです。

きっと、鈴木は、それはそれは喜んでいらっしゃると思います。私ども家族にとって、本当にありがたいことと感謝しております。先日、たまたま家族3人で食事をしましたが、長男がふと、屋久島に行ってみたくて驚きました。私の父（筆者注. 植物学研究者）も鈴木も屋久島に行っていること、さらに千葉さんから屋久島のお話がでていましたので、これはどういう偶然なのかしらと思いました。（以下、略）」

また、私はたまたま本校の大先輩である高山正也先生（012F、慶應義塾大学名誉教授）、唐木圀和先生（011A、慶應義塾大学名誉教授）、板谷駿一さん（011A、

元 NHK 専務理事・放送総局長)、大塚融さん (011A、元 NHK 経済部記者、経営史家) ほかの方々と「美楽研究会」(略称:美楽会) という勉強会をもっているのだが、先のエッセイについて唐木先生から感想をいただいたので、最後にそれを紹介して、長文を締め括ることにしたい。

「親友であられた植物学者・鈴木和雄氏に関する玉文をありがとうございました。メーテルリンクの『青い鳥』の「思い出の国」の章に、チルチルとミチルが亡くなった祖父母に会う場面があります。チルチルが「おじいさんたち、なぜここにいるの?」と尋ねると、おじいさんは「おまえたちが思い出してくれたからだよ。思い出してくれさえすれば、私たちはいつでもここにいるよ」と答えます。幼少時に読んだときにも、なぜか心に残りましたが、その深い意味が分かったのは、もちろん後年のことです。千葉様の哀惜の情のこもった玉文によって、優れた植物学者のご生涯が私たちの胸にも刻まれました。」

今年 4 月 6 日、私は鈴木に案内されてから 55 年ぶりに小石川植物園を訪ねた。そこでは様々な品種、夥しい本数の桜が遅い満開を迎えていた。この日の朝に届いた『日本のイカリソウ』を携え、家内に鈴木の話をしてながら散策した。奇しくも、この日は鈴木誕生の日であった。健在であれば 73 歳。研究者としてまだまだ活躍していたに違いない。青空のもと咲き誇る桜のなか、ありし日の鈴木を偲んだ。

(2024 年 4 月 21 日 記)

筆者プロフィール

1975 年 3 月、慶應義塾大学経済学部卒業。同年 4 月、NHK 入局。予算部、ハイビジョン特プロ、MICO ニューヨーク、海外企画局、放送文化研究所などに勤務。現在、一般社団法人メディア人フォーラム代表理事。日本メディア学会、放送批評懇談会などの会員

Facebook: 千葉邦彦

メール: superkunikotan2021@gmail.com

「国際人になれ!小石川人であれ!」

～俳優&LBIC代表社長～

032B 澤田和哉

[小石川生まれ]

私は文京区小石川生まれです。母は関西芦屋の出身ですが、父方は四代にわたる小石川土着の民です。幼稚園から中学まで、文京区大塚にあるお茶の水女子大学附属ですごし、小石川高校へ入りました。

高校時代は、六義園で友人と哲学を論じたり、校庭に寝転んで RC サクセションの「トランジスターラジオ」を聴いたりしていました。また、芸能祭で芝居を自主公演したりもしました。つまりあまり勉強はしなかったということです。



高校時代・創作展で

[大学入学と影響を受けた人々]

大学は早稲田に進み、その 2 年生の時、初めての海外旅行を、アメリカ・ニューヨークにしました。叔母がアメリカ人の建築家 (Shoji Sadao) と結婚していて、そこを訪ねたものでした。

叔父 (叔母の夫) は日系で、日米戦争 (太平洋戦争) 中、米国の戦時政策である「日系アメリカ人強制収容所」に隔離、収容され、そこで一緒だったイサム・ノグチ氏と戦後にパートナーを組み、生涯芸術活動をしていました。それは、芸術を通してアメリカそして世界に日本文化を花開かせる活動であったと思います。叔父には、もう一人リチャード・バックミンスター・フラー氏というパートナーがいて、彼の提唱した「宇宙船地球号」という理念の下、国境を越えた建築活動にも取り組んでいました。

他に、私が影響を受けた人物に、大叔母澤田美喜がいます。

三菱財閥本家の長女として生れた彼女は、家庭教師の津田梅子氏に英語を学び、外交官夫人となった後はイギリス・アメリカ・フランスなどで生活し、絵画をマリー・ローランサン氏に学んだという国際派でした。そして、戦後の混乱期に米国軍人と日本女性のために生れた混血孤児たちのためにエリザベス・サンダース・ホームという養護施設とステパノ学園という学校を創設しました。私が子供の頃、父母とそのホームを訪れ

るたび、見た目は白人や黒人のようでも日本語を話すこともたちと一緒に遊びました。

美喜は、その生涯で二千人の混血の子供たちを、日本社会に受け入れさせるように、そして、アメリカに日本の状況を理解させ支援してもらうように、海外の友人のジョセフィン・ベーカー氏やグレース・ケリー氏の協力も得て、精力的に活動していました。私は、「国際理解」の難しさと素晴らしさを、身近に肌で感じながらすごしました。

[SONY入社]

大学卒業後、SONYに入社しました。父は岩崎の末裔で四代にわたり丸の内の三菱の会社だったので、違うところで働きたいという思いがあり、そして、何よりも、国際的に一番名の知れた日本企業の一つという強い憧れがありました。会社は品川にありました。

入社式で創業者の盛田昭夫さんが祝辞を述べてくれましたが、「SONYをいつ辞めてもいい。あなたの人生はあなたが決めろ」そして、「日本人は世界の圧倒的少数、マイノリティである。このことは国際ビジネスをする上で忘れてはならない」これらの言葉は非常に印象的で、今でもよく覚えています。

SONYでは、ウォークマンなどの経営企画業務や事業 M & A (シリコンバレーのソレクトロン社、スペインの FICOSA 社、フランスの Cordon 社との提携、米国 audible 社の買収) の交渉に携りました。シリコンバレーとの契約交渉はまさに体力勝負です。1週間ごとに東京とシリコンバレーを秘密裏に行き来し、時に今自分がどちらにいるか解らなくなりました。

また、スウェーデンの会社との携帯事業の合弁会社であるソニー・エリクソンでも働きました。「携帯音楽ツールはウォークマンから携帯電話にとって代わる」と確信し、志願したものでした。これを見事に iPhone で実現したのは、SONY に憧れていた Apple 社のスティーブ・ジョブズ氏だと今改めて思います。

[海外に住み働く]

SONY 在籍中は、マレーシア、ドイツ、スペイン、フランス、韓国に赴任しました。初めの赴任地、常夏のマレーシアは、多様性に富んだ知らないことだらけの世界でした。豚食を禁じたイスラム教徒のマレー系、自由に食する仏教の中国系、牛食



マレーシアへ赴任

を禁じたヒンズー教徒のインド系、「三民族がお互い干渉を避け」共存して生きている国でした。ユダヤ教では甲殻類(海老・カニなど)は食事において禁忌ですが、ユダヤ系カスタマーを迎えたディナーのセッティングには大いに悩みました。結局「チキン」づくしにしました。

時のマハティール首相は「Look East 政策(欧米ではなく、日本を見習って経済発展をとげよう)」と唱えていました。また国のアイデンティティを強化するため、母国語を英語からマレー語に転換していました。余談ですが、拠点のお祭りで1万5千人の従業員の前で「日本文化を伝える」劇を私は企画し演じることもしました。

後年、10年間ヨーロッパにも住み、働きました。そこで痛感したのは、「日本ではよく『欧米』と一括りに言いますが、欧州と米国は別もの」ということでした。欧州各国の



フランスでの会議

独自文化が混ざり合ってきた欧州文化があり、その上に欧州諸国が EU で一つ(法律・通貨・軍隊)になろうとしているときでした。

フランス人の同僚は「我々ヨーロッパ人は国のエゴで散々殺し合った歴史の結果、今 EU として一つとなるべきなんだ」また、同僚のスペイン人は「同じスペイン語を話すが中南米の人とは何かベースが違う。ヨーロッパ人には共通の心がある」とも言っていました。



- ◎芸術は、歴史的に欧州ボーダレス→「ショパンはポーランドに生れ、パリで活躍し、スペイン・マヨルカ島に恋人ジョルジュ・サンドと逃避行した」
- 「ゴッホはオランダに生まれ、ゴーギャンとフランス・アルルで共同生活をし、パリ郊外で最期をすごした」
- ◎国民的スポーツは、野球ではなくサッカー
- ◎労務環境は、米国と違い、労働者寄り

上記の様に、「欧州とアメリカは別もの」と、私のアメリカ中心の世界観が変わりました。

韓国。街のいたるところに「シェルター」が配備されていて未だ戦争中を意識させますが、産業はアジア通貨危機をバネに、日本の「失われた30年」を尻目にしっかりと発展しています。サムスンも設立当初、

SONYにあこがれて追いつくことを目標にしていますが、赴任していた近年は半導体はじめ世界のトップランナーになり、逆に日本が学ばなければならない存在になっていました。

私の今いる芸能の世界でも、K-POPや映像（「パラサイト」や「イカ・ゲーム」等）も進化著しく、世界での存在感は日本を上回ります。顔立ちは似ていても文化的には異なり「日本人はものごとをハッキリ言わないので、わからない」と度々いわれました。

〔起 業〕

SONYを退職後、2019年LBIC（フランスでの駅弁事業『KOEDO paris』共同経営など）を設立しました。これは「合弁ではなく駅弁」です。la defenseという欧州一のビジネス街に4軒目の店を出し、テレビ東京で1時間の特番を放映してもらったり、フランスの雑誌『Marie Claire』にも取り上げられたりしました。これは食を通して、日本文化をフランスに伝える活動でもあると思っています。



フランスの雑誌で紹介される

〔俳優となる〕

そして、私は50代で俳優を本業としました。TVではTBS『半沢直樹』に出演しました。そのシーンが番組宣伝に使われ、TVではくり返し流れていました。NHK『鎌倉殿の十三人』の際は、鎌倉御家人役でカツラの扱いがとても厳しく大変でした。



『半沢直樹』出演シーン

映画にも出演しています。「48 H Tokyo 映画祭」に出品し、『環り道』という作品は、優勝すればカンヌ映画祭に行けたのですが惜しくも4位でした。

舞台にも、有名漫画家の倉科遼さんの作品を初め、数多く出ています。日韓合作大型時代劇『沙也可』が初めての時代劇でしたが、石田三成役で、共演した元宝塚男役スターなどの先輩俳優から、侍の所作を教わり助けられました。



三越劇場での『ごりょんさん』は、酒井法子さん扮する福岡の有名クラブママ藤堂和子さんの話。私は、

義理の父（大竹一重さん扮する和子ママの母親の初恋の人で再婚相手）役で、和子ママの20歳の誕生日にワルツを踊るという見せ場もありました。

演技のため、私は博多を知りたく初めて訪れ、お店「ロイヤルボックス」でママと一対一で話をする機会にも恵まれました。ママは、じゃんけんが強いことで有名で、ホリエモンがイーロン・マスク氏を連れて来た際、じゃんけんでマスク氏に完勝したそうです。私にも勿論、完勝です。



直近では『憶ひ出』という作品で、主演の元東京キッドブラザースの三浦浩一さんの弟役で、ベテランの俳優陣に混ざって自分に精一杯磨きを掛け、チャレンジしています。

CMにもでています。厚生労働省のCMでは、私が社長役で、社員役が元AKB48の北原里英さんでした。「役者は芝居の最終形。企画・脚本・音楽・演出と何年もかけ役者が最後の『蛇口』にいる。だから台詞の語尾などもこだわって忠実にやるべきだ」という考えも教わりました。

〔なぜ、俳優となったか？〕

国際理解の根本であるコミュニケーションを極めたいと思ったからです。芝居は、セリフ・所作・衣装など、色々な要素で構成され、それらすべてがコミュニケーション・ツールです。中でも言葉は文化の鏡です。世界で最も「口数の少ない」日本人、「もっとも間の空く」日本語を通しコミュニケーションというものを考えています。

〔国際人になれ！小石川人であれ！〕

今、改めて考えなおすと、「国際人になる」。それはコミュニケーションを極める、地球にいる自己を意識すること。そして「小石川人であれ」。それは自分に身についた文化、小石川で培ったものを忘れず大切に生きること。これをベースに私は生きてきた、そして生きていると思っています。

出演は私の下記のSNSに掲載させていただいております。どうか応援の程、宜しく願いいたします！

X (旧 Twitter) : 澤田和哉 (Kaz SAWADA)

@TokyoKazuya

Instagram : 澤田和哉 (Kaz SAWADA)

@extraordinary_moment.kaz)

Facebook : 澤田和哉

今、学校では

国際理解教育について

教諭 梶田真里

昔から脈々と受け継がれ、続いているものもあれば、進化しているものもあるようです。

私が学生として、小石川に在籍しているときは、教育理念「立志」「開拓」「創作」が大きな三本柱として、掲げられていたと思います。現在小石川中等教育学校では、「立志」「開拓」「創作」は生徒の精神には受け継がれ、中等1・2年を立志期、中等3・4年を開拓期、中等5・6年を創作期と名付けてもいます。また、その教育理念を実現するための具体的な方針として、「小石川教養主義」、「理数教育 (SSH)」、「国際理解教育」を3つの柱とした教育活動を行っています。

今回は本校の「国際理解教育」について紹介いたします。また、私は今中等5年（高校2年）の学年主任をやっているので、私の学年の生徒が関わっている事柄を中心に書いていきたいと思っています。

本校は東京都教育委員会から Global Education Network20 に指定されています。都立の20校が指定されていて、①国内外の課題解決に関する生徒の研究・発表の実施、②海外の学校等と継続的な国際交流、③海外大学進学支援等を活用した海外留学の促進等を推進しています。生徒一人一人にタブレットが渡されて、フィリピンの講師と3年生や5年生が30分程度一対一で英会話を行うオンライン英会話、ALTやJETといった外国人教員が多く、英語の授業だけでなく、探究活動の小石川フィロソフィーⅢの社会科の教員とコラボしたり、小石川フィロソフィーⅤで英語での Abstract やプレゼンの個別指導を行っています。



オーストラリア語学研修①（3年生）



オーストラリア語学研修②（3年生）

海外学校との交流も盛んで、フィンランド、タイ、中国、ニュージーランド等の高校生を受け入れ、交流を深めています。特に、3年生ではオーストラリアへの語学研修、5年生ではシンガポールでの海外研修旅行（いわゆる修学旅行の位置づけ）が本校のメインイベントになっています。そのため2年生では2泊3日で国内語学研修として英語のみの生活を過ごし、外国人講師の授業やスキットコンテストを行います。5年生の海外研修のために、探究活動の「小石川フィロソフィーⅢ・Ⅴ」等で学んだことをシンガポールの学校で発表したり、英語の授業でテーマを話し合い、シンガポール校の生徒とディスカッションをしたりします。

高校生での留学をする生徒も多くいます。「次世代リーダー育成道場」、「UCL（イギリス）留学」、「AFS（アメリカ）留学」等を利用したものや短期のもので「海外派遣研修（アメリカ東海岸）」等、海外に目を向ける事業を多く展開しています。

毎度この記事を書いているときに言っているかもしれませんが、私が高校時代に経験できなかった様々な分野のことを、経験できる機会が今の在校生には設けられていることは非常に素敵なことだと感じています。



シンガポール海外研修旅行（5年生）

今、学校では

2023年度 PTA活動報告

2024年度PTA会長 村上雅彦

紫友同窓会のみなさま、こんにちは。小石川PTA会長の村上雅彦と申します。前年度に続き、2024年度もPTA会長を務めます。どうぞよろしくお願い申し上げます。紫友同窓会のみなさまには、日頃より現役小石川生のことを気にかけて、様々な形でご支援をいただき、この場をお借りして篤く御礼を申し上げます。



小石川では4月に2024年度がスタートし、小学校を卒業したばかりのかわいい19期生を迎え、全6学年がそれぞれ学習に・部活に・課外活動に日々取り組んでいます。それでは前年度を振り返り、2023年度のPTA活動をいくつかご報告します。2023年5月の新型コロナウイルスの5類移行をきっかけに、あらゆる活動が一気に平常化（コロナ前の状態へ回帰）した1年間でした。

■ PTA 懇親会

コロナによる休止期間を経て、アルコールを含む飲食提供の形で完全復活1回目を6月に開催しました。学校隣接の文京グリーンコートに、総勢約110名のご参加をいただきました。校長先生をはじめ教職員、紫友同窓会のみなさまのご参加も賜り、学年・所属団体の垣根を越えて大いに交流を深め、盛り上がりました。終了後は「今後も続けてほしい!」とのお声もいただきました。

■ PTA 合唱サークル「こいカレ」本格活動中

前号の会報でも触れた、新しいPTA合唱サークル「こいしかわカンターレ（通称こいカレ）」ですが、とても活発に活動中です。前述のPTA懇親会で歌を披露いただくとともに、10月の紫友同窓会主催の創立105周年記念式典でも素晴らしい歌声をアリーナに響かせてくれました。さらに2024年1月には「文京区合唱のつどい」に出演し、あの文京シビックホール大ホール全体に響き渡る立派な歌声を聴かせてくれました。現在男性（男声）参加者が足りず、絶賛募集中です。同窓会メンバーで現在たのしく活動中の方もいらっしゃいますので、みなさまもぜひご参加をご検討ください!

PTA 活動報告

■ PTA 講演会

12月、恒例のPTA講演会を開催しました。できるだけ小石川OBの方を講師にお迎えすべく、毎年紫友同窓会には多大なるご協力をいただいています。今回もご推薦いただいた村上克己さん（1975年卒・元サンリオ・アメリカCEO & CFO、元サンリオ・ブラジル取締役、元サンリオ・チリ取締役）をお迎えし、渡米後35年に亘る米州でのキャラクタービジネスについて語っていただきました。ハローキティをはじめ各キャラクターにまつわる興味深いお話の数々は保護者（主に女性）に大好評で、質疑応答も活発でした。最後はご持参された多数のサンリオキャラクターグッズを、ジャンケン大会で多くの方に分け合うなど、大満足のお開きとなりました。



PTA講演会 講師：村上克己同窓会理事

■ その他にもいろいろ

・9月の体育祭はまだ暑さ厳しい時期の開催でした。PTAでは生徒たちの熱中症予防のために、冷えたスポーツドリンクを全生徒・教職員に提供しました。近隣の酒屋さんにご協力をいただき、地域貢献もできました。

・11月には学校近くの「お散歩企画」を行いました。東洋文庫・六義園・大鳥神社をめぐる半日コースで、終了後は巣鴨駅近くの中華料理屋さんでランチ会。学校近くの発見と保護者同士の交流に満ちた半日でした。

・親時の会（おやじの会）が活発に活動中です。従来の学校敷地での草取り・美化活動に加え、今ではスポーツ（千代田区立九段中等教育学校とのバレーボール・バドミントン）、ボードゲーム、山登りなどの各分野で交流を深めています。

・他校PTAの活動を参考に校長先生の等身大パネルを作成、卒業式では記念撮影スポットとして大人気でした。その他にもご紹介しきれないほどの活動がありますが、今後の報告をお楽しみに…。

旧職員だより

小石川での7年間

都立立川高等学校 保健体育科 万田友和

紫友同窓会報誌からお声かけ頂きありがとうございます。また、在任中は生徒の教育に多大なるご支援いただき、誠にありがとうございました。



春より都立立川高等学校に異動になりました。立川高校の同窓会名は「紫芳会」と言い、目にするたびに小石川のことを思い出します。立川高校では男女バスケット部と柔道同好会の顧問をしております。昨年まで、柔道部としてあった様ですが、部員がおらず同好会へ降格しました。しかし、今年10名入ったのでなんとか廃部にならず、活動していけそうです。小石川の柔道部も存続の危機ですが、全国的に“道”とつく活動人数が減少傾向であると聞きました。部活動の地域移行の動きもありますが、何とか存続方法を模索していたら良いなと思います。

小石川での7年間は今思い出すと、とても勉強にな

りました。異動1年目に生活指導部として、体育祭を担当しました。すべての生徒の行事に向かう姿勢や、運営など一生懸命行える事が、伝統になっていてとても感心しました。2年目から学年担任として13期を担当しました。中学生の担任は初めてでしたが、入学式での小学生のような身長の子たちが、6年間で“心も体も”とても大きく成長してくれたことが一番の思い出です。後期課程の体育祭で三連覇したのも“作戦”の重要性を学んだ一つでした。今年もC組が優勝できたのか気になります。生徒の自主性を重んじ、支える立場での生徒指導を徹底している先生方のスタイルも小石川で学びました。立川高校でも5月に体育祭担当として、運営を行いました。小石川のようにすべての運営は出来ず、差を感じたところでした。今後も小石川としての伝統を引き継ぎ、バージョンアップして行ってほしいです。

最後にメッセージということで、頼まれたらなんでもできる人が多いと思いますが、進んで自ら取り組める人は少なく感じます。小石川中等教育学校で学べるすべてのことは必ず将来役に立ちます。行事週間だけでなく、すべてのことに全力で取り組み、努力を積み重ねていってください。

笑顔を忘れず過ごしてください。また、いつかお会いできる日を楽しみにしています。

● 教職員令和5年度転出・令和6年度転入者等一覧

〈転出・退職者等〉

職名	教科等	氏名	転出先
副校長	社会(世界史)	三藤 政義	向丘高校校長
主任教諭	社会(世界史)	吉田 舞	国際高校
主任教諭	数 学	島田 径一	日比谷高校
主幹教諭	理科(物理)	田代 卓哉	小石川中等教育学校副校長
専修実習助手	理 科	武富 かおり	小山台高校
主任教諭	保健体育	万田 友和	立川高校
教 諭	英 語	ステイブンス 典子	国際高校

〈転入者〉

職名	教科	氏名	転入元
副校長(前期課程)	理科(物理)	田代 卓哉	小石川中等教育学校
主幹教諭	社会(世界史)	鈴木 智和	工芸高校
主任教諭	数 学	佐藤 雄基	品川区立豊葉の杜学園
教 諭	理科(物理)	渡邊 隆太郎	桜町高校
専修実習助手	理 科	稲村 美代子	竹早高校
主任教諭	保健体育	宮澤 広基	江東区立深川第三中学校
主任教諭	英 語	大谷 望	北園高校

●2024年度大学入試合格者数

(5月8日段階)

難関国立大学・国公立医学部医学科

大学名	学部	現浪	現役
東京	文科一類	2	2
	文科二類	0	0
	文科三類	3	3
	理科一類	5	5
	理科二類	6	4
	推薦入試(農)	(1)	(1)
東京工業	理学院	2	1
	工学院	1	1
	情報理工学院	2	2
	環境・社会理工学院	2	2
一橋	商	2	2
	経済	1	1
	社会	1	1
	法	1	0
	ソーシャルデータサイエンス	1	1
京都	法	1	1
	文	1	0
	経済	1	1
	総合人間	1	1
	工	2	2
国公立	医学部医学科	7	5

国公立大学	現浪	現役
北海道	1	1
東北	1	1
筑波	12	10
千葉	5	4
お茶の水女子	4	3
電気通信	3	1
東京	16	14
東京外国語	1	0
東京海洋	1	1
東京工業	7	6
東京農工	4	3
一橋	6	5
横浜国立	3	2
山梨	1	1
信州	2	1
京都	6	5
大阪	2	1
滋賀	1	1
金沢	1	0
宮崎	1	1
琉球	1	1

国際教養	2	0
東京都立	2	2
国公立大学合計	83	64

上記、国公立大学のうち、

医学部医学科	現浪	現役
筑波	2	2
信州	2	1
千葉	2	1
山梨	1	1
合計	7	5

海外の大学	現浪	現役
King's college London (英)	1	1
Newcastle University (英)	1	1
University of Lancaster (英)	1	1
University of Manchester (英)	1	1
The University of Sydney (豪)	1	1
The University of Melbourne (豪)	2	2
合計	7	7

私立大学	現浪	現役
愛知医科	1	0
青山学院	10	9
江戸川	2	2
桜美林	2	2
学習院	3	2
北里	2	2
共立女子	1	1
杏林	1	1
慶應義塾	33	30
工学院	3	3
国際医療福祉	3	2
芝浦工業	10	6
上智	39	32
昭和女子	1	1
昭和薬科	1	1
成蹊	3	2
成城	2	1
聖マリアンナ	1	0
専修	2	2
多摩美術	1	1
中央	27	18
津田塾	5	5
東京工科	4	4

東京慈恵会医科	1	0
東京女子	5	5
東京聖栄	2	2
東京電機	3	0
東京都市	1	0
東京農業	1	1
東京理科	56	47
東邦	2	2
東北医科薬科	1	0
東洋	12	11
獨協医科	1	0
豊田工業	1	1
二松学舎	1	1
日本	5	2
日本医科	1	0
日本女子	2	2
藤田医科	1	0
法政	30	26
星薬科	3	3
武蔵	2	2
武蔵野	4	4
武蔵野美術	1	1
明治	45	36
明治学院	3	3
明治薬科	2	2
立教	37	31
早稲田	62	46
立命館	3	3
麗澤	2	2
私立大学合計	447	360

上記、私立大学のうち、

医学部医学科	現浪	現役
北里	1	1
杏林	1	1
国際医療福祉	3	2
聖マリアンナ	1	0
東京慈恵会医科	1	0
日本医科	1	0
愛知医科	1	0
東北医科薬科	1	0
獨協医科	1	0
藤田医科	1	0
合計	12	4

生徒進路状況

国公立大学	私立大学	海外大学	就職	浪人
59	53	1	1	35

❀ 同期会・クラス会 ❀

012Eクラス会

日 時：2023年7月6日（木）
会 場：巣鴨 丸八寿司
幹 事：庄司興吉、前川英樹

コロナ禍が過ぎ4年ぶりのクラス会を開催し、久しぶりに気兼ねのない会話を楽しました。出席者は井戸禎光、木村裕、関矢英士、永田尚義、播磨（相良）雅子、行田明夫、庄司興吉、前川英樹の8名でした。



私たちのクラスでは、クラス会とは別に時々の話題を巡る意見交換の場を年に4回程度続けています。この数年は「オンライン」が多いのですが、いろいろなコメントが自由に飛び交い、なかなかいい場になっています。秋になったら、こちらも企画する予定です。

012Fクラス会

日 時：2023年10月6日（金）
会 場：六本木ヒルズクラブ ラ・クッチーナ
幹 事：斎藤博明、杉本征宏

出席者：14名（1名はカナダからZoomで参加）

常任幹事が逝去したため、クラス会は2013年4月以来開催されていませんでした。斎藤と杉本君が勝手に幹事となり、同級生に連絡をとったところ、52名中13名が集まりました。眺望絶佳な「六本木ヒルズ クラブ・ラ・クッチーナ」でのクラス会では、初めに3年間ご指導を賜った（故）笠井寛先生と、確認された6名の逝去者に黙祷を捧げ、レストランの係員からメニューの説明を受けたあとに、皆で乾杯をしました。

まず斎藤から、クラス会を開催するにいたった経緯を説明し、幹事二人が同級生に連絡をとっている中で得られた情報を報告しました。その後当日のメインとなる参加者による在学中の思い出話や、近況報告があり、久しぶりのクラス会を終了しました。



013Aクラス会

日 時：2024年3月30日（土）
会 場：私学会館 市ヶ谷
幹 事：大木且夫

出席者：大木且夫、伊藤 敬、篠原邦夫、渋谷雄三、白砂（高嶋）文子、田野和夫、野村純一、前原忠行
卒業時の51名のうち逝去者13名、連絡先不明が4名で、連絡が取れている34名の内の8名が出席した。去年のクラス会は3月27日で桜が満開だったので、今年もお花見！と思っていたが、残念ながら今年は開花がちょっと遅かったようだ。逝去者への黙とうから始まり、卒業アルバムを眺めながら高校時代の思い出にふけったり、近況を語り合った楽しく懐かしい2時間だった。



015Gクラス会

日 時：2023年11月29日（水）
会 場：池袋東武百貨店 14F バンケットホール
出席者：14名 岩倉、大坪、小川（平林）、鬼沢、栗林、五味（安藤）、斎藤（加藤）、佐藤、中根、難波、野口、山崎（後藤）、山崎、山地（島）
幹 事：岩倉暢宏

日時と場所を上記のように決め、卒業時の50名のうち逝去者6名、所在不明者8名を除く36名に、10月20日に開催案内を送付した。担任は国語の故吉田良夫先生。平日昼間の時間帯の3時間としたので、年齢的にみて出席可能者は多いだろうと考えた。結果的に14名の参加者を得、コロナの影響による休止を挟んで4年振りのクラス会となった。当日は、遠くは名古屋から新幹線で、近くは自転車で。各人の小石川時代の思い出や近況報告で3時間が直ぐに過ぎてしまい、最後に集合写真となった。また二次会も、1名は所用で欠席したものの13名が残り、屋上テラスの寒い中で歓談となった。次回は暖かい時期に開催するのがよいだらう。

次回幹事：山崎顕充、小川律子



019Eクラス会

日時：2023年10月25日（水）

会場：巣鴨 泰平飯店

幹事：黒田太志男、前田ゆり子

出席者：11 + 3名（ビデオ通話で参加）

最近固定会場としている、巣鴨駅近くの中中華レストランで開催。人数が減ったために、オープンな仕切り内の一般席となってしまいました。初めの1時間は食事と会話とし、そのあとに初めて、ラインでのビデオ通話を行いました。コロナの成果？と言えましょう。

通話状態は問題ありませんでしたが、ハウリングが起こらないように会場側は1台で話をしたので、スマホから離れている人は、オンライン参加者の声が聞き取りにくかったかもしれません。



二次会は喫茶ルノワールの個室を借りてビデオ通話は行いませんでした。会議とは違って、やはりクラス会は、オフライン・リアルの会話に勝るものではありません。

021Gレディース会

龍年、弥生は21日のこと。空はどこまでも青く、明るさを増した日差しの中、21G組レディース10名が一堂に会しました。場所は巣鴨「泰平飯店」。今はビルの4階に看板を挙げています。

在学中G組女子は15名在籍していましたが、すでに3名は泉下の客となり、久方ぶりの心躍る会合ではありますが、一抹の寂しさは拭いきれません。

021G組は、これまでに途切れることなくクラス会を開いていますが、女子メンバーで積もる話を喋くろうと宿泊でのパジャマパーティーや鎌倉での食事会等々何回か楽しいひとときを過ごしてきました。

今回、結集したレディース仲間は、当時の面影を色濃く残しながらも、それぞれに美しく？年齢を重ねてきた来し方を静かに省みつつ、輝ける！高齢シニアたらんと抱負を語り合いました。70歳を過ぎたからこそ、この時を大事に慈しみながら暮らしたいこと、ささやかなチャレンジでも続け、やり残しのない人生にしたいこと等々、共感の輪を広げて、あっという間にコース料理を平らげていました。食後は、もちろん、巣鴨の地蔵通り商店街を練り歩き、レディース仲間（松宮初枝）のサンまつみやさんを始め、ウインドショッピングを楽しんだひと時でした。（鈴木由美子 記）



021Hクラス会報告

2024年4月20日の午後2時、千石一丁目交差点付近にある中華料理店「味珍」にてクラス会を開催しました。前回は2018年11月17日でしたから5年半ぶりのことです。この間、新型コロナウイルスの感染拡大があり、幹事は随分と気をもみました。でも、店に次々集まってくる同級生の元気な姿がすぐに心をなごませてくれました。そうして誰しもが待ちに待ったクラス会が始まりました。

021H組は各人が個性豊かでカラフルな集団でした。

この日は店の休み時間を利用したので、ゆっくりと、18名の近況や思い出話を聞くことができました。高校時代に借りた25円を返済したい、利子をつけるぞといえ、横から弁護士がいや利子はいらぬという。抗マラリヤ薬候補の5-ALAを抗コロナ薬として実用化しようとする開発現場の話。小石川中等教育学校の受賞で知られる日本学生科学賞の審査員の話。話は尽きないのでした。

閉会前に、担任だった住谷正夫先生に関する報告がありました。3年前の7月に先生は亡くなっていました。白衣姿の小柄な先生が授業で特製の太い試験管を振る姿が思い出されます。3年間共に過ごした思い出を胸に、ご冥福を祈ります。

あとは巣鴨駅方面の喫茶店で2次会を行い巣鴨駅へ出て解散です。電車の内外でつい手を振り合って別れを惜しんだのでした。次回からは、定例化して、毎年開催する予定です。(小泉則彰 記)



022Bクラス会報告

2023年12月、9年ぶりにクラス会を開催しました。コロナ禍もあって暫くクラスの集まりが無く、メールアドレスが判る人数も20名程度と少なくなったため、連絡網を再構築することから始めました。

紫友同窓会事務局からB組の名簿を提供していただき、2023年8月現在で逝去者7名、連絡先不明者3名でした。住所が判明している40名宛にクラス会開催の趣旨と開催予定日を送り、同封の返信用はがき等で開催希望日と各人のメールアドレスを返信してもらいました。幸い、ほとんどのクラスメートから返事が有り、今後は電子メールでの連絡が可能となりました。

12月2日(土)午後2時より、文京グリーンコート内の「トラットリア・イタリア」にて18名が参加してクラス会を開催しました。新しいクラス名簿と当日出席できなかった学友からの近況報告を配布し、乾杯の後すぐ懇談に入りました。アトラクションなど特に用意しませんでした。久しぶりの顔合わせでそれぞれ話が弾み、適宜座席を交替しながら歓談し、予定の2時間があっという間に過ぎました。筆者は先約があり参加できませんでしたが、西村君がセットした二次会にも半数以上が出席し、盛り上がったようです。(勝見博 記)



022D組クラス会 ～D徒の仲間たち～

2023年11月12日(日)、後樂園メトロエム駅ビル6階の「北海道」で午後1時から、022D組のクラス会が、総勢14名(男性9名、女性5名)の参加のもと開催された。幹事役は、男性は石井孝夫さん、女性は千田(旧姓:後藤)好子さんのお二人。これまで、まとめ役だった興津光一さんが2023年1月に逝去され、お二人が引き継いだかたちであった。

1970年に卒業以来、はや半世紀を超えたが、まだまだ元気に活躍されている様子が皆さんの話から伺えた。掲載の写真をD組のメール(30名参加)で送ると欠席された仲間からは、皆さんの様子やお顔を拝見し、楽しい様子が伝わってきたという返信が多かった。

D徒仲間では、定年後、趣味を発展させ、生きがい見出している方々が多い。高校ではテニス部であった窪田さんの和風小物「名刺入れ」は、『中央区推奨土産品』に、認定されている。水泳部であった石井さんは、光雲会という教室を主宰し、木彫りの彫刻の教室を開催したり、作品を展示販売している。筆者は仕事の都合で遅れて参加したが、久しぶりに集まった「D徒」の仲間は、若い時の思い出や今の暮らしについての話が尽きず、瞬く間に予定の2時間を終えた。(杉測武 記)

(注)「D徒」は、卒業後筆者が中心となって作った文集名



022E「ゴンジ丸」開催

日時: 2023年11月26日(日)

会場: 紫友スタジオ 参加者: 15名

クラスメールで6年ぶりのクラス会開催を呼びかけると、まずは場所と内容に関してオープンな議論が始まる。

参加者が自由に話すためには座席を固定しない方がよいとの意見から、今回は、母校前の「紫友スタジオ」を借りることにした。当日は少し肌寒い天気でも、遠路福岡と長野から旧友が駆け付け、ひさしぶりの再会に終了時間も気にせず盛り上がり、幹事はハラハラし通しだった。

また、事前に料理（ケータリングとデパ地下購入）と酒類（酒屋から調達）を持ち込みする形にしたが、皆が年相応に食は細り酒量も落ちたことを実感し、見込みよりも余ってしまい、ちょっぴり反省しています。

それから、小林君から今が旬の信州リンゴの大箱が届き、また、野中君からは韓国焼酎の差し入れがありました。何はともあれ、皆さんの変わらぬ笑顔と毎度の協力に感謝です。（並木隆 記）



（惜別）クラスでも不動のゴールキーパーとして何かにつけて頼りになる男、野中俊秀君が、本会での歓談を最後に2024年1月、病により旅立たれました。

022G組クラス会(オレンジ会)を開催

1月13日、16:00、凍てつく雪空を衝いて水道橋・菜の家に20名が参集し、まずは、細川君、杉本君、横塚君、国枝先生4名の逝去者。併せて年明けの能登大震災の犠牲者の冥福を祈り、献杯。

続いて乾杯からスタートのクラス会、例年ならここから近況報告、歓談というのが常ですが、今回の趣旨は“全員参加”当時の出席番号札をランダムに引き、参加者には主に近況報告を。欠席者、逝去者についても当時の彼等、彼女等のエピソードを思いのままに語るということにして50名のクラスメート全員をこの宴の主役に。“青春は密”一次会終了予定の19:00を過ぎても終わりが見えず、二次会へと引き継がれる。一次会の締めは、もちろんG組応援歌“見よ秋空”だ。

所移さず、二次会参加者は15名、エピソードが続く。「あいつ何してる？」卒業後連れ立っての旅の話、数学探検者のピンポン武勇伝、縁あって共に参加の政治デモ、忘れ去られた秘密のデート。部活、体育祭、あの先生、あの授業。完全にタイムスリップ！熱い語りが飛び交う。21:00終了予定の5分前、全員のエピソードが終了！！最後は022のテーマソング“人生の扉”でお開き。外へ出れば、我々の熱に恐れをなしたか、雪も止み、強者10名ほどはさらに三次会へと巷に繰り出した！！

それにしても、自然に親しむ友のなんと多いこと。カヌースラロームで水に親しむ者、野菜作りで土に親しむ者、山の麓に住まう者、毎朝定点で日の出を撮影する者、ネパールまで出掛けトレッキングに汗流す者。二年時の創作展、クラス展示のタイトルは「溪谷賛美」皆その頃からその素地があったのだろうか？（文責：柳川弘行）



022H組クラス会

9月16日（土）に、池袋ライオンにて参加者21名+長谷川俊明先生とお嬢さんの直子さんを交え、久しぶりのクラス会で盛り上がり、遠くは、高松、広島、仙台からも参加がありました。



今回は、泉雅文さん、塚田成四郎さんの叙勲のお祝いも兼ねたのですが、なんと、長谷川先生も10年位以前に叙勲されていた事がわかり、今回は3人のお祝いを兼ねたおめでたいクラス会となりました。参加者からのささやかな記念品（名前入り一筆箋と名前入りボールペン）をお渡しし、喜んで頂く事ができました。

まずは昨年急逝した諏訪君と、近年亡くなられた022の仲間の冥福を祈りました。我がクラスはこれまでに7名の方が鬼籍に入っており、こうして元気に集える事に感謝しましょうと、うなずき合いました。

長谷川先生（94歳）もお元気で、毎日デイサービスに通っていらっしゃるとの事でした。お嬢さんは、こんなに楽しそうな父を見たのは久しぶりでとても喜んでくださいました。

終了後はもちろん2次会、3次会へ、（昔の）女子は4次会へと進み、楽しいクラス会となりました。という訳で昔の女子の方がもっと元気という横内からのご報告です。（横内正代 記）



026C組クラス会の報告

日 時：2024年4月21日（日）
場 所：丸の内 東京會館 ロッシニテラス
出席者：17名 幹 事：石川雄久 芦村紋子

1974年の卒業からついに半世紀が経ったので、卒業50周年記念のクラス会を開催しました。開催するにあたり級友のツテをたどりながら連絡先不明者を中心に出来るだけ多くの面々に声掛けをした結果、女性の反応が良く出席率は60%近くになりました。

卒業後遠隔地に行くとクラス会参加が難しく、30年ぶりや50年ぶりとなる仲間たちも出席して大変賑やかで楽しいひと時となりました。

恩師下河嗣朗先生も御年94歳とは思えない溘刺さで皆を驚かせました。曰く「きょうようときょういく」が大切と。出席者全員「今日用がある」「今日行く」ところがあるシニアライフを再確認しました！

026CはLINEグループを形成して普段から近況等をシェアしています。今回参加できなかった面々も声を寄せてくれました。



034Cクラス会および還暦祝賀・追悼花火

日 時：8月5日（土） 19時～20時半
場 所：第63回いたばし花火大会（荒川河川敷）
幹 事：井坂明洋

参加者9名とやや小規模でしたが、4年ぶりにクラス会がいたばし花火大会に合わせて開催されました。写真は打ち上げ前の様子です。



当日は花火大会の途中で火災が発生したため、中止となってしまい、残念ながら「私たちの花火」の打ち上げはありませんでした。それでも間近で大迫力の花火を鑑賞でき、当日打ち上げられた全ての花火が還暦祝賀・追悼花火だったと思っています。



025学年同期会を開催

最近にしては珍しく桜がまだ咲いていなかった2024年3月30日（土）に大手町サンケイプラザにて025学年同窓会を開催しました。小石川卒業50周年と古希のお祝いに88名が集まりました。当日は健康問題などで6名の欠席者があった事と、A組担任の西川朝彦先生も体調の問題で欠席となった事が残念でした。

昨年の後半、コロナ禍が落ち着いてから各クラスがクラス会の開催をしたので学年同窓会への参加者は少ないのでは？と予想していましたが、90名を超える申し込みで会場の広さを心配する状況でした。また、母校創立105周年盛り上げ企画として同窓会が企画した「2023年度中の学年同期会開催支援補助金」を利用させていただき、年度末ぎりぎりの3月30日の開催となりました。（紫友同窓会に感謝！）

報告：025I 田辺不二夫



064(中等1期)学年同期会

日時：2023年9月9日(土)

会場：RISTORANTE E' VOLTA -il cielo- (三井ガーデンホテル銀座プレミア)

幹事：浅井卓也(064A)、耳塚淳(064B)、小川淳一郎(064C)、金城匡志(064D)

今回は30歳を迎える・迎えた節目にあたり、7年ぶりの開催です。

新型コロナの影響がようやく落ち着きを見せたこのタイミングでの同期会に159名中87名が集い、多感な時期を「1期生」として過ごした心のつながりを改めて深く感じる機会となりました。

当日は、栗原校長先生(当時)や担任団の先生をはじめ、お世話になった総勢8名の先生方にもご来席いただき、参加者は当時からの成長ぶりを報告できました。

各々結婚・出産・キャリアアップなど、それぞれのライフステージが一段上がるなかで互いの近況を共有しあい、卒業後に一人一人が歩んできた異なる道なりにお互い刺激を受け、小石川時代のかけがえのない思い出に花を咲かせ、と大いに盛り上がった時間でした。会では参加者から寄せられた在学当時の写真をスライドショーで流し、懐かしい思い出にも心が温かくなりました。

結びは私たちにとって永遠の「校長先生」である栗原先生にお言葉をいただき、生徒と先生との間のキーワードでもある「One for All, All for One」を全員で唱えて、次回の同期会への期待を寄せながらお開きとしました。

次回の中等1期生学年同期会は、35歳を迎える頃の2028年を予定しています。

(064B 耳塚淳・渡邊和真 記)



074(中等11期)成人記念同期会

去る1月8日成人の日に、小石川中等教育学校11期生の同窓会を開催いたしました。今回の同窓会は20歳になったことを祝う目的で開催し、140名という多くの卒業生が集まりました。私たちの代は、中等4年時の2月ごろからコロナ渦となり、中等5年時の行事が満足に行えなかったことや修学旅行に行けなかったことを踏まえても学年の大人数で楽しむ久々の機会となりました。

小石川卒業後約2年の年月は短いながらも多くの変化をもたらしたようで、久々に話す友人との会話も大いに盛り上がりました。各々違う大学に進学し、異なることを学びアルバイトやサークル活動にいそしむ中で、会話の節々から小石川時代との変化や成長を感じました。一方で、ユーモアがあり個性豊かな11期生であるのは変わっておらず、私の好きな皆の魅力を確認できました。

また、恩師の先生方からのビデオメッセージを頂戴し、会の中で視聴する時間を設けました。先生方との当時の思い出話や未来への激励などを聞いて参加者の皆が感動を覚えていました。他にも学生時代の写真をスライドショー形式で流すなど、小石川時代を振り返る時間を設けました。2時間と短い時間ではありましたが、多くの参加者の笑顔が見られ有意義な時間になったことを幹事としてうれしく思います。

2022卒業(074C)鎌形沙楽



GINGER GRASS modern thai vietnamese (代々木・小田急サザンタワー1階)

クラブ つながり



紫友美術会

～ AI を凌ぐ創作をめざして～

生成 AI（人工知能）がいよいよ身近なものとなって、アメリカでは絵画コンクールで入選した作品が、実は AI に寄って描かれたものと後日判明し、話題となりました。美術の分野でも一部の分野に AI が入ってきたとはいえ、最終的には人間の芸術的センス、インスピレーションは不可侵のものと思います。自作の油絵に死の直前まで加筆し、最後まで完成ということはないと言った画家の逸話も肯けます。

紫友美術会の会員諸氏も自らの感性を磨き、作品制作の達成感を味わいながら、AI を凌ぐ創作活動を楽しんでいるところです。

昨年は、第 34 回定期展覧会を 10 月に京橋のギャラリー「くぼた」で開催しました。出展者は母校美術部の生徒 5 名の作品を加え 26 名、様々なジャンルの 30 点余の作品が展示されました。



定期展覧会

また、本年 5 月 26 日には定例となりました「講演会」を「文京区立千石図書館」内「千石アカデミー」で開催し、会員の倉石泰子さん（012H）による「時を越えて受け継がれるアメリカン・キルト」と題する講演会を開催しました。倉石さんをご主人の倉石文彰様の仕事での赴任先であるアメリカ・カナダの 4 都市に 60 年代から長期間に住まれ、アメリカの伝統を伝えるキルトに出会いました。

新大陸に渡った移民たちの質素な暮らしの中で生み出されたキルトは、今に至る様々な手法とデザイン、色使いの作品が残されています。倉石さんご自身が制

作した作品の展示と合わせ、その魅力を縦横に語っていただきました。会場では、会員以外にも同期同級の皆



講演会

さんやキルトに関心のある方々が参加されました。

次に会員個々の活動等についても紹介したいと思います。昨年は、当会代表幹事の猪野忍さん（012B）の「建築たちスケッチ展」など出展、彫刻家植村公雄さん（020F）の横須賀での立体作品個展、日本画家横澤千恵さん（023C）の「東方展」出展と日仏文化交流としてのパリ展示会出展などがありました。



最後に、今年の第 35 回展覧会は、8 月 17 日から 22 日まで、文京シビックセンター 1 階のギャラリー「アートサロン」で開催します。猛暑を凌ぐ展覧会にご期待ください。また、スケッチツアー、美術館訪問などを企画し同窓会 HP でもお知らせします。関心をお寄せくださりご参加をお待ちしております。岡田謙司（020D）

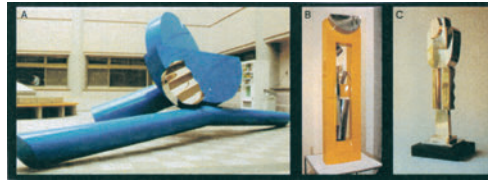


紫友美術会で充実の時を！

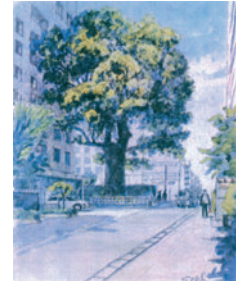
問い合わせ、入会申込は
shiyu.bijyutsukai@gmail.com



定期展覧会
スケッチツアー
美術館探訪 など



植村公雄(020卒)



「文京区本郷のクスノキ」
水彩 31.4×40.4cm
猪野 忍(012卒)

小石川つながり —交流のかたち—

1. 紫友まち歩き

～おめでとう!!「紫友まち歩き」は100回を達成、これからも頑張りましょう!～

●紫友まち歩き100回達成と100回記念誌発行

紫友まち歩き(旧85周年会まち歩き)の第1回は、2005年1月15日に実施されました。2023年12月2日に第100回「小石川正門からゆかりの地を巡る」が実施され、28名が参加しました。小石川中等教育学校(旧府立5中、旧小石川高校)正門前を出発し、旧明化国民学校(現明化小学校)と旧同心町校舎(現茗台中)のゆかりの地を巡りました。旧同心町校舎前で集合写真を撮りました。



又、紫友まち歩きの記録を広く配布し、関係者の手元に残すことにより、紫友まち歩き活動の意義を歴史に残す事ができるよう紫友まち歩き100回記念誌が、まち歩き世話人他有志により2024年1月に発行されました。多くの人から懐かしい思い出が沢山あったとか、参考にして自分でまち歩きを実施したいとかの反応がありました。100回記念誌と同じ内容のpdfが、以下紫友同窓会のホームページの「紫友まち歩き実施記録」(100回目のまち歩きの上段にあります)で楽しむことができます。

https://www.shiyu-dousoukai.jp/archives/a_dousousei/a_hito_koto/machi/index.html#listy



紫友まち歩き100回記念誌

● 2023 年度紫友まち歩きの実施状況

2023 年度は第 100 回の他に以下 3 回が実施されました。2023 年度は第 100 回の他に以下 3 回が実施されました。なお、まち歩きの記事は同窓会 HP 内で公開されています。URL は以下です。

紫友同窓会 アーカイブ

<https://www.shiyu-dousoukai.jp/archive/index.html>



・ 2023 年 8 月第 98 回：麻布大使館巡り

猛暑最中のまち歩きは 8 月 26 日（土）14 時六本木ヒルズからスタートしました。麻布周辺に多く立てられている大使館を巡り、懇親会を楽しみました。

参加者：14 名（途中から 2 名参加）

案内人：浅見 011G 懇親会参加者：16 名



・ 2023 年 10 月第 99 回：ゆらり舟旅小豆沢から両国へ

10 月 22 日日曜に志村坂上駅からゆっくりと 4 カ所ほどを見学し、水上バス乗り場から、両国に向かってゆらりと舟旅をするという、プチまち歩きでした。青空の中、気持ち良い、のんびりとしたまち歩きでした。

参加者：プチまち歩き：17 名、ゆらり舟旅：21 名、

案内人：横山 018G、懇親会参加者：19 名



・ 2024 年 3 月第 101 回：早春を探して郊外をゆっくり散策～西高島平から下赤塚～

2024 年になって初めての第 101 回紫友まち歩きが、寒いが晴天の中、実施されました。今回は地元の 3 名が案内人となり、3 つのコースに分かれて楽しむことになりました。

参加者：まち歩き：18 名、案内人：小林（俊）016A、今西 018F、横山 018G、懇親会参加者：14 名

まち歩きの記事は以下の URL で公開されています。

<https://go.shiyu-dousoukai.jp/archive-machi>



● 040 期以降の若い世代の参加者を期待しています。あなたも参加しませんか。

参加者卒年は、06 から 040 まで 35 年と幅広い同窓生が参加しています。040 以降の幅広い仲間の参加で 200 回目の紫友まち歩きを実施できますように。

017D 小林偉昭

おもてなしの街 巣鴨地蔵通り

ミセスファッション サン・まつみや



〈芸術は心のビタミンです〉

巣鴨地蔵通り商店街は 今日にも元気に営業中



021G 松宮初枝

2. 第五回 紫友経済人交流会 開催報告

第五回紫友経済人交流会を、5名の初参加を含む26名の参加で、下記の要領にて開催致しました。

日時：令和6年3月2日（土）

講演会 14時～15時 交流会 15時～17時

場所：東京消防庁 スクワール麹町（JR四谷駅すぐ）

今回は、新たな会長として、日本商工倶楽部理事長で元みずほフィナンシャルグループ副社長の土屋光章氏（025E）をお迎えしての開催となりました。



土屋光章 新会長

講演会では土屋新会長に会長就任のご挨拶と共に、長年に渡り金融業界から日本経済を牽引してこられた現場経験にもとづく、他では聞く事の出来ない貴重なお話を「金融の仕事の歩んで 一自己紹介を兼ねて」と題してご講演頂きました。

その内容は、大学卒業後に入行された日本興業銀行の当時の役割や、トータルで長きにわたり携わられた、資産（Asset）と負債（Liability）双方の一元的総合監理（management）通称ALMについて素人向けの具体例を交えた解説から始まり、そのALM上の異常事態となった1990年の「ワイドフィーバー」、バブルの発生原因と崩壊への道筋、その後低迷する日本経済から銀行の再編・統合へ、そして何とここでも3銀行から2銀行へのALM組換えの超難題が……、加えて第一生命の株式会社化支援では820万人の保険契約者から300万人を超える株主データの作成タスクが、なのに証券保管振替機構（通称「ほふり」）は旧字体が受け入れ不能で大ピンチ等々、まさに現場感満載のびっくり箱のお話でした。

質問も、時まさに日銀の金利引き上げ観測を背景とした、今後の日本経済についてなど、時事的に盛り上がる内容で予定時間が不足する状況となり、事務局としては



盛り上がりの読みが浅く反省している次第です。

一方、交流会では、恒例の笠原幹事長の乾杯、戸叶

紫友同窓会長の来賓挨拶に続き、最初に小石川現役生が参画して挑戦しているロボット製作の国際大会「Hibana Project」について、一番の理解者であり応援隊長である鈴木善博さん（029C）からご紹介と協力をお願いを頂きました。



その後、新規参加者5名の方に自己紹介を頂いた後、これまでとは少し趣向を変え、10分程の長目の会員スピーチを着席にてゆっくりと落ち着いて拝聴する方式を採用しました。スピーチ者は澤田和哉さん（032B）と松田圭子さん（036D）にお願いしました。

澤田さんは、ソニー・フランス副社長退任後、LBICにてフランス駅弁事業を立ち上げると共に、現在は俳優を本業とし、なんと鎌倉殿の13人や「半沢直樹」「DCU」等多数の有名ドラマにご出演されているそうで、楽しいエピソードをご披露頂きました。



松田さんも多角的にご活躍され、本業のIT企業メタデータ（株）の他に、個人事業のAIを用いたカウンセリング対話エンジン「やわらかネコ」の開発にも取り組み、またジャズシンガーとして月数回のライブ活動を精力的にこ



なされており、これまでの人生経験を交えてお話を頂きました。

このような和気あいあいの懇親の場を2時間満喫し、最後は野村副幹事長の中締めで散会となりました。ご参加頂きました皆様に改めて御礼申し上げますと共に、今後とも本会へのご理解ご協力をお願い申し上げます。

末筆ながら、前会長の豊田皓様には、本会設立にご賛同頂き初代会長としてご尽力賜り、誠に有難うございました。心より感謝申し上げます。今後とも顧問として応援をお願い申し上げます。

紫友経済人交流会 事務局長 大村 仁 (031H)



「銀座の隠れ家」として銀座で25年
小粋な和服美人のお洒落なお店

「こ 輪」



銀座 8-6-20 銀座八番館ビル 6階 (並木通)
TEL: 03-3573-0770 中尾 輪子 (042H)
korin-nakao@nakawa.co.jp

3. バスケ部 OB 有志 (031 ~ 033) 忘年会

昨年の12月、男子バスケットボール部有志による忘年会を開催しました。今回高校時代の仲間が久しぶりに集まることになったきっかけは、我々の代のキャプテン 榊野さん (032E) の熱い思いだったのです。

そもそもはバスケットボール男子日本代表チームがパリ五輪への出場権を獲得した「2023年のワールドカップ」での選手たちの奮闘に感動した榊野さんからBリーグの試合を観に行かないかと誘われたのですがタイミングが合わなかったのと、今はバスケ熱が高まって観戦チケットを取るのも結構大変だったため、「年末にメンバーを募って忘年会をしないか?」と提案をしたのです。

榊野さんが取りまとめ役となり、10月頃から会場探しとメンバーの発掘・拡充に努めました。当日は自分たちの上下の代からも参加者があり、神楽坂のお店に総勢10名が集い、昔話を花を咲かせました。

男子バスケットボールチームの五輪出場がきっかけとなったこの集い、さらに参加者を増やしてまた続けて行

きたいと考えています。(032I) 富田晴彦

【開催日時/場所】

2023年12月13日(水) 場所: 花かぐら(神楽坂)

【参加者】10名 中原英雄(031A) 清水茂(031D)
福田吉治(031E) 榊野拓路(032E) 佐々木晋(032G)
樋泉昌明(032G) 宇城泰樹(032I) 田中真也(032I)
鈴木宏明(033F) 富田晴彦(032I)



同窓生からの便利

— 2023年度に同窓会事務局に届いたお便りから3通をご紹介します —

1. (五中・23回E組) 向 高男さんより

拝啓

雑誌「暮らしの手帖」1991年33号、34号記事「デルタの記」岡田春（ハル）著（現在は単行本で販売）これは広島で被爆した著者の1945年8月6日から15日頃までの被爆体験記です。



この程、向高男（ムコウタカオ、94歳）が英文翻訳しました。A4、約50ページです。この度、日本原水協様（文京区）のご協力により、そのホームページに掲載されましたので下記リンク先をご覧ください。幸いです。

<http://antiatom.org/hibakusha/2023/07/02/66/>



(The Delta of Hiroshima)

極めて悲惨で恐ろしい原水爆のない世界を作るためにこれが海外で広く読まれることを心より願っています。今回は資金不足で出版に至りませんでした。将来的には海外向けに出版を望んでおります。

敬具



拝復

母校の同窓会からの一報、喜びを感じております。向高男本人の写真（右）は2024年5月17日（95歳）のものであります。

尚、私の翻訳本（英文）山本常朝「葉隠」の英訳「Hagakure」（北星堂出版・1980）も折があればご披見ください。

2. クラス文集を発行

この度、傘寿を祈念してクラス会文集を発行しました。これまで、ほぼ50年間、年1回のクラス会を（コロナ期の2年間を除き）ずっと欠かさずに開いてきました。紫友同窓会誌には、一度も投稿しておりませんでした。罪滅ぼしにお送りしますので、参考までにご笑納下さい。他の同窓クラス会でも、このような文集を創るのも良い思い出になると思います。



(伊東 章)

013E 文集 「わが小石川の思い出」 発刊の言葉

私たちが小石川高校に入学したのは、昭和33年（1958年）4月（転入生は少し遅れましたが）のことです。丁度岸信介内閣の時に、級友の横田君のご尊父が最高裁長官をつとめている時期でした。朝鮮戦争による特需景気により、日本経済は成長期に入っていましたが、まだまだ一般庶民の暮らし向きは苦しい時代でした。1959年から始まった日米安保条約改定反対運動等の波が高校にも押し寄せる中で学んだ私たちは、アメリカでケネディが大統領になった頃高校を卒業しました。

戦後の激動時代に高校で学んだ私たちは、その後それぞれが高度成長の戦士として各分野で闘ってきましたが、日本経済の黄昏とともに全員が傘寿を迎えました。級友の大半が第一線から退き、その間多くの仲間が鬼籍に入りましたが、無事傘寿を迎えられた者で、小石川時代の思い出を一冊にまとめて残そうではないかと、何人かの発案によってこの小冊子は生まれました。（一部抜粋）



3. 紫友文庫に(故)村尾基さん(028H)のご著書「ヴェローナの月」が奥様より寄贈されました

以下は、それに添えられた鶴見恵子さん(031F)のお手紙です。

著者の村尾基(むらおもとい)さん(028H)は、1981年に音楽関係の会社に同期150人と共に入社。その同期のひとりに私の夫がいました。

私は、1986年に結婚、浜松で新婚生活が始まりました。東京の親元を離れて心細かった頃、夫から同期の友達として紹介された村尾さんが小石川の先輩!と知った時はとてもうれしかったことを覚えています。

ほどなくして村尾さんは転職され、浜松から東京へ移られましたが、途絶えることなく、夫とは長い付き合いをさせて頂きました。

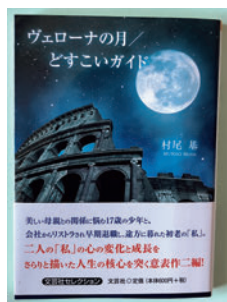
村尾さんは、退職後、難関の全国通訳案内士を取得し、外国人観光客のガイドをする傍ら執筆活動をされたり、ピアノを楽しまれたり、本当に多才な方でした。

この「ヴェローナの月」は、2020年第15回ちよだ文学賞の大賞最終候補になった作品です。

残念ながら村尾さんは、この本の出版を見届けると同時に2024年2月、1年7ヶ月の闘病生活の末、お亡くなりになりました。

辛い治療にも決して弱音を吐かず、奥様の支えを受けながら前に進んでいく姿に夫と共に奇跡を祈っていましたが、ひと足先に旅立ってしまいました。

奥様に紫友文庫のことをお伝えしたところ、ぜひ母校にと寄贈いただきました。もう二度と会うことは叶わなくなりましたが、村尾さんの優しい笑顔が目に見えます。きっと喜んでもらえると思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



031F 鶴見恵子(旧姓齊藤)

<https://www.bungeisha.co.jp/bookinfo/detail/978-4-286-24936-0.jsp>
(文芸社 HP)



ルービンシュタイン&ブゾーニ
両国際コンクール日本人最高位第2位!

9/20
Fri

桑原志織 ピアノ
リサイタル

杉並公会堂19:00~
S席4,000円・A席3,500円・学生1,500円
65歳以上-500円引き シニア割引あり

♪ 演目: シューベルト、ブラームス、リストより

♪ お問い合わせ: ジャパン・アーツぴあ
0570-00-1212

♪ 母は 033E組 地学土屋先生クラス
女子軟式テニス部 旧姓 鈴木良子さん



日蓮宗 立應寺

(りゅうおうじ)



仏事全般 所願ご祈祷 本堂葬できます

住職 関口健勇(031G)

【立應寺(りゅうおうじ)住所】

東京都足立区大谷田2-21-13(最寄駅はJR亀有)
TEL 03-3605-8250

事務局だより

事務局長 (兼) 戸叶司武郎 (027C)

事務局は、031D 清水茂、030A 清水潤子、035G 駒田晴美の3人で担当しています。原則として火曜日と金曜日が在室日ですが、その他の日は留守電、FAX、メールにてご用件を承っておりますので、お気軽にご連絡ください。

ホームカミングデー

昨年度より再開したホームカミングデー。本年度も学校創作展に合わせて9月15日(日)に開催予定です。詳しくは同窓会ホームページでお知らせします。

評議委員について

同窓会と会員をつなぐパイプ役として、各クラスから1～3名の方を評議委員として選出していただいています(評議委員の一覧はホームページを参照ください)。評議委員の皆様には、クラスを代表して同窓会の運営・活動への提言、ご意見などをいただいております。

登録、欠員が生じているクラスは、クラス会幹事など実質的に活動されている方にお引受けいただき、事務局へご連絡ください。また、評議委員会への出席率向上の為に、可能であれば各クラス2名以上の方を選任いただきたく、宜しくお願いします。

東洋文庫ミュージアムの利用について

年会費を納入された会員の方は、無償で同施設の観覧、利用ができます。利用希望者は、事務局にて会員証を発行しますので、初回利用日の2週間前までに事務局へご連絡ください。尚、東洋文庫の施設工事が始まるため、2025年1月～10月頃までミュージアムが休館となります。ご注意ください。

名簿の変更について

引越しや改姓などによる登録情報の変更がある場合には、次のどちらかの方法で変更・届け出をお願いします。

- ① 「Web名簿管理システム」にログインして、ご自身で変更する(「Web名簿管理システム」を利用するには、メールアドレスの登録が必要です。未登録の方は、事務局までメールアドレスをお知らせください)。Web名簿管理システム <https://shiyu.alumnet.jp>
- ② 住所・姓名等の変更内容を、事務局まで電話、Fax、メールで連絡する。

会費の納入について

紫友同窓会の運営は会員の納入会費によって成り立っています。財政運営状況を健全に維持するために、2014年から、毎年2,000円の会費を納めていただいております。納入には下記4種類の方法があります。

- ① 郵便局：会報の宛名台紙に印刷された「払込取扱票」をご利用ください(振込手数料は同窓会負担)。
- ② 銀行振込：紫友同窓会口座にお振り込みください(振込手数料はご負担ください)。
※振込の際は、必ず「卒業回または卒年次」「クラス」「お名前」をご記入ください。(記入例 030A シユウタロウ)
- ③ コンビニ支払・スマホ決済：2022年度より導入しましたので、宛名台紙に印刷された「払込取扱票」をご活用ください(手数料は同窓会負担)。
- ④ 口座自動引落し：毎年振込の煩わしさを解消するため、「口座振替サービス」を導入しています。口座振替依頼書はホームページに掲載していますが、見られない方は事務局にご連絡いただければ郵送いたします。今年度分からの口座振替を希望される方は、事務処理の都合上10月15日迄にお申し込みください。(振替予定日は11月27日です)

紫友スタジオ

百周年記念事業の目玉として取組んだ「紫友交流室」で、リアル交流の活動拠点となる「紫友スタジオ(収容人数：約20人)」が開設されました。場所は、不忍通りをはさんだ学校の向かい側、1階にキャピタルコーヒーがあるビルの地下です。クラス会、会議・セミナー、楽器練習等に、是非ご活用ください。

問合せ先：k100kouryusitu@gmail.com

紫友文庫

会員の皆様から寄贈された同窓生・小石川に関する著書を「紫友文庫」と名付け、配架しています。一覧はホームページでご覧ください。閲覧・貸し出しは事務局までご連絡ください。

「紫友みらい基金」へのご寄付のお願い

母校創立百周年を契機に、教育支援・交流促進・小石川の杜プロジェクトの3つの「新しい同窓会活動」がスタートし、活動を継承する基盤として、百周年募金の残余金を原資に「紫友みらい基金」が創設されました。10年間で約1億円の費用が見込まれ、会員・客員の皆様からのご寄付をお願い申し上げます。

基金名称：紫友みらい基金

1. 募金の目的

- ① 教育支援活動の継続、推進
- ② 交流促進活動の継続、推進
- ③ 小石川の杜プロジェクトの継続、展開

2. 募金目標額 1億円（2019年～10年間を想定）

【返礼品の贈呈】

一口5,000円以上のご寄付に対して、ご協賛いただいた同窓生より提供されたオリジナルの物品・サービスを、返礼品として贈呈いたします。右記、返礼品一覧表の該当カテゴリからご希望のものを1点お選びいただき、下記により申し込みください。

※ご寄付1回毎に贈呈し、期間内に何回でも可。

※当基金への寄付は、税の優遇措置・控除対象には該当しませんので、あらかじめご了承ください。

【ご寄付と返礼品の申し込み方法】

① 郵便局：会報の宛名裏面に印刷された「払込取扱票」をご利用ください（手数料は同窓会負担）。

票の「通信欄」に希望の返礼品をご記入ください。

（例）A-1 希望

② 銀行振込を利用されて紫友同窓会口座にお振り込みされる方は右記QRコードをよみとり、申込みフォーム希望返礼品をお選びください。



※年会費2,000円と合算した額をお振込みください。

振込金額のうち、会費2,000円を超える金額が「紫友みらい基金」へのご寄付となります（会費が優先的に納入されます）。

【返礼品一覧】（2024年6月現在）

※カテゴリ＝ご寄付金額の上下限度額

カテゴリ A (5,000円以上 10,000円未満)

- A-1 野老朝雄さん (040E) 意匠マグネット (紫)
- A-2 懐かしの校舎イラスト絵葉書セット (紫)
- A-3 オリジナルマスクケース (紫)

カテゴリ B (10,000円以上 20,000円未満)

- B-1 スマホホルダー“elastiX” (塚)
- B-2 和柄小物 (文庫ブックカバー) (窪)
- B-3 ロワイヤルヴェルジュ (蒲萄調味料) 1本 (中)
- B-4 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ 1Kg (安)
- B-5 書籍「我らは伊藤長七の教え子だった」 (紫)

カテゴリ C (20,000円以上 50,000円未満)

- C-1 和柄小物 (名刺入れ) (窪)
- C-2 蒲萄ジュースとヴェルジュセット (中)
- C-3 クリエイトファーム産 赤ワイン 1本 (中)
- C-4 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ 5Kg (安)
- C-5 小石川百年史誌 3部セット (紫)

カテゴリ D (50,000円以上)

- D-1 クリエイトファームブドウ狩りセット (中)
(ワイン+ジュース+ヴェルジュ各1本)
- D-2 ショコラ房商品詰め合わせ (伊)
- D-3 久右衛門邸ランチコース 1名様食事券 (伊)
- D-4 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ 10Kg (安)
- D-5 カシミアストール (百周年記念制作品) (紫)
- D-6 ペンションムーミンパパ 1名宿泊券 (太)

※協賛同窓生の略称

塚田憲さん (017D) =塚、太田善万さん (021G) =太、窪田慎三さん (022D) =窪、中村良行さん (029F) =中、伊藤紀幸さん (035E) =伊、安城守英さん (053F)・あゆみさん (058D)

会費・寄付の振込先「紫友同窓会口座」

【郵便局】口座番号 00110-2-11869

加入者名「紫友同窓会」

【銀行】みずほ銀行駒込支店

普通口座 0629241

名義「シユウドウソウカイ」

※振込の際は、必ず「卒回または卒年次」「クラス」「お名前」をご記入ください。（記入例：030A シユウタロウ）

※使途を指定される寄付は「お名前」の後ろに下記の数字を付記してください。（記入例：030A シユウタロウ -3）

教育支援活動（教育支援口⇒1）交流促進活動（交流活動口⇒2）小石川の杜PJ活動（環境企画口⇒3）

※問い合わせ 紫友同窓会事務局 原則として、火曜と金曜の10時から17時まで在室

Tel/Fax 03-3945-1961（留守電あり）

メールアドレス jimukyoku@shiyu-dousoukai.jp

銀行振込の方向け
返礼品申し込みQRコード→



○逝去者一覧

前号の発行以降に事務局にご連絡いただいた方々です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日	卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日
旧職員(教頭)	安蔵復也	2022.8.23	04F	吉村章平	2023.1.15
旧職員(英語)	鈴木 宏	2023.8.12	04H	田島良雄	2023.10.16
旧職員(事務)	関 弘徳	2021.2	04H	山田隆夫	
旧職員(地理)	荒井和子	2023	05B	金持民明	2023.2.2
五中5D	小宮山寛	2009.7.31	05C	磯崎弘毅	2018
五中17A	船田泰雄	2001.8.13	05C	高林敏夫	2022.10.31
五中17D	島田健一	2005.11.16	05D	永岡禄朗	2022.8
五中18A	平田欣一郎	2014.6.18	05E	門山吉彦	2023.9.7
五中18C	渡部 武	2022.12	05F	前田 実	2023.10.24
五中19A	川上正太郎	2021	05G	稲垣秀夫	2023.3
五中19E	向山和彌		05G	田中信義	2023.2.11
五中20C	塚脇公一	2023.9.30	05G	金光紀子	
五中20E	吉井 敏	2022.12.2	06C	石館昌二	2023.7.15
五中22A	石山多見男	2021	06C	新田俱也	2022.6.21
五中22B	丹下一郎	2023.6.21	06D	高田純一	2023.2.19
五中22C	小野田克己	2023.9.28	06D	成島忠昭	
五中22C	関 英彦	2022.2.12	06E	秋山承二	
五中22B	石井邦男	2022.9.30	06E	鈴木深雪	
五中22D	中蘭 崇	2023.3.11	06E	友永世英	
五中25B	森戸現二		06F	秋場朝太郎	2023.8.2
五中26A	古谷 裕	2020	06G	青木恒子	2022.3.5
五中26C	寺尾正也	2023.1	07C	間瀬岩夫	2021.1.31
01A	香田真一	2024.3.19	07D	荒 和雄	2017
01A	平岡 真	2022	07D	川嶋英夫	2018
01C	高橋令治	2021.1.1	07D	露木 孝	2023.5.20
01D	植木俊一	2022.7	07E	広沢 勉	2024.3.8
01D	築 毅	2024.4.16	07F	松丸 博	2021.9.29
02C	村田喬介		07H	内海 勉	2022
02F	小椋康夫	2013.9.9	07H	小宮 登	2023.9.20
02F	京野栄一	2023.9.5	08C	関 顕	2021.1.6
02F	高橋英治	2022.9.26	08D	小平勝朗	2023.9.3
03A	竹内謙太郎		08E	清水好一	2023.8.9
03B	坂倉 匡	2023.7.11	08E	松石献治	2023.4.26
03C	加藤正晴	2024.1.14	08E	小林幸雄	
03C	小松原道彦	2020.12.6	08F	神田 滋	2021.7
03D	大澤 決	2023.1	08G	岩崎基子	2023.2.22
03E	山本浩己	2018	08G	岸野匡伸	2023.7.30
04A	大里泰久	2023.5.8	08G	小池賢博	2021.6.16
04A	吉田憲司	2023.3.26	08G	佐藤歌之介	
04B	石川博之		08G	小川愛子	2020.2
04C	石黒 敢	2020	08G	玉川智也	2022.2.28
04F	田中房代	2023.8.15	08G	長谷川稔	2022.9

卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日	卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日
08G	服部 修	2019	014E	堀田守久	2021.8
08G	持丸正義	2021.11.21	014E	森 健一	2023.8.22
08G	吉村真徳	2023.4.12	014H	伊藤聖治	2023.9.30
09A	井川和子		014H	渡辺義孝	2023.10.4
09A	郷 茂巳		015A	松原隆志	2023.6.28
09B	長澤信光	2024.1	015A	横堀 肇	
09B	藤井茂博	2022.1	015F	吉田静司	2021.11
09C	伊東順一	2023.1.6	015G	鹿兒島正豊	2024.1.8
09D	小川 博	2022.12.29	015G	齋藤雅弘	2022.11.8
09D	西沢国雄	2023.5.13	015G	細川勝由	2024.1.5
09E	吉原暉文	2023.3	016A	大木慶子	2022.11.12
010A	小松原繁隆	2022.11.4	016F	林 哲史	2023.6.10
010A	中山春夫	2022.8	016F	吉田武彦	2019.1.28
010B	高尾竹彦	2021	017A	青木一正	2016.4.14
010C	吉森正喜	2023.3.2	017C	中地 享	
010D	岩井清三郎		017C	山本 明	
010D	白石 昭		017F	山中達夫	2022.7
010E	石原吉嗣	2023.5.9	017H	小島房代	
010E	亀井禧精	2023.8.15	018B	浅沼静枝	
010F	椎谷 正	2023.8.11	018C	佐川宗行	2023.6.27
010F	干鯛真信	2023.4.5	019E	内保 寛	2023.2
010H	栗原ヨネ	2023.3.2	020A	川口由紀子	2024.1.12
010H	山口 修	2022.4	020H	成田晴雄	2023.6.9
010H	菅原のぶ子	2022.12.4	021B	小宮清子	2023.1.15
011C	石井三郎	2023.4.30	022E	野中俊秀	2024.1.8
011C	福田潤彌	2023.4	022F	田中光芳	2022.2.18
011E	下田英雄	2023.9.12	023A	葛田晴美	2021.9.18
012A	小林義行	2023.10.5	024D	竹山年郎	2024.4.7
012A	小山 泰	2021.12.6	025A	二瓶栄一	
012B	長岡省三	2018	026B	嶋沢裕志	2024.3
012D	内藤貴夫	2021.7.7	026C	杓掛英雄	2023.6
012F	佐藤安弘	2022.12.11	027C	荒井優二	2019.2.27
012H	浅川誠一	2023.8.9	028H	村尾 基	2024.2.12
013A	高瀬義道	2023	029G	宮川裕之	2021.11.14
013E	岡村信一		029H	村松和彦	2022.8.4
013E	岩崎富士子		029I	篠原敬身	2022.10.12
013E	神谷国男		030D	小林則彦	2022.6.8
013E	村木 薫		031D	江森雅行	2024.2
013E	杉浦義朗		032H	末松智子	2019.7.4
013E	谷本政則		033I	小林 肇	2023.12.15
013E	長山 勝		034C	田中典子	2023.7.12
013E	正岡 勲		035B	徳原智庸	2023
013H	中島利信	2023.3.21	035D	杉本浩之	2023.6.15
014E	片岡雅憲	2023.10.14	037D	河村 潤	
014E	国谷紘一	2023.7.1	040H	阿部天洋	2022.8
014E	小杉佳次	2022.11			

表紙の言葉 「肥後の」

横澤千恵 (023C)

この作品は、私の所属する東方美術協会の第56回展で龍子記念館奨励賞を受賞しました。東方美術協会は日本画家川端龍子の弟子たちにより結成された美術団体で、龍子が設立した「青龍社」の掲げた「健剛なる精神」を継いでいます。私はここで平成4年第24回展からずっと出品しています。

近代日本画の巨匠横山大観の興した「院展」は、今日の日本画界の中心中核を担っています。大観より10歳年少の龍子は、30代半ばで「院展」から離れ、日本画の神髄である「線」の芸術を独自に追求しました。その表現は水墨画に通じ、血と汗と涙の身体性をもって日本文化を継承した龍子を私は尊敬しています。

「萬葉集」 柿本人麻呂の和歌

「ささの葉 みなものさやに さやけども われはものおもふ わかれ来ぬれば」

この歌は人麻呂が赴任した石見の国から奈良への旅の途中、残してきた妻を想って歌ったものです。この時、人麻呂が見たのは、木々や草花、鳥や獣、昆虫や微生物、たくさんの命が密集し、騒めき囁き合って勝手に蠢いている山の姿でした。旅行く人麻呂はそれらに対峙して、なにかしらの不安に駆られたはずで

「肥後の」のモデルは、阿蘇五岳カルデラを取り巻く外輪山、私の父の故郷です。「いつ死んでもいい」が口癖の、特攻隊の生き残りのように勇ましかった父は、この山容を立ちはだかる壁、超えていくべき壁と見たのでしょうか。あるいは私や人麻呂のように魑魅魍魎の棲家とみたのでしょうか。

普段、外輪山に滝はありません。ある年の9月、大型の台風が来て突然、外輪山に滝が何条も現れ、見慣れた風景が一変しました。その驚きとともにいろいろな想いを巡らせて描いた作品です。

編集後記

○本誌「同窓生訪問」の相棒、嶋沢裕志さん(026B)と出会ったのは12年前のこと。亡くなった担任ゴン次さん(鈴木由次先生)を偲び、先生の文章をまとめた022Eクラス文集を発行と会報に報告したら、その記事を読んだ4つ下の026Bの方から声が掛かり、池袋で先生の思い出を語る交流会を持ちました。

○在学中に作ったというクラス文集を持参して、フリーのジャーナリストだと名乗ったシマちゃんは、見るからに「新聞記者」然としていましたが、人柄は温かく、私たちにはゴン次に仲人を頼んだ共通点がありました。

それから会報インタビューの助っ人として7年間、本誌に登場した同窓生の方々に、遠慮なく直球の質問を投げる役を引き受けてもらいました。終わると毎度居酒屋に繰り出して、いつしか談論風発、日本の政治や社会のあるべき姿を語るシマちゃんは、どこまでも己の生き方に正直な“じゃあなりすと”でした。別れは突然だったけど、今頃、ゴン次と何の話をしているのかなあ。

○今号では「我ら小石川農業人」と題して、地方で様々な農業と関連活動に取り組む同窓生を紹介しました。東京とその周辺に生まれ育ち、今老いていく小生には、皆さんが選んだ大地と共にする暮らしをなかなか想像できません。「開拓の心」に共感し、ささやかな応援のエールを送ります。(並)

お知らせ

- ◎「会報」の編集作業に興味のある方を大募集中
→あなたのアイデアで新しい誌面づくりを
- ◎次号「特集」(こんな企画を構想中)
《小石川 ミュージック ストリート》
→卒業後、音楽活動に携わり活躍中の同窓生をジャンルや垣根を超えて紹介します。
→事務局に活動の情報をお寄せください

紫友同窓会会報 第52号

2024年8月9日 発行

発行：都立小石川中等教育学校 紫友同窓会

事務局：〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-29

都立小石川中等教育学校内

TEL・FAX 03-3945-1961 (留守電アリ)

(原則火・金曜日の10時から17時まで在室)

メールアドレス jimu-kyoku@shiyu-dousoukai.jp

※同窓会事務局のアドレスが変更になりました

ホームページ <https://www.shiyu-dousoukai.jp>

(または“紫友同窓会”で検索)

印刷所：株式会社アイワード

非売品

この会報を丸昌池袋店にお持ちになった方は

全てのレンタル衣裳

振袖・卒業衣裳・男子紋服など

▶10%OFF!

成人式の
振袖も
10%OFF!

●晴れ着の丸昌池袋店の
み有効

●その他割引・優待サービ
スや互助会カード、特約店
が発行する丸昌紹介カード
のご利用不可

●草履やブーツ・その他の
単品レンタル、特価品や販
売品、着付け・美容・撮影
料は対象外

●レンタル合計44,000円(税
込)未滿は別途送料2,200円
(税込)必要

●衣裳で成約後の割引は不可

●卒業衣裳予約は6月中旬
から翌年3月末迄

●有効期限 2025年9月末迄



池袋駅西口より徒歩5分。(ご入店は16時頃まで)

この広告ページを
撮影した写真のご提示
でも割引いたします



紫友同窓会 × 晴れ着の丸昌
ハートフルコミュニケーション
晴れ着の丸昌 池袋店
0120(870)511 9:30~18:00 火曜定休

〒171-0014
東京都豊島区池袋2-39-2
https://www.haregino-marusho.co.jp/



2024/6/9版



トラットリア・イタリア文京店
東京都文京区本駒込2-28-10 文京グリーンコート1F
JR駒込駅 徒歩8分 三田線千石駅A3出口 徒歩5分
営業時間 11:30 ~ 22:30 / 150席(個室2) / 年中無休 / 駐車場あり
yoyaku@kyoei-kikaku-group.co.jp



www.kyoei-kikaku-group.co.jp



中華料理「味珍(ミチン)」(旧千石中華)

(住 所) 文京区本駒込6丁目2-2
(千石1丁目交差点みずほ銀行角から巣鴨駅方面へ40m)
(営業時間) 午前11時~午後2時・午後5時~11時(日曜定休)
(電 話) 03-5976-1220 又は 090-8552-1198
※小石川同窓会・PTA/学校関係皆様のご来店を心よりお待ちしております
※宴会コース料理と予算については本会報広告を見たと言ってご相談ください
(店主)林 紹福(リン ショウフク)